

横濱港改築ノ件請議

横濱港ハ帝國ニ於ケル外國貿易高ノ過半ヲ占メ本邦第一ノ海港タルニ拘ハラズ其灣廣潤ニシテ風浪ノ遮蔽小ナク亦完全ナル埠頭ノ設テ船舶繫泊ノ不便貨物揚卸ニ困難ナル常ニ内外商業者ノ深ク愁訴スル所ナリ然ルニ輒近帝國ニ於ケル外國貿易ノ數額年ヲ逐テ増加シ船舶ノ該港ニ出入スルモノ彌多キヲ加ヘントスルノ時勢ニ赴キ又陸上ニ於テハ各地方ニ鐵道或ハ馬車道ヲ開クノ舉相踵テ興リ各地ノ貨物漸ク廣ク市場ヲ得ントスルノ便アリト雖モ海港ニ至テハ依然三十年前ノ舊態ヲ存シ前述ノ如キ不便困難アリ而シテ之ヲ不問ニ附スルハ管ニ目今ノ商勢ニ適應セサルノミナラス恰モ内外通商ノ門戸ニ障礙物ヲ放置スルト一般出入者ヲシテ稀疎ナラシムルノ傾向ヲ來シ目下漸ク興ラントスル陸上交通ノ手段ヲシテ充分ノ利用ヲ爲ス能ハス爲メニ其事業ヲ沮止セシムルニ至ルモ測ルヘカラス障礙物ヲ除却シ海陸聯絡ヲ圖リ内外ノ交通ヲ便利ナラシムルハ洵トニ目下通商上ノ急務ナリトス今其費額ノ收支如何ヲ案スルニ曩ニ英國人ゼチラル、パーマル氏ノ計畫スル預算ニ據レハ銀貨百六拾萬圓ヲ要セリ然ルニ茲ニ先年米國政府ヨリ返還シタル下ノ關債金ハ爾後國庫ニ保存シ殖利ノ方法ニ依リ現今元利ヲ總計シ金百貳拾四萬圓アリ之ニ今後兩三年ノ利子ヲ加フレハ大凡金百參拾五萬圓ヲ得可シ元來右返還ノ舉ハ米國國會ニ於テ數年討議ニ涉リ其間或ハ此返還金ノ使用法ヲ日本政府ニ豫約ス可シトノ議アリシト雖モ其議決スルニ至リテハ全ク帝國ニ對スル好誼ト公正ノ道理トニ基キ何等約束ナクシテ返還シタルモノナレハ其金額ヲ前述ノ如キ廣ク内外ノ通商ヲ増進スルノ目的ニ使用スルハ帝國政府カ德義上米國ノ政府人民ノ好誼ニ對スル適當ノ處置ナリト謂フ可シ故

ニ該費ノ支出ハ此金額ヲ以テ之ニ充テラレ其不足額ハ別ニ國庫ヨリ支出セラレタシ且又該港改築後收入スヘキ金額ヲ概算スルニ過去兩三年間該港ニ出入スル船舶貨物ニ對シ至低ノ噸稅ヲ課スルモ改築資本金額ニ對シ一ケ年五分已上ノ利子ニ相當スヘキ金額並ニ毎年修繕ニ充ツ可キ諸雜費ヲ徵收スルヲ得可シ前述ノ如ク已ニ内外貿易ヲ増進シ現今及將來商業ノ繁劇ニ應當ス可キ準備ヲ設クルノ必要アリ且費用ノ收支概算ニ於テモ相償フノ途アレハ此際速ニ改築ノ舉ヲ決定セラレ度此議決定ノ上ハ埠頭噸稅徵收ノ割合等ハ主務ノ官衙ニ於テ更ニ詳細ノ調査ニ附セラレ度尤本件ヲ實施スルニ當リ事外國ニ關係致候儀ハ當省ニ於テ取調可致因テ此ニ閣議ヲ請フ

明治二十一年四月二十三日

外務大臣 伯爵 大隈重信

内閣總理大臣伯爵 伊藤博文 殿

請議ノ通改築起工スヘキ見込ヲ以テ外國交渉ノ儀其省ニ於テ取調更ニ閣議ニ提出セラレハ

明治二十一年五月八日

右ノ如ク横濱築港費ハ下關債金返還部ノ中ヨリ充用スルコト、ナレルヲ以テ明治二十二年度ニ於テ之ニ屬スル公債證書ヲ賣却シ七拾萬圓ヲ臨時歲入へ繰入レ又明治二十三年三月二十九日在來ノ現金及公債證書賣拂代金合計六拾八萬九千百拾四圓七拾八錢壹厘ヲ總テ明治二十三年度一般歲入へ繰入レ以テ該部ヲ閉鎖セリ

第九 朝鮮政府補填金

朝鮮政府補填金ハ米國政府返還下ノ關償金並ニ「シーボルト」賜與金ト共ニ明治十八年七月一日國債局ヨリ預金局ヘ引繼キタルモノニシテ當時現在額拾萬六千六百九拾七圓五錢六厘ニシテ此内金札引換公債證書ハ拾萬六千六百圓現金九拾七圓五錢六厘ナリトス而シテ右補填金ハ預金局ニ於テ別途預金トシテ取扱其公債證書ヨリ生スル所ノ利益ヲ以テ金札引換公債證書又ハ整理公債證書ヲ購入シテ増殖ヲ計リ明治二十三年三月ニ至ル迄其取扱ヲ實施シ來リシカ明治二十三年度ヨリ新會計法ノ實施ヲ見ルニ及ヒ明治二十二年度末現在金拾參萬八千五百七拾七圓五拾五錢四厘ヲ臨時歳入ヘ繰入レ以テ該部ヲ完結セリ

朝鮮國政府ヨリ償還相成候填補金ノ儀ハ明治十七年十月十六日舊太政官ノ達ニ據リ爾來國庫中朝鮮政府補填金ノ一部ヲ試ク貯藏利殖セシモノニ候處今ヤ新會計法實施ニ付別途ニ之ヲ保蓄スルヲ得ス依テ本年三月三十一日ニ於テ該別途部ヨリ現在金拾參萬八千五百七拾七圓五拾五錢四厘ヲ拂出シ二十二年臨時歳入ヘ編入候條右報告ス

明治二十三年四月五日

大藏大臣 伯爵 松方正義

内閣總理大臣伯爵 山縣有朋殿

第十 「シーボルト」恩賜金

雇外國人「パロン、アレキサンドル、フオン、シーボルト」ノ恩賜金ナルモノハ從來國債局ノ取扱ニ屬シ

別途預リ金トシテ金札引換公債證書ニ交換シテ之レカ増殖ヲ計リ明治十八年七月一日預金規則施行ノ當初其取扱ヲ國債局ヨリ預金局ニ引移シタルコトハ前來既ニ陳ヘタル所ノ如シ今其引繼ニ係ル金額ヲ摘載スレハ即チ金壹萬九千六百六拾六圓五拾五錢六厘ニシテ此内譯金札引換公債證書壹萬九千六百五拾圓現金拾六圓五拾五錢六厘ナリ

而シテ預金局ハ國債局ノ取扱ト同シク別途預リ金トシテ一般ノ預金ト其計算ヲ區別シ以テ其公債證書ヨリ生スル所ノ益金ハ其都度金札引換公債證書ニ交換シテ倍々増殖ヲ計リ來リシカ茲ニ明治十九年二月ニ至リ「パロン、シーボルト」ノ請願ヲ聽許シ三月九日ヲ以テ現ニ保管スル所ノ公債證書ヲ悉皆賣却シテ現金ト爲シ更ニ一般ノ預金ニ組込ミ壹箇年六歩ノ利子ヲ附與スルコト、爲シ爾來其取扱ヲ爲スニ至レリ然ルニ「パロン、シーボルト」ハ西曆千八百八十八年即チ明治二十一年ニ至リ曾テ締結スル所ノ約定アルニモ拘ハラズ自己ノ一身上ノ都合ヲ申立テ該金下渡ノ義ヲ外務大藏兩大臣ニ請願シタリ是ニ於テ外務大藏兩大臣ハ曾テ増殖スル所ノ總額銀貨貳萬四千貳百貳拾圓九拾壹錢壹厘ヲ英貨ニ換算シ其金高三千七百八拾磅拾六志六片ト爲シ橫濱正金銀行爲替手形ヲ以テ此年十月十六日付之ヲ在伯林「パロン、シーボルト」ニ交付シ以テ其取扱ハ茲ニ全ク終了ヲ告ケタリ蓋シ此恩賜金ニツキテハ既ニ本章第一節ニ於テ掲ケタル明治十五年八月三日付ノ約定ニ依ルモ左ニ掲ケタル所ノ明治十八年十月一日付ヲ以テ締結シタル改正ノ約定ニ依ルモ明治二十五年八月一日ノ期限ノ到來スルカ又ハ日本政府カ「パロン、シーボルト」ノ職ヲ免スルニ至リシカ若クハ同人ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リテ該期限前本職ヲ辭スルノ止ムヲ得サルニ至リタル場合ノ外ハ他ニ該金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ明文ノ見ルヘキモノナク從テ當時「パロン、シーボルト」

ハ之カ請求ヲ爲スヘキ權利ナカリシナリ然ルニ前陳ノ如ク「パロン、シーボルト」カ單一身上ノ都合ヲ理由トシテ該金下渡ノ請願ヲ爲シタルカ如キハ契約ヲ重ンセサルノ行爲ニシテ「パロン、シーボルト」ノ爲ニ遺憾ナキ能ハスト雖モ却テ我政府ハ寛容以テ其請願ヲ聽許シ直ニ之ヲ「パロン、シーボルト」ニ下付スルニ至リタリシモノナリ

外 卿上申

明治十五年七月二十九日附特別機密ヲ以當省備「パロン、シーボルト」氏ノ勤功ヲ賞セラレ銀貨壹萬圓特別恩典トシテ下賜ノ儀及上申候處同年八月一日ヲ以右御允許相成候然ル處右上申書中ニ若シ本人ニ於テ忠勤ヲ怠リ或ハ本人ノ勝手ヲ以テ去テ彼ノ政府ニ勤仕スル如キコトアレハ之ヲ授與セサル等ノ約束ニ致置申可ト存候ト有之候處熟ラ勘考候ニ右金員下賜ノ儀ハ素ヨリ本人ノ忠勤ヲ賞セラレタル恩典ニ有之ニ右ノ如ク嚴里ナル約束ヲ加候ハ却テ其恩典タル効力ヲ毀損シ本人ノ感覺モ如何可有之且又我政府ニ於テ一個ノ紳士ヲ待ツノ途モ相欠キ聊不穩當ナラント存候ニ付右上申中前記ノ一章ハ御取消相成候様致度候間至急御允許相成度此段上申候也

明治十八年八月三日

外務卿 伯爵 井上 馨

太政大臣公爵 三條 實美殿

右指令

上申之趣聞届候事

明治十八年八月十九日

改正約定書

明治十五年(千八百八十二年)八月一日三條太政大臣閣下ノ御達ニ從ヒ誠實奉職ノ件ヲ以テ慰勞トシテ下賜セラレタル銀貨壹萬圓ニ係ル明治十五年(千八百八十二年)八月三日付ノ約定書ヲ左ノ通改正ス

第一條 上ニ掲クル壹萬圓ノ銀貨ハ日本紙幣(時價ナ)ニ交換シ以テ日本帝國ノ金札引換公債證書ヲ買入(時價ナ)ノ爲メ外務卿之ヲ大藏卿ニ預クルモノトス而シテ其公債證書ヨリ生スル利子又ハ利益ハ其收得ノ都度同公債證書ヲ買入(時價ナ)レ増スモノトス
然レトモ其公債證書ヲ買入ル、ニ足ラサル端數ノ金額ハ追テ買入レニ相當スル高ニ滿ルマテ無利息ニテ大藏省ニ預リ置クヘシ

第二條 日本帝國政府ハ明治二十五年(千八百九十二年)マテ「パロン、アレキサンデル、フォン、シーボルト」氏ヲ引續キ其職ニ雇ヒ得ヘキ望ヲ以テ大藏卿ハ明治二十五年(千八百九十二年)八月一日ニ於テ上ニ掲クル買入又ハ買増ノ公債證書ヲ時價ヲ以テ他ヘ賣却シ其代金及公債證書買入未滿ノ端金ヲ日本東京大藏省ニ於テ前記ノ「パロン、アレキサンデル、フォン、シーボルト」氏又ハ其公然タル代理者ニ相渡スヘシ但右同日以後同氏ノ引續キ勤務スルト退職スルトハ右渡方ニ關係ナキモノトス
右ノ如ク定ムルト雖モ若シ日本帝國政府ニ於テ不得止明治二十五年(千八百九十二年)八月一日以前ニ「パロン、アレキサンデル、フォン、シーボルト」氏ノ職ヲ免スルトキ又ハ同氏疾病其他事故ニ依テ該期限前ニ帝國ノ職務ヲ辭スル場合ニ於テハ大藏卿ハ其同氏カ辭職ノ日マテニ買

入タル公債證書ヲ賣却シ其代金并ニ其他ノ金額(アツハレ)ヲ前項同様ノ場所ニ於テ相渡スヘシ

第三條 若シ「パロン、アレキサンドル、フオン、シールホルト」氏明治二十五年(千八百九十二年)八月一日以前ニ死去スルトキハ其死去ノ日マテニ買入レタル公債證書ヲ賣却シテ其代金並ニ其他ノ金額(アツハレ)ヲ同氏カ法律上確定ノ相續人又ハ家産讓受人ニ相渡スヘシ

第四條 大藏卿ハ此約定ニ從ヒ其預リ金ヲ以テ買入タル公債證書増殖ノ計算書ヲ作り毎年一月ニ之ヲ同氏ニ報告スヘシ

(朱書)

但明治十五年八月三日付ノ約定書第五條ニ記載シタル領收證ハ大藏卿已ニ「パロン、アレキサンドル、フオン、シールホルト」氏ニ渡シタリ

右約定ノ條件如此候也

明治十八年(千八百八十五年)十月一日

日本皇帝陛下ノ外務卿

伯爵 井上 馨

日本皇帝陛下ノ大藏卿

伯爵 松方正義

「パロン、アレキサンドル、フオン、シールホルト」

貴下

反譯文

以書翰啓上仕候陳者拙者忠勤ノ義ニ對シ千八百八十二年帝國政府ヨリ下賜相成タル恩賜金ニシテ特別ノ方法ニ由リテ千八百九十二年マテ帝國大藏省ニ預ケ置クヘキモノヲ前陳期限經過前ナカラ今日拙者ヘ其處置法御任被下様奉願候實ハ拙者近者婚姻致様取極候ニ付拙者之財產モ自然其配致方ヲ變改不致ヲ得サル場合ニ立至候ノミナラス銀爲替相場日々下落致候ヘハ如斯テハ大ニ資産ノ價ヲ減殺スルコト閣下ニ於テモ御許容可有之ト存候扱右件ニ付舍弟ヘンリ「フオン、シールホルト」ニ委細ノ義委任致閣下ニ御相談仕尙拙者カ希望ノ旨申陳スヘキ様申聞置候間何卒御愛願アラシコトヲ偏ニ奉希望候惶誠謹言

千八百八十八年八月二十一日於伯林

「パロン、アレキサンドル、フオン、シールホルト」

外務大臣伯爵 大隈重信閣下

大藏大臣伯爵 松方正義閣下

「シールホルト」ヘ返書

千八百八十八年八月二十一日伯林府ニ於テ御認之貴翰披見致候陳者千八百八十二年帝國政府ヨリ貴下ヘ下賜ノ恩賜金ニシテ爾後特別ノ約束ニ因リ帝國大藏省ニ預リ有之候金額ヲ貴下ニ身上ノ都合ニ因リ期限ハ尙ホ數年ヲ餘スニ係ハラス此際下付相成度旨御申出之趣了承右ハ最前ノ約束ニ依レハ明治二十五年(千八百九十二年)八月一日ニ於テ御渡可致筈ニ候得共今般御申出ノ趣ハ無據次第ト存候ニ付即チ御請求ノ旨ヲ容レ此際悉皆ノ預リ金ヲ御渡可致事ニ評決致候仍テ

右預リ金ニ對スル本日迄ノ元利計算金二萬四千二百二十四九十一錢一厘別紙計算書ノ通別紙
 橫濱正金銀行ヨリ在倫敦同行支店：：へ宛タル爲換券ヲ以テ及御送付候條御領收ノ上正式ノ
 領收書御差出可有之候將又其節外務大藏兩卿ヨリ貴下へ宛タル千八百八十二年八月三日付ノ
 約定書同約定書第五條ニ因リ大藏卿ヨリ渡シタル領收證外務大藏兩卿ヨリ貴下へ宛タル千八
 百八十五年十月一日附ノ改正約定書並公債證書ヲ賣却シテ其代金ヲ預リ金ニ振替スルコトニ
 關シ千八百八十六年二月中ニ大藏大臣ヨリ貴下ニ送リタル書翰以上ノ書類取揃へ御返戻有之
 度候

前述ノ趣ハ貴下ニ満足ヲ與フル事ト確信致候以上

明治二十一年十月十六日

外務大臣 伯爵 大隈重信
 大藏大臣 伯爵 松方正義

「パロン、フォン、シーボルト」貴下

「パロン、シーボルト」ノ書翰

以寸楮致啓上候陳者千八百八十八年八月二十一日付ヲ以テ開陳仕候拙者ノ情願ノ義貴國政府
 ニ於テ御聞届濟ノ末千八百八十二年以降御預ケ置キ申候御賞賜金ニ對スル額高一時ニ御下付
 可被成下旨明治二十一年十月十六日附兩閣下御連署ヲ以テ御懇示被成下謹承仕候
 御賞賜金ハ御附添被下候計算書面ノ通り銀貨貳萬四千貳百貳拾圓九拾錢ニ相成英貨ニ換算シ
 三千七百八拾磅拾六志六片ニ候處橫濱正金銀行爲替手形ヲ以テ御送附被成下正ニ領收仕候拙

者ノ情願御聞届相成候手順ニ付而者甚々御配慮被成下深ク奉感謝候
 御下命ニ從ヒ日本文書類返納仕候(下略)

伯林千八百八十八年十二月六日

「パロン、フォン、シーボルト」

大藏大臣伯爵 松方正義殿
 外務大臣伯爵 大隈重信殿

以上本款ニ掲クル所ハ明治十八年七月一日以降同二十六年十月ニ至ルマテ大藏省預金局ニ於テ
 取扱ヲ爲シタル預金中特別取扱ノ部類ニ屬スルモノ、事歴ノ要概ヲ掲ケタルモノニシテ是等ノ
 預金中布哇國出稼人ノ貯金ニアリテハ二十三年七月三十一日限り一旦總テ拂戻シ後チ更ニ保管
 金トシテ取扱ヲナスコト、ナリ又中央備荒儲蓄金ニアリテハ二十六年十一月一日ヲ以テ一般ノ
 預金ト共ニ金庫出納役ノ取扱ニ引移シタルモ其他ノ會社銀行ヨリノ預リ金及帝室餘有金、パロン
 シーボルトノ恩賜金ノ如キハ何レモ其期間中既ニ拂戻濟トナリ又米國政府返還ノ下ノ關償金、朝
 鮮政府補填金ハ各之ヲ歳入ニ繰入レ以テ其取扱ノ終了ヲ告ケタリ然リ而シテ其中央備荒儲蓄金
 會社並ニ銀行ヨリノ預金、帝室餘有金及布哇國出稼人ノ貯金ノ計數ニアリテハ當時一般ノ預金ニ
 組込タルモノナルカ故ニ前ニ掲クル所ノ預金局預金收支計算表中ニ包含セシメタリト雖モ米國
 政府返還ノ下ノ關償金、朝鮮政府補填金及「パロン、シーボルト」ノ恩賜金ニアリテハ一般ノ預金以外
 ニ於テ別途ノ計算ヲ立テタルニヨリ別表ヲ以テ其收支ノ計算ヲ示スヘシ

預金局別途預金收支計算表

種類	預		決		算	
	國債引換受高	増殖高	計	歳入へ納付高	本人へ下戻高	計
米國ノ返還金	一〇七、四〇六	三、四七〇	一、三九九、二四	〇	〇	一、三九九、二四
朝鮮政府填補金	一〇六、六九七	三、一八〇	一、三八、五七七	〇	〇	一、三八、五七七
パロン、アレキサンドル、フオン、シーホルト恩賜金	一九、六六六	四、五五五	二、四二〇	〇	三、四一〇	二、四二〇
合計	二二〇、〇七〇	三、五〇五	一、五五、九一三	一、五二七、六九三	三、四一〇	一、五五、九一三

備考

本表預り高ノ金員ハ何レモ公債證書ノ原價ト端數ノ現金トチ併算シタルモノトス
 「パロン、アレキサンドル、フオン、シーホルト」恩賜金ハ明治十八年七月以降同十九年三月九日マ
 テハ特別預金トシテ取扱ヒ來リシカ同月十日以降ハ一般ノ預金ニ組込ミタルモノニシテ其
 金額貳萬七百五拾九圓壹錢四厘及爾後増殖ニ係ル金額ハ總テ預金計算表中ニ包含スルモノ
 ナリト雖モ特ニ預金局取扱以降最終ニ至ル迄ノ全額ヲ通計シ以テ讀者シ便覽ニ供スルモノ
 ト知ルヘシ

第三節 金庫直接取扱預金

大藏省預金局取扱ノ預金及預金ト公債證書ノ交換並ニ保管出納ハ明治二十六年九月大藏省令第
 二十二號ヲ以テ同年十一月一日以降金庫出納役ニ於テ直接ニ取扱フコト、ナリシカ大藏大臣渡
 邊國武ハ此省令ヲ頒布スルト同時ニ金庫出納役ノ取扱フヘキ預金及預金ト公債證書ノ交換並ニ
 保管出納ニ關シ省令第十九號ヲ以テ新ニ預金取扱規程及訓令第三十二號ヲ以テ預金保管物及供
 託物金庫出納事務規程ヲ左ノ如ク定メタリ

大藏省令第十九號 (明治二十六年九月二十日)

明治二十三年大藏省令第三十三號預金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

預金取扱規程

- 第一條 明治十八年布告第十三號明治二十三年法律第七十五號ニ依ル預金ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 預ケ人ニ於テ預ケ金ヲ爲ストキハ現金ニ第一號書式ノ拂込書及第二號書式ノ印鑑ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但第二回以後ノ預ケ金ヲ爲ス場合ニハ印鑑ヲ要セス
- 第三條 金庫ニ於テ前條ノ現金ヲ領收シタルトキハ第三號書式ノ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ケ人ヘ交付スヘシ
- 第四條 預ケ人ニ於テ預金ヲ以テ公債證書ノ購入ヲ請求スルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク該預リ金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ
- 第五條 大藏省ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ
- 第六條 大藏省ニ於テ預金制限超過額ヲ以テ公債證書ヲ購入スル場合ニハ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ購入シ之ヲ中央金庫ヘ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第五號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ人ヘ送付スヘシ

- 第七條 中央金庫ニ於テ前二條ニ依リ日本銀行ヨリ公債證書ヲ領收シタルトキハ第六號書式ノ保管證書ヲ調製シ之ヲ取扱金庫ヘ送付スヘシ
- 第八條 預ケ人ニ於テ公債證書購入済ノ通知ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ式ノ如ク保管證書領收ノ證印ヲ爲シ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ金庫ニ差出シ該通帳ニ購入代價ニ對スル預金仕拂ノ記入證印ヲ受ケ保管證書ヲ受取ルヘシ
- 第九條 預ケ人ニ於テ預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ第七號書式ノ領收證書ニ預金通帳ヲ添ヘ之ヲ其預ケ金ヲ爲シタル金庫ヘ差出スヘシ
- 第十條 金庫ニ於テ前條ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヘ式ノ如ク記入調印シ現金ノ仕拂ヲ爲スヘシ
- 第十一條 預ケ人ニ於テ公債證書全部ノ受戻ヲ請求スルトキハ保管證書ヘ式ノ如ク裏書ヲ爲シ第八號書式ノ請求書ト共ニ中央金庫ヘ差出スヘシ
- 第十二條 預ケ人ニ於テ公債證書ノ内幾分受戻ヲ請求スルトキハ第九號書式ノ請求書ニ第十號書式ノ領收證書及保管證書ヲ添ヘ之ヲ中央金庫ヘ差出スヘシ
- 中央金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ保管證書ニ式ノ如ク裏書ヲ爲シ該公債證書ト共ニ返附スヘシ
- 第十三條 中央金庫ニ於テ前二條ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書到達ノ日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ保管ノ公債證書ヲ交付スヘシ
- 書留郵便其他ノ運送便ヲ以テ遞送ヲ望ムモノアルトキハ預ケ人ノ危険ニテ之ヲ遞送スヘシ

- 第十四條 前條ノ遞送費ハ預ケ人ノ負擔トシ書留郵便ヲ以テ遞送ヲ要スルモノハ相當ノ郵便切手ヲ前以テ中央金庫ヘ送付シ其他ノ便ニヨルモノハ遞送賃金先拂ヲ以テ遞送スヘシ
- 第十五條 預金ノ利子ハ毎年三月末日ヲ期トシテ之ヲ計算シ其元金ニ組入ルヘシ
- 預ケ人ハ毎年六月預金通帳ヲ其預ケ入ヲ爲シタル金庫ヘ差出シ利子元加ノ記入ヲ受ク可シ
- 第十六條 元金ニ加ヘサル預金ノ利子ハ預金ノ全額ヲ拂戻ストキニ限り之カ仕拂ヲ爲スモノトス
- 預ケ人ニ於テ前項ノ利子ヲ受取ラントスルトキハ第十一號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ
- 第十七條 大藏省ハ前條第二項ノ請求書ニ依リ第十二號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ預ケ人ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ
- 第十八條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ仕拂ヲ受クヘシ
- 第十九條 預金ハ預ケ入タル月及拂戻ス月ハ其金額ニ利子ヲ附セス預金ハ拾錢未滿ノ端金ニ利子ヲ附セス
- 第二十條 第七條ニ依リ領收シタル公債證書ノ利子ハ中央金庫ニ於テ受取り取扱ノ金庫ヲシテ之ヲ其所有主ノ預金ニ組入レシメ第十三號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ之ヲ預ケ入ニ送付スヘシ
- 第二十一條 預ケ人ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金通帳ニ該通知書ヲ添ヘ其預ケ金

ヲ爲シタル金庫へ差出シ金額預ケ入ノ記入ヲ受クヘシ

第二十二條 預ケ人ニ於テ預金金額ノ拂戻ヲ受ケタルトキハ預金通帳ヲ返付スヘシ

第二十三條 預ケ人ニ於テ甲ノ金庫ヨリ交付シタル預金通帳ヲ以テ乙ノ金庫ニテ受渡ヲ請求スルトキハ第十四號書式ノ申込書及印鑑ニ預金通帳ヲ添ヘ乙金庫へ差出シ番記號ノ書換ヲ受クヘシ

第二十四條 預金ノ受渡ニ關スル書類ニハ共有ニ係ルモノハ其總代人二名調印シ又社寺教會會社ニアリテハ其名稱ヲ記シ且押印ヲナシ其擔當者一名記名調印スヘシ但法人タル會社ニアリテハ擔當者ノ記名調印ヲ要セス

第二十五條 前條ノ社寺教會會社ニシテ名義變更改印位置移轉シタルトキハ其旨金庫へ届出ヘシ擔當者總代人氏名變換改印轉住ノトキ亦同シ

前項改印ノ届書ニハ印鑑ヲ添フヘシ

第二十六條 前條ノ擔當者及總代人變更シタルトキハ前任者連署ノ届書ニ後任者ノ印鑑ヲ添ヘ金庫へ差出スヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立ツヘシ

(書式略ス)

大藏省訓令第三十二號 (明治二十六年九月二十一日)

金庫出納役

預金保管物及供託物金庫出納事務規程左ノ通相定メ本年十一月一日ヨリ施行ス

但明治二十三年當省第八百七十號達同年當省訓令第四十四號同年當省訓令第五十八號及同

年當省訓令第五十五號ハ本訓令施行ノ日ヨリ廢止ス

預金保管物及供託物金庫出納事務規程

第一章 總則

第一條 金庫ハ此規程ニ依リ預金保管物供託物ノ計算整理ヲ爲スヘシ

第二條 金庫ハ預金保管物供託物ノ受渡ヲ爲シタルトキ總テ其證憑書類ニ受入若クハ拂出ノ年月日及取扱金庫名ヲ記入シ置クヘシ

第三條 金庫ハ毎年四月ニ於テ預金受拂内譯簿ニ依リ前年四月一日ヨリ其年三月三十一日ニ至ル一箇年間ノ元加ニ爲スヘキ各自ノ預金利子ヲ算出シ之ヲ大藏省へ報告(第一號)スヘシ又其郵便貯金ニ係ルモノハ逡信省ノ請求書ヲ以テ大藏省へ報告スヘシ

第四條 金庫ハ大藏省ヨリ預金利子元加ノ通知(第二號)ヲ受ケタルトキハ之ヲ預金受拂内譯簿及日本銀行ヨリ受クル所ノ利子現金高ニ照合シ相違ナキヲ認メ各預ケ人ノ預金ニ元加ノ記入ヲ爲スヘシ金庫ハ預金ノ元加ニ爲スヘキ利子金ヲ日本銀行ヨリ受取リタルトキハ預金利子元加ノ通知書ニ添付ノ領收證書用紙ニ記入調印ノ上之ヲ日本銀行へ送付スヘシ

中央金庫ハ預金取扱規程第二十條ニ依リ公債證書ノ利子ヲ受入レタルトキハ中央金庫直接ノ取扱ニ係ルモノハ各預ケ人ノ預金ニ元加ノ記入ヲ爲シ其旨預ケ人へ通知スヘシ又各地金庫ノ取扱ニ係ルモノハ該利子金ヲ各地金庫へ送付シ各自預金ニ元加ノ記帳ヲ爲サシメ其旨取扱金庫ヲ經テ預ケ人へ通知スヘシ

取扱金庫ハ前項ノ通知書ヲ得タルトキハ各預ケ人ノ預金ニ元加ノ記入ヲ爲シ通知書ハ預ケ

人へ轉送スヘシ

第五條 金庫ハ預金取扱規程第十五條及第二十一條ニ依リ預ケ人ヨリ預金通帳ヲ差出シ利子記入ノ請求ヲ受ケタルトキハ預金受拂内譯簿ニ依リ其通帳ニ式ノ如ク記入調印シ之ヲ預ケ人へ返付スヘシ

第六條 金庫ハ毎年三月三十一日ニ於ケル各預ケ人ノ預金貳千圓ヲ超過スルモノ、金額ヲ各預ケ人ニ區分シ翌月中之ヲ大藏省へ報告書式第三號スヘシ

第七條 金庫ハ預金ヲ以テ公債證書購入ノ請求ヲ受ケタルモノニシテ其購入以前ニ現金拂戻ノ請求ヲ受クルモ購入スヘキ金額ヲ引去リ其殘額拂戻請求額ヨリ不足スルトキハ其不足額ハ仕拂ヲ拒絶スヘシ

第八條 金庫ハ預金取扱規程第五條第六條ノ公債證書購入濟ノ通知書及同規程第七條ノ保管證書ヲ受ケタルトキハ預金受拂内譯簿ニ請求者ノ預金額拂出ノ記帳ヲ爲シ保管證書ハ金庫ニ止メ置キ該通知書ハ預ケ人へ轉送スヘシ

第九條 金庫ハ預金取扱規程第八條ニ依リ預ケ人ヨリ預金通帳ヲ差出シ保管證書交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ該通帳ニ式ノ如ク記入調印シ保管證書ト共ニ之ヲ預ケ人へ交付スヘシ

第十條 預金取扱規程第二十三條ニ依リ預ケ人ヨリ甲金庫ノ交付シタル預金通帳及印鑑ヲ添へ預金取扱金庫換ノ申込書ヲ乙金庫ニ受ケタルトキハ乙金庫ハ預金受拂内譯簿ニ該預金引繼受ノ記帳ヲナシ該通帳ノ番記號ヲ書換調印シ之ヲ其預ケ人へ返付シ其旨直ニ甲金庫へ通知書式第四號スヘシ

甲金庫ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金受拂内譯簿ニ該預金引繼拂出ノ記帳ヲ爲シ其旨乙金庫へ通知スヘシ

乙金庫ハ甲金庫ヨリ前項ノ通知ヲ得サル前ニ預金拂戻ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ若シ該通知書ニ照合セサレハ事實明瞭ナリカタシト思惟スルトキハ該通知書ノ到達スル迄仕拂ヲ猶豫シ置クヘシ

第十一條 金庫ハ保管物取扱規程第十四條ニ依リ收入官吏ヨリ保管證書ヲ以テ歳入トシテ納付ヲ受ケタルトキハ保管金受拂内譯簿ニ該保管金拂出ノ記帳ヲ爲シ更ニ歳入へ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 金庫ハ保管證書ヲ發セサル保管金ノ期滿失效ニ至リタルモノアルトキハ毎月之カ調書書式第五號ヲ調製シ翌月中大藏省へ報告スヘシ

金庫ハ保管物取扱規程第十四條大藏大臣ノ令達ヲ受ケタルトキハ保管金受拂内譯簿ニ該保管金拂出ノ記帳ヲ爲シ更ニ歳入へ編入ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 金庫ハ保管物取扱規程第十六條ノ手續ヲ爲シタルトキハ保管金受拂内譯簿又ハ有價證券受拂内譯簿ニ朱書ヲ以テ舊保管證書ノ座ヲ拂ニ立テ更ニ新保管證書ニ依リ受入ノ記帳ヲ爲シ舊保管證書及其原符ニハ引換濟ノ年月日及新保管證書ノ番記號ヲ記入シ置クヘシ

第十四條 金庫ハ保管物取扱規程第二十條ニ依リ證明書ノ請求又ハ保管證書領收證書交換ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ事由書ヲ徵シ其確實ナルヲ認め證明書又ハ保管證書等交付ノ手續ヲナシ保管金受拂内譯簿又ハ有價證券受拂内譯簿ニ其旨記入スヘシ但舊保管證書又ハ領

收證書原符ニハ汚染若クハ毀損ニ付何年何月何日交換セシ旨及新證書ノ番記號ヲ記入シ置クヘシ

第十五條 金庫ハ供託物取扱規程第五條ノ送金手形若クハ爲替券ニ對スル現金ヲ領收シ能ハサルトキハ供託書ト共ニ之ヲ供託者ヘ返付スヘシ

第十六條 金庫ハ供託物取扱規程第七條ノ手續ヲ爲シタルトキハ之カ取扱ハ第十三條ノ例ニ準スヘシ

第十七條 中央金庫及本金庫ハ收入濟ニ係ル預金拂込書預金利子元加通知書各自預金購入保管公債證書ノ利子元加通知書預金取扱金庫換ノ申込書保管金又ハ有價證券ノ寄托通知書若クハ送付書供託書及其他ノ證書ハ預金^{保管物}ノ二種ニ區分シ一ヶ月毎ニ之ヲ編輯シ合計書ヲ添ヘ其帳簿ニ照查シ之ヲ保存スヘシ但中央金庫所屬支金庫ノ證書類ハ中央金庫ニ本金庫所屬支金庫ノ證書類ハ本金庫ニ取纏メ保存スヘシ

前項ノ證書類ニ關係アル緊要ノ書類ハ本書ト共ニ保存スヘシ

第十八條 中央金庫及本金庫ハ仕拂濟ニ係ル預金拂戻領收證書各自預金購入保管公債證書保管證書ノ領收證書預金取扱金庫換ノ通知書保管證書保管金又ハ有價證券拂渡證書受領ノ證アル供託書供託物領收證書供託物分割拂渡ノ領收證書差押取立命令書及其他ノ證書ハ預金^{保管金}ノ二種ニ區分シ一ヶ月毎ニ之ヲ編輯シ合計書ヲ添ヘ其帳簿ニ照查シ之ヲ保存スヘシ但中央金庫所屬支金庫ノ證書類ハ中央金庫ニ本金庫所屬支金庫ノ證書類ハ本金庫ニ取纏メ保存スヘシ前項ノ證書類ニ關係アル緊要ノ書類ハ本書ト共ニ保存スヘシ

第十九條 金庫ハ預金保管金供託金ノ出納ヲ爲スニ付此規程ニ記載ナキ計算整理及報告表提出期限等ノ條項ハ總テ一般ノ金庫出納事務規程ニ據リ取扱フヘシ

第二章 帳簿及計算報告

第一款 中央金庫

第二十條 中央金庫ハ金庫事務規程ニ定メタル現金出納原簿ヘ左ノ科目ヲ設ケ各内譯簿ノ合計額ヲ毎日登記スヘシ

貸方科目

- 一 預金
- 二 保管金(區別セズ一科目)
供託金(ナリテ計算ス)
- 三 預金利子仕拂元積立金
- 四 預金年度利益金
- 五 各自預金購入保管公債證書利子

借方科目

- 六 預金運用
- 七 預金年度損失金

第二十一條 中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル現金出納原簿其他諸帳簿ノ外預金保管

金供託金ノ計算ヲ整理スル爲メ左ノ補助簿(第六號)ヲ備フヘシ

- 一 預金受拂内譯簿

二 保管金 受拂内譯簿

三 各自預金購入保管公債證書利子内譯簿

中央金庫ハ有價證券保管出納ノ計算ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿(第七號)ヲ備フヘシ

一 有價證券受拂總括簿

二 有價證券受拂内譯簿

本條ニ掲クル諸帳簿ハ年時ニ期限ヲ設ケス紙頁ノ盡ルマテ漸次記入ヲ爲スヘシ

第二十二條 預金受拂内譯簿 保管金受拂内譯簿ハ中央金庫ニ於テ直接ニ受拂ヲ爲シタルモノ

ハ一人別又ハ一證書毎ニ口座ヲ設ケ各證憑書ニ依リ各本金庫及中央金庫所屬支金庫ニ於テ受拂ヲ爲シタルモノハ各金庫毎ニ口座ヲ設ケ其集計表ニ依リ其受拂ヲ登記シ差引殘額ヲ掲クヘシ

第二十三條 各自預金購入保管公債證書利子内譯簿ハ中央金庫ニ於テ其保管公債證書ノ利子金ヲ受取リタルトキ其受入高ヲ登記シ中央金庫ニ於テ直接ニ取扱ヲ爲シタルモノハ各自預金ニ元加ヲ爲シタルトキ直ニ其元加濟高ヲ登記シ其支金庫ニ於テ取扱ヲ爲シタルモノハ預金部受拂集計表ニ依リ之ヲ登記シ又各地本金庫ノ元加濟高ハ各其集計表ニ依リ之ヲ登記スヘシ

第二十四條 有價證券受拂總括簿ハ其集計表及内譯簿ノ締高ヲ以テ左ノ科目毎ニ受拂額ヲ登記スヘシ

一 保管諸公債證書

二 保管諸株券

三 保管諸證券

四 預金運用購入諸公債證書

六 預金運用購入諸株券

第二十五條 有價證券受拂内譯簿ハ中央金庫ニ於テ直接ニ受拂ヲ爲シタルモノハ一人別又ハ一證書毎ニ口座ヲ設ケ各證憑書ニ依リ各本金庫及中央金庫所屬支金庫ニ於テ受拂ヲナシタルモノハ各金庫毎ニ口座ヲ設ケ其集計表ニ依リ各種類毎ノ受拂券面額及枚數ヲ登記シ差引シテ其殘額ヲ掲クヘシ

第二十六條 中央金庫ハ第二十一條ノ諸帳簿ニ依リ左ノ諸集計表(第八號)ヲ調製スヘシ

一 預金受拂集計表

二 保管金受拂集計表

三 各自預金購入保管公債證書利子集計表

四 有價證券受拂集計表

第二十七條 預金受拂集計表及保管金受拂集計表ハ各其内譯簿ニ依リ中央金庫及各本金庫ヲ區分シ各其受入合計額及拂出合計額ヲ掲ケ毎日之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第二十八條 各自預金購入保管公債證書利子集計表ハ其内譯簿ニ依リ受拂合計額ヲ掲ケ毎日之ヲ大藏省ヘ送付スヘシ

第二十九條 有價證券受拂集計表ハ有價證券受拂總括簿及其内譯簿ニ依リ種類毎ニ中央金庫

及本金庫ヲ區分シ有價證券受拂券面合計額及枚數ヲ掲ケ毎日之ヲ大藏省へ送付スヘシ

第三十條 中央金庫ハ中央金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ取扱フタル第十七條第十八條ノ
證憑書類ニ依リ毎月左ノ證憑書類證明書(第九號書式)ヲ調製シ之ヲ各其帳簿ニ對照差違ナキヲ證
明シ該證憑書類ヲ添へ大藏大臣指定ノ官吏ニ提出シ檢閲濟ノ證印ヲ受ケ證憑書ハ金庫ニ保
存シ該證明書ハ中央金庫ノ毎月出納内譯書ニ添へ會計檢査院へ提出ノ爲メ大藏省へ差出ス
ヘシ

- 一 預金部受拂證憑書類證明書
- 一 有價證券受拂證憑書類證明書

第二款 本金庫

第三十一條 本金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル現金出納原簿へ左ノ科目ヲ設ケ各内譯簿
ノ合計額ヲ毎日登記スヘシ

- 一 預金
- 二 保管金(區分セズ一科目)
供託金(ヲ以テ計算ス)
- 三 各自預金購入保管公債證書利子

第三十二條 本金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル現金出納原簿其他諸帳簿ノ外預金保管金
供託金ノ計算ヲ整理スル爲メ左ノ補助簿(第十六號書式)備フヘシ

- 一 預金受拂内譯簿
- 二 保管金受拂内譯簿

三 各自預金購入保管公債證書利子内譯簿

各金庫ハ有價證券ノ保管出納ノ計算ヲ整理スル爲メ左ノ帳簿(第十一號書式)備フヘシ

- 一 有價證券受拂内譯簿

本條ニ掲クル諸帳簿ハ年時ニ期限ヲ設ケス紙頁ノ盡ルマテ漸次記入ヲ爲スヘシ

第三十三條 預金受拂内譯簿(保管金受拂内譯簿)ハ本金庫ニ於テ受拂ヲ爲シタルモノハ一人別
又ハ一證書毎ニ口座ヲ設ケ各證憑書ニ依リ其所屬支金庫ニ於テ受拂ヲ爲シタルモノハ各支
金庫毎ニ口座ヲ設ケ其集計表ニ依リ其受拂額ヲ毎日登記シ差引殘額ヲ掲クヘシ

第三十四條 各自預金購入保管公債證書利子内譯簿ハ中央金庫ヨリ預金購入保管公債證書利
子金ノ送付ヲ受ケタルトキ其受入高ヲ登記シ本金庫ニ於テ取扱ヲナシタルモノハ各自預金
ニ元加ヲ爲シタルトキ直ニ其元加濟高ヲ登記シ其所屬支金庫ニ於テ取扱ヲ爲シタルモノハ
預金部受拂集計表ニ依リ之ヲ登記スヘシ

第三十五條 有價證券受拂内譯簿ハ本金庫ニ於テ受拂ヲ爲シタルモノハ一人別又ハ一證書毎
ニ口座ヲ設ケ各證憑書ニ依リ其所屬支金庫ニ於テ受拂ヲ爲シタル者ハ各支金庫毎ニ口座ヲ
設ケ其集計表ニ依リ各種類毎ニ受拂枚數及券面額ヲ毎日登記シ差引シテ其殘額ヲ掲クヘシ

第三十六條 本金庫ハ第三十二條ノ諸帳簿ニ依リ左ノ諸集計表(第十二號書式)ヲ調製スヘシ

- 一 預金部受拂集計表(預金受拂額保管金受拂額)
- 二 各自預金購入保管公債證書利子集計表
- 三 有價證券受拂集計表

第三十七條 預金部受拂集計表ハ各其内譯簿ニ依リ其受入合計額及拂戻合計額ヲ掲ケ毎五十ノ日ニ之ヲ中央金庫ヘ送付スヘシ

第三十八條 各自預金購入保管公債證書利子集計表ハ其内譯簿ニ依リ受拂合計額ヲ掲ケ毎五十ノ日ニ之ヲ中央金庫ヘ送付スヘシ

第三十九條 有價證券受拂集計表ハ其内譯簿ニ依リ有價證券ノ各種類毎ニ受拂券面ノ合計額及枚數ヲ掲ケ毎五十ノ日ニ之ヲ中央金庫ヘ送付スヘシ

第四十條 本金庫ハ本金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ取扱フタル第十七條第十八條ノ證書ニ依リ毎月左ノ證書類證明書(第九號書式)ヲ調製シ之ヲ各其帳簿ニ對照差違ナキヲ證明シ該證書類ヲ添ヘ大藏大臣指定ノ官吏ニ提出シ檢閱濟ノ證印ヲ受ケ證書ハ金庫ニ保存シ該證明書ハ本金庫ノ毎月出納内譯書ニ添ヘ會計檢査院ヘ提出ノ爲メ中央金庫ヲ經テ大藏省ヘ差出スヘシ

一 預金部受拂證書類證明書(預金受拂額保管金受拂額)

二 有價證券受拂證書類證明書

第三款 支金庫

第四十一條 支金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル諸帳簿ノ外預金保管物供託物ノ計算ヲ整理スル爲メ左ノ諸帳簿(第十一號書式)ヲ備フヘシ但預金保管金受拂内譯簿ハ便宜合冊ニ製シ口取ヲ以テ區分スルモ妨ケナシ

一 預金受拂内譯簿

二 保管金受拂内譯簿

三 有價證券受拂内譯簿

本條ニ掲クル諸帳簿ハ年時ニ期限ヲ設ケス紙頁ノ盡ルマテ漸次記入ヲ爲スヘシ

第四十二條 預金受拂内譯簿(保管金受拂内譯簿)ハ一人別又ハ一證書毎ニ口取ヲ設ケ各證書ニ依リ之カ受拂額ヲ毎日登記シ差引殘額ヲ掲クヘシ

第四十三條 有價證券受拂内譯簿ハ一人別又ハ一證書毎ニ口座ヲ設ケ各證書ニ依リ之カ受拂額ヲ毎日登記シ差引殘額ヲ掲クヘシ

第四十四條 支金庫ハ第四十一條ノ諸帳簿ニ依リ左ノ諸集計表(第十二號書式)ヲ調製スヘシ

一 預金部受拂集計表(預金受拂額保管金受拂額)

二 有價證券受拂集計表

第四十五條 預金部受拂集計表ハ各其内譯簿ニ依リ其受入合計額及拂戻合計額ヲ掲ケ中央金庫所屬ノ支金庫ハ中央金庫ヘ本金庫所屬ノ支金庫ハ其本金庫ヘ毎日之ヲ送付スヘシ

第四十六條 有價證券受拂集計表ハ其内譯簿ニ依リ有價證券ノ各種類毎ニ受拂券面ノ合計額及枚數ヲ掲ケ中央金庫所屬ノ支金庫ハ中央金庫ヘ本金庫所屬ノ支金庫ハ其本金庫ヘ毎日之ヲ送付スヘシ

第三章 決算整理

第四十七條 金庫出納役ハ金庫出納事務規定ニ定メタル毎年度出納計算書ヘ現金出納原簿ニ依リ預金保管金供託金預金利子仕拂元積立金及預金運用上ノ受拂額ヲ掲記スヘシ

第四十八條 中央金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納内譯書及毎月出納計算書ハ中央金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一ケ月中ニ取扱フタル預金保管金供託金預金利子仕拂元積立金預金運用上ノ受拂額ヲ現金出納原簿及内譯簿ニ依リ掲記スヘシ

第四十九條 本金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納内譯書及毎月出納計算書ハ本金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一ケ月中ニ取扱フタル預金保管金供託金ノ受拂額ヲ掲記スヘシ

第五十條 支金庫ハ金庫出納事務規程ニ定メタル毎月出納内譯書ハ預金保管金供託金ノ受拂額ヲ掲記スヘシ

預金保管金供託金ノ受拂ニ屬スル證憑書類ハ前項ノ出納内譯書ハ添付スヘシ
第五十一條 金庫出納役ハ毎年度經過後四ケ月以内ニ毎年度間ニ取扱フタル有價證券ノ出納計算書(第十三式)ヲ有價證券受拂總括簿有價證券受拂内譯簿ニ依リ調製シ會計検査院へ提出ノ爲メ大藏省へ差出スヘシ

第五十二條 中央金庫ハ有價證券受拂總括簿有價證券受拂内譯簿ニ依リ中央金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一ケ月中ニ取扱フタル有價證券ノ毎月出納内譯書(第十四式)ヲ調製シ第三十條檢閲濟ノ證憑書類證明書ヲ添付シ會計検査院へ提出ノ爲メ翌月十五日迄ニ之ヲ大藏省へ差出スヘシ

中央金庫ハ本金庫ヨリ送付セシ有價證券毎月出納内譯書ニ掲記アル有價證券ノ受拂額ヲ中央金庫ノ各帳簿ニ對照シ金庫出納役之ニ署名捺印シ直ニ會計検査院へ提出ノ爲メ大藏省へ

差出スヘシ

第五十三條 本金庫ハ有價證券受拂内譯簿ニ依リ本金庫及之ニ屬スル支金庫ニ於テ一ケ月中ニ取扱フタル有價證券ノ毎月出納内譯書(第十四式)ヲ調製シ第四十條檢閲濟ノ證憑書類證明書ヲ添付シ翌月十五日迄ニ中央金庫へ送付スヘシ

第五十四條 中央金庫ハ第五十二條第一項ニ準シ有價證券ノ毎月出納計算書(第十四式)ヲ調製シ翌月十五日迄ニ大藏省へ差出スヘシ又本金庫ノ有價證券毎月出納計算書ハ本金庫ヨリ中央金庫へ領收シタルトキ中央金庫ノ各帳簿ニ對照シ金庫出納役之ニ署名捺印シ直ニ大藏省へ差出スヘシ

第五十五條 本金庫ハ第五十三條ニ準シ有價證券毎月出納計算書(第十四式)ヲ調製シ翌月十五日迄ニ中央金庫へ送付スヘシ

第五十六條 支金庫ハ前條ニ準シ有價證券毎月出納内譯書(第十四式)ヲ調製シ各證憑書類ト共ニ翌月三日迄ニ其本屬金庫へ送付スヘシ

(書式界ス)

然ルニ金庫出納役ハ右預金保管物供託物金庫出納事務規程中諸帳簿ノ整理方ニ關シ特ニ便宜ノ取扱ヲ爲サンコトヲ望ミ九月二十五日左ノ如ク大藏大臣へ上申スル所アリシカ同月二十八日其認可ヲ得タリ

今般大藏省訓令第三十二號ヲ以テ預金保管物供託物金庫出納事務規程御實施相成候處取扱上
不便利ノ虞有之候間改正方御取計被下度依之左ニ事實陳述仕候

- 一 預金受拂内譯簿ハ受拂殘ノミヲ計算スヘキ書式ナレハ利子計算上不便利ニ有之候間備考ノ欄ヲ新設シ積數利子等ヲ記載整理ノ事ニ取扱度候
- 一 保管金受拂内譯簿摘要ハ受入ノ事項ヲ記載スヘキ欄ノミニシテ拂戻分割歳入へ編入ノ爲メ拂出方等ヲ記載スヘキ欄無之ニ付便宜必要ノ事山ノ欄内ニ記入整理ノ事ニ取扱度候
- 一 保管金受拂内譯簿ハ保管供託ヲ併記スヘキモノナレハ受拂少數ノ支金庫ニ於テハ便利ナルモ受拂多數ノ本金庫ニ於テハ各別ニ記帳整理スル方便利ニ有之候間便宜上區分整理ノ事ニ取扱度候
- 一 有價證券受拂内譯簿モ前兩項ノ通り整理ノ事ニ取扱度候又本簿ニモ備考ノ欄有之候方整理上便利ニ有之候間増設整理取扱度候
- 一 保管金ノ期滿失效年月日異ナル向ハ權利者毎ニ口座ヲ設置スヘキ筈ニ有之候へ共保管金中期滿失效ノ調査ヲ要スルモノハ多クハ拾得金等ノ類ニシテ其期滿失效年月日モ又大差異ナケレハ金庫ニ於テハ一證書ニシテ期滿失效年月ノ同キモノハ一人別ノ口座ヲ設置セシ一證書毎ニ口座ヲ設置シ期滿失效年月日ノ欄ハ單ニ其年月ノミヲ記入シ日子ヲ問ハサルモ保管金時効調査ニモ差支無之又期滿失效ノ日子ヲ調査セントセハ金庫ニハ期滿失效年月日ヲ詳細記載セル證憑書類ノアルアレハ右ニヨリ調査シ得ヘキニ付期滿失效年月同シキモノハ其日子ヲ區分整理セサル事ニ取扱度候
- 一 前項御認可ノ上ハ保管金時効調査ニモ同様日子ハ記載セサル事ニ取扱度候
- 一 來ル十一月一日以降新ニ受入ヲ爲スヘキモノハ從來使用セシ預金ノ記號ヲ廢シ單ニ番號

ノミヲ以テシ改正前ヨリ受拂ノ分ト一目瞭然致候様取扱度候

右ハ改正様式ニヨリ帳簿調製ノ都合モ有之候間至急御承認被下度此段上申仕候也

明治二十六年九月二十五日

金庫出納役

日本銀行總裁 川田小一郎

大藏大臣 渡邊國武殿

大藏省指令第一三四八號

金庫出納役

明治二十六年九月二十五日甲國第二四八〇號上申預金保管物及供託物金庫出納事務規程

實施ニ付取扱方ノ件認可候條總テ申出ノ通取扱フモ妨ケナシ

大藏大臣 渡邊國武

尋テ十月三日ヲ以テ十一月一日以降金庫出納役カ直接取扱ヲ爲スヘキ預金ニ係ル郵便貯金受渡

順序ヲ定メ以テ主計局及金庫出納役へ令達セリ蓋シ郵便貯金ノ取扱ニ付テハ從來既ニ特定シタ

ル手續ナキニアラスト雖モ前陳金庫出納役直接ノ取扱ニ關シ更ニ改定スルノ必要ヲ生シタルニ

由ルナリ其令達ノ全文左ノ如シ

主計局

金庫出納役 (各通)

預金ニ係ル郵便貯金受渡順序別紙ノ通相定候條本年十一月一日ヨリ右ニ依リ取扱フヘシ

此旨相達ス

(左ノ金庫出納役ヘハ)

但從前ノ預リ金殘額及預金購入公債證書殘額ハ新通帳ヘ移記シ舊通帳ト交換スヘキ義ト心得ヘシ

明治二十六年十月三日

大藏大臣 渡邊 國武

預金ニ係ル郵便貯金受渡順序

第一條 中央金庫ハ郵便貯金ノ受拂ニ對シ遞信省ヘ交付スル預金通帳ハ預金取扱規程第三號書式ノ内預金受渡摘要ヲ除キタル通帳ヲ調製スルモノトス

第二條 遞信省ニ於テ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加ヲ要スルトキハ第一號書式ノ請求書ヲ中央金庫ヘ送付スルモノトス

郵便貯金ノ利子ニシテ臨時ニ仕拂フヘキモノハ第二號書式ノ請求書ヲ中央金庫ヘ送付スルモノトス

第三條 中央金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入シ之ヲ大藏省ヘ送付スルモノトス

第四條 中央金庫ハ預金保管物及供託物金庫出納事務規程第四條ニ依リ郵便貯金ニ對スル利子ノ元加(即チ第二條第ニ項請求ノ分)ヲナシタル金額ハ預金通帳ヘ利子元加ノ記入ヲ爲スモノトス

第五條 中央金庫ハ預金ヲ以テ購入シタル公債證書ニ對シ遞信省ヘ交付スル公債證書保管通帳ハ第三號書式ニ依リ調製スルモノトス

第六條 遞信省ニ於テ公債證書購入濟ノ通知書ヲ受ケタルトキハ該通知書ニ第四號書式ノ如ク裏書ヲナシ預金通帳及預金購入公債證書保管通帳ヲ添ヘ中央金庫ヘ送付スルモノトス

第七條 中央金庫ニ於テ前條ノ預金購入公債證書保管通帳ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入シ之ニ第五號書式ノ記番號通知書ヲ添ヘ遞信省ヘ送付スルモノトス

第八條 遞信省ニ於テ預金購入公債證書ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ預金購入公債證書保管通帳及領收證書ヲ中央金庫ヘ差出スモノトス

第九條 中央金庫ニ於テ前條ノ通帳及領收證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク記入シ公債證書ト共ニ遞信省ヘ返付スルモノトス

第十條 本順序ノ外必要ノ手續ハ預金取扱規程及預金保管物及供託物金庫出納事務規程ニ依リ取扱フモノトス

(書式略ス)

又預金中中央備荒儲蓄金ハ其ノ出納ニ關シ特定セラレタル法律命令ノ下ニ支配セラレサルヲ得サルモノニシテ通常一般ノ預金ノ如ク單ニ預金取扱規程ニノミ據リ難キモノアリ從前大藏省ハ既ニ其取扱上種々ノ方法ヲ特定シタルコトハ前節ニ掲ケタルモ是又郵便貯金ト同シク金庫出納役直接ノ取扱ニ關シ特ニ其受渡順序ヲ定メ同月六日ヲ以テ主計國債兩局及金庫出納役ヘ令達セリ

第一七一六號

主 計 局

國債局

金庫出納役

預金ニ係ル中央備荒儲蓄金受渡順序左ノ通相定候條本年十一月一日ヨリ右ニ依リ取扱フヘシ此旨相達ス

明治二十六年十月六日

大藏大臣 渡邊 國武

預金ニ係ル中央備荒儲蓄金受渡順序

- 第一條 國債局ニ於テ明治二十三年法律第二十一號ニ依リ中央備荒儲蓄金ヲ預金トシテ寄托セントスルトキハ其現金ニ預金取扱規程第一號書式ニ準シタル拂込書ヲ添へ中央金庫へ拂込ムモノトス
- 第二條 中央金庫ニ於テ前條拂込ノ現金ヲ受ケ入レタルトキハ第一號書式ノ領收證書ヲ交付スルモノトス
- 第三條 國債局ニ於テ第一條拂込タル現金ノ支出ヲ要スルトキハ第二號書式ノ中央備荒儲蓄金引出命令書(即チ預金拂戻請求ニ同シ)ヲ中央金庫へ送付スルモノトス
- 第四條 中央金庫ニ於テ前條ノ引出命令書ヲ受ケタルトキハ該引出命令書ニ記載シタル官吏へ現金ヲ交付シ第三號書式ノ領收證書ヲ徴ルモノトス
- 第五條 中央備荒儲蓄金ニ對スル利子ハ日本銀行ヨリ現金ヲ國債局へ仕拂フモノトス
- 第六條 國債局ニ於テ中央備荒儲蓄金ヲ以テ公債證書ヲ購入セントスルトキハ預金取扱規程

第四條ニ準シ公債證書購入ノ請求書ヲ中央金庫へ送付スルモノトス

中央金庫ハ前項ノ請求書ニ中央備荒儲蓄金ノ預リ殘額ヲ記入シ大藏省へ送付スルモノトス

第七條 大藏省(國庫)ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ其日ヨリ休日ヲ除キ五日以内ニ日本銀行ヲシテ時價ヲ以テ公債證書ヲ購入シ之ヲ中央金庫へ納付セシメ其額面金高購入代價ヲ記載シタル第四號書式ノ通知書ヲ國債局へ送付スルモノトス

第八條 國債局ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ公債預書ノ購入代價ニ相當スル金額ヲ拂出ノ爲メ第二號書式ノ中央備荒儲蓄金引出命令書ヲ中央金庫へ送付シ公債證書ヲ受取ルモノトス

第九條 本順序ノ外必要ノ手續ハ預金取扱規程ニ依リ取扱フモノトス

(書式略ス)

金庫出納役直接ノ預金中官立學校及圖書館會計ニ屬スル資金ナルモノアリテ其取扱ハ明治二十三年三月勅令第五十三號官立學校圖書館會計規則第四條ニ據ル一二些末ノ特例ヲ除キ概シテ他ノ一般預金ト同シク取扱ヘルモノナリシカ明治二十七年三月二十一日ニ至リ大藏大臣渡邊國武ハ特ニ預金部中ニ右資金ノ仕拂ニ關スル豫算差引簿ヲ設ケ同時ニ官立學校圖書館資金部歳出整理順序ヲ定メ以テ預金ノ取扱ハ亦此順序ニ據ルハキ旨ヲ金庫出納役ニ令達シ併セテ其取扱ニ關シ文部省へ通牒スル所アリタリ

金庫出納役

明治二十七年分ヨリ官立學校及圖書館資金部ノ歳出豫算若クハ仕拂豫算ヲ令達スヘキニ付

金庫ハ預金部ニ於テ豫算額仕拂額殘額ノ三欄ヲ設ケタル資金部歳出豫算差引簿ヲ備ヘ左ノ順序ニ依リ整理スヘシ

明治二十七年三月二十一日

大藏大臣 渡邊 國武

官立學校及圖書館資金部歳出整理順序

- 一 官立學校及圖書館資金部歳出豫算若クハ仕拂豫算ノ令達ヲ受ケタルトキハ資金部歳出豫算差引簿豫算額ノ欄ニ登記スヘシ
- 二 官立學校及圖書館ノ資金ヲ預金ニ預ケ入レタル官吏ヨリ預金取扱規程第九條ニヨリ拂戻ヲ要スルトキハ領收證書ニ仕拂命令官連署シ歳出科目ヲ記載スヘキニ付金庫ハ資金部歳出豫算差引簿仕拂額ノ欄ニ登記シタル後普通ノ順序ニ依リ拂戻ヲ爲スヘシ
但拂戻ノ金額資金部歳出豫算當該科目ノ仕拂殘額ニ超過スルトキハ拂戻ヲ拒絕スヘシ
- 三 官立學校及圖書館ノ出納官吏ヨリ預金取扱規程第四條ニヨリ公債證書ノ購入ヲ請求スルトキハ其請求書ニ仕拂命令官連署シ歳出科目ヲ記載スヘキニ付金庫ニ於テハ該請求書ニ記入スル預金現在高ノ次ニ當該科目ノ豫算殘額ヲ付記スヘシ
但一旦請求書ニ付記シタル當該科目豫算殘額ハ適宜帳簿ヲ設ケ書留置キ該請求書ニ對スル公債證書購入濟ノ通知書ヲ得ル前ニ於テ再ヒ請求書ヲ受ケタルトキハ豫算殘額ノ下ニ某年月日既送ノ請求書ニ對スル購入濟通知書到着前ナル旨ヲ記スヘシ
- 四 大藏省ヨリ送付スヘキ預金取扱規程第五條ノ通知書ニハ購入代金ノ左方ニ歳出科目及仕拂命令官々氏名ヲ付記スヘキニ付金庫ハ右ニ依リ資金部歳出豫算差引簿仕拂額ノ欄ニ登

記ヘシ

五 金庫ノ毎月資金部歳出豫算差引簿ノ結果ニヨリ別紙書式ノ資金部仕拂報告書ヲ調製シ翌月五日迄ニ其地差立中央金庫ヲ經テ大藏省ヘ送付スヘシ

文部大臣ヘ通知

二十七年分ヨリ官立學校及圖書館資金部歳出整理方ニ付別紙ノ通金庫出納役ヘ可相達ニ付預金拂戻領收證書及公債證書購入請求書ニ仕拂命令官連署シ歳出科目記載方當該官吏ヘ御達相成度此段及御照會候也

明治二十七年三月二十一日

大藏大臣 渡邊 國武

文部大臣 井 上 毅殿

追テ客年十二月十八日乾第四八二三號ヲ以テ及御照會置候官立學校及圖書館資金部支出報告書ハ二十七年分以降ハ不及御送付候此段申添候也

尋テ同月二十八日ニ至リ大藏省令第六號ヲ以テ其歳出豫算額ヲ維持スヘキ責任ハ金庫出納役ニ負擔セシムルコト、ナシ即チ預金取扱規程第十條ヘ左ノ一項ヲ加ヘタリ

大藏省令第六號 (明治二十七年三月二十八日)

明治二十六年大藏省令第十九號預金取扱規程第十條ニ左ノ一項ヲ追加ス

官立學校及圖書館會計規則第四條ニ依レル預金ノ拂戻額及公債證書購入代金トシテ仕拂ノ額ハ同會計資金部歳出豫算額ニ超過スルヲ得ス

夫レ預金ニ係ル官立學校圖書館資金ノ取扱ハ上ニ掲クル所ノ如クニシテ以テ此年四月一日ヨリ實行セラレタリ而シテ從來金庫出納役直接ノ取扱ニ關スル預金ノ計算ハ明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程中定ムル所ノ帳簿ニ依リ整理スルコト、爲シタリシカ爾來各金庫ニ於テ預金ノ出納ハ倍々頻繁ヲ加フルニ至リシヲ以テ其出納ノ繁閑ニ從ヒ特ニ便宜ノ帳簿ヲ設ク其類別計算ヲ整理セシムルコト、セリ

斯クテ明治二十八年一月十五日大藏省訓令第三號ヲ以テ明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程中決算整理ニ關スル條項ニ改正ヲ加フ蓋シ此改正タル同年會計検査院達第十九號ヲ以テ金庫出納證明規程ヲ改正シタル結果ニ由來スルモノナリ訓令第三號ノ全文左ノ如シ

大藏省訓令第三號 (明治二十八年二月十五日)

庫出納役

明治二十六年當省訓令第三十二號預金保管物供託物金庫出納事務規程中左ノ通改正シ明治二十八年二月一日ヨリ施行ス

但第六號書式及第七號書式ノ二中毎月出納計算書整理額ノ一欄ヲ設クルハ明治二十八年四月一日ヨリ施行スル儀ト心得ヘシ

第四十五條中受人ノ下及拂戻ノ下各合計ノ二字ヲ削ル

第四十七條 中央金庫ハ金庫出納事務規程ノ毎年度出納計算書及毎月出納内譯書へ預金保管金、供託金預金利子仕拂元積立金及預金運用上ノ各受拂額及其内譯額ヲ掲記スヘシ

第四十八條中毎月出納内譯書及ノ八字ヲ削リ受拂額ノ下ニ及其内譯額(號書式)ノ十一字ヲ挿入ス

第四十九條中受拂額トアル下ニ及其内譯額(號書式)ノ十一字ヲ挿入ス

第五十條中金庫出納役トアルヲ中央金庫ト及出納計算書ノ下(號書式)トアルヲ(明治二十七年會計院達第二十號)ト改ム

第五十一條 第一項中毎月出納内譯書トアルヲ毎月出納計算書ト改メ第三十條檢閱濟ノ證憑書類證明書ヲ添付シ會計検査院へ提出ノ爲メノ三十字ヲ削ル

同第二項中毎月出納内譯書トアルヲ毎月出納計算書ト改メ直ニ會計検査院へ提出ノ爲メノ三十字ヲ削ル

第五十二條中毎月出納内譯書トアルヲ毎月出納計算書ト改メ第四十條檢閱濟ノ證憑書類證明書ヲ添付シノ十九字ヲ削ル

第五十三條及第五十四條ヲ削ル

是ヨリ曩キ明治二十三年預金ヲ以テ公債證書ニ交換ノコトヲ實施スルニ及ヒ逓信省令第二十三號郵便貯金條例施行細則ヲ以テ郵便貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書ニ限ラレタルモ後漸ク軍事公債證書購入希望ノ者ヲ生セルヲ以テ明治二十九年九月五日逓信大臣白根專一ヨリ郵便貯金ノ大藏省預金部へ預入レタルモノヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理軍事兩公債證書ト爲サンコトヲ大藏省へ協議シ來リシカ元來明治二十三年法律第七十五號預金ヲ以テ整理公債證書ニ交換ノ規定ハ郵便貯金ニ關スルコト無ク又郵便條例第七條ニ於テハ單ニ公債證書ヲ購

入保管スルヲ得ル旨ヲ定メタルニ止マルヲ以テ遞信省令第二十三號第四十條ニ整理公債證書ニ限定セルモノヲ改正セハ何種ノ公債證書ヲ購入スルモ妨ナキヲ以テ同月十五日大藏大臣子爵渡邊國武ヨリ郵便貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ軍事整理公債證書中適宜購入方取扱フヘキ旨ヲ回答セリ

是ニ於テ遞信大臣ハ此年十月十二遞信省令第二十四號ヲ以テ二十三年十月十一同省令第二十三號郵便貯金條例施行細則第四十條ヲ改正シテ貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書若クハ軍事公債證書ト爲シ以テ其交換ノ請求ヲ爲シ得ルコトヲ明示シ爾來大藏大臣ハ日本銀行及金庫出納役ヲシテ之レカ取扱ヲ爲サシメ來リシカ明治三十一年ニ至リ其交換ニ充用スヘキ政府所有ノ整理公債證書及軍事公債證書ハ將ニ缺乏ヲ告ケントスル狀況ヲ視ルニ至リシヲ以テ茲ニ大藏大臣子爵渡邊國武ハ大日本帝國政府五歩利付公債證書ヲ郵便貯金トノ交換ニ充用センコトヲ遞信大臣ヘ要求シ遞信大臣ハ遂ニ其要求ヲ容レ此年十月十二遞信省令第三號ヲ以テ再ヒ郵便貯金條例施行細則第四十條ヲ改正シ貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書軍事公債證書若クハ大日本帝國五歩利付公債證書ト爲シ併セテ其ノ交換請求人ヲシテ種類ヲ撰定セシムルコト、爲セリ

明治三十年四月勅令第二百二十號ヲ以テ大藏省官制ヲ改正セラレ省中ニ理財局ヲ設置スルヤ從來主計局ノ管掌ニ屬シタリシ預金保管物及供託物ニ關スル大藏省ノ事務ハ理財局ノ取扱ニ屬セリ明治三十年一月ニ至リ大藏大臣伯爵松方正義ハ金庫出納役ニ指令ヲ與ヘ官國幣社ノ寄託ニ係ル預金並ニ預金購入保管ノ公債證書ノ受渡ハ府縣知事又ハ府縣知事ノ委任セル代理者ニ於テ副書

セル書面ニ依ララサレハ其取扱ヲ爲スコトヲ得サルモノトセリ蓋シ此令達ハ其監督官廳ノ要求ニ由來シタルモノニシテ預金取扱規程第二十四條ニ定ムル所ノ手續ノ外特ニ此條件ヲ加ヘ其取締ヲ爲セルナリ

金庫出納役

官國幣社ノ現金ハ自今府縣知事若クハ府縣知事ノ特ニ委任シタル代理者ニ於テ副署シタル金額ニアラサレハ受拂ヲ爲サ、ルコトニ取扱フヘシ
但本文受拂ノ爲メ對照ニ要スル副署ノ印鑑ハ豫メ縣知事ヨリ金庫ヘ送付スヘシ
右相達ス

明治三十年七月十二日

大藏大臣 伯爵 松方正義

金庫出納役

本月十二日第一四四五號ヲ以テ官國幣社ノ預金受拂ニ副書之義相達置候處官國幣社ノ預金ヲ以テ購入シタル公債證書ヲ拂戻ス場合モ預金ト同様副書シタルモノニアラサレハ拂戻ヲ爲サ、ルコトニ取扱フヘシ

明治三十年七月十七日

大藏大臣 伯爵 松方正義

明治三十二年三月法律第七十九號第八十號第八十一號ヲ以テ軍艦水雷艇補充基金教育基金及災害準備基金ニ關スル特別會計法ヲ各公布セラレ以テ其取扱ハ大藏省ニ屬スルコト、ナリタリシ

カ抑モ此三基金ハ二十七八年日清戦争ノ結果我政府カ清國政府ヨリ收得シタル償金ノ殘餘ヲ以テ設定セラレタルモノニシテ専ラ増殖ヲ計ルコトヲ目的トシ即チ其法律ノ定ムル所ニ依リ之ヲ大藏省預金ニ寄託シ其利子ハ各基金ニ編入スルコト、ナリタルヲ以テ茲ニ大藏大臣伯爵松方正義ハ此年四月五日ヲ以テ其事務取扱手續ヲ定メ尋テ同年十月四日ヲ以テ其預金取扱順序ヲ定メタリ即チ左ノ如シ

軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金各特別會計ニ關スル事務取扱手續（抄録）

第三條 軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ヲ大藏省預金ヘ寄託スルトキハ某基金預金部寄託ノ科目ヲ以テ拂出シ預金ノ科目ヘ受入ノ爲メ國庫中ノ移替ヲ金庫出納役ヘ令達ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ヲ預金部ヘ寄託シタルモノニ對シ利子ヲ收入スルトキ又ハ一般會計ヨリ軍艦水雷艇補充基金及災害準備基金ヘ繰入ヲ要スルトキハ某年度歳出ヲ拂出シ某基金歳入ヘ受入ノタメ國庫中ノ移替ヲ主計局及金庫出納役ヘ令達ノ手續ヲ爲スト同時ニ更ニ預金部ヘ寄託ノ爲メ第三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ノ内一般會計ヘ繰入ヲ要スルトキハ預金部寄託金ヲ拂戻ノ爲メ預金ノ科目ヲ拂出シ某基金預金部寄託ノ科目ヘ入レ同時ニ某基金歳出ヲ拂出シ某年度歳入ヘ受入ノタメ國庫中ノ移替ヲ主計局及金庫出納役ヘ令達ノ手續ヲ爲スヘシ

軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ニ關スル預金受拂順序

第一 軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ノ大藏省預金ニ對スル受拂ハ總テ國庫中ノ移替命令書ヲ以テ執行スヘシ

第二 毎年三月末ニ於テ軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ノ其年度ノ預金利子額ヲ計算シ仕拂ノ令達ヲ爲ス可シ

第三 本順序ノ外必要ノ手續ハ預金取扱規程ニ準據スヘシ

金庫出納役直接取扱ノ預金及預金ト公債證書ノ交換並ニ保管ニ關スル事歴ノ概要ハ上來掲クル所ノ如クナリト雖モ仍ホ其以外ニ大藏大臣ノ命令ヲ以テ一時日本銀行ヲシテ預ケ入レヲ爲サシメタル特別ノ預金アリ而シテ之カ取扱ハ他ノ預金ト頗ル其趣ヲ異ニスルモノアルカ故ニ是ヨリ以下ニ於テ特ニ其概要ヲ讀者ニ紹介スル所アラントス抑日本銀行ヨリノ預ケ金ナルモノハ明治二十九年三月ニ始マリ同三十一年三月ニ至リ終了ヲ告ケタルモノニシテ今其由來ヲ略陳スレハ曩ニ明治二十七八年日清戦役費支辨ノ爲メ特ニ設定セラレタル臨時軍事費特別會計決算ノ爲メ明治二十九年三月ニ至リ軍事公債證書參千五百萬圓ヲ發行スルノ必要ヲ生シタリ然ルニ其當時ニアリテハ世上一般ノ金融ハ頗ル逼迫ノ狀況ヲ呈シ之カ金額ヲ民間ニ募集センコト殆ント望ナキノ業タリシナリ是ニ於テ大藏大臣渡邊國武ハ明治二十七年法律第十六號ニ依リ一時國庫ノ餘裕金ヲ日本銀行ニ預ケ入レ日本銀行ハ同時ニ其金額ヲ大藏省預金ニ寄託シ以テ預金部ヲシテ其發行額ノ内貳千五百萬圓ノ募集ニ應ゼシメ其他ハ之ヲ民間ニ募集シ以テ其決算整理ヲ全フスルコトヲ得タルノミナラス一面國庫金ノ増殖ヲ計リ一面預金ヲ軍事公債證書ニ運用シテ殖益ヲ收ムル等財政上頗ル満全ノ結果ヲ得ルニ至レリ而シテ此事歴ニ伴ヒ金庫出納役カ取扱ヲ爲シタル

日本銀行ノ預金ハ其高貳千壹百萬圓ニシテ其取扱ニ關スル事歴ノ概要ハ即チ左ニ列舉スル所ノ如シ

明治二十九年三月三日大藏大臣決定 (主計局長提議)

本年三月三十一日ヲ以テ臨時軍事費特別會計ヲ終了スルニ依リ之カ決算整理ノ爲メ今回發行可相成軍事公債參千五百萬圓ノ内貳千萬圓ハ別紙ノ通國庫金ノ内ヲ明治二十七年法律第十六號ニ依リ日本銀行ヘ預ケ入レ同行ヨリ更ニ之ヲ預金部ヘ預ケ入レサセ預金部ニ於テ該公債ノ募集ニ應スルコトニ御決定相成可然哉左ニ日本銀行ヘ命令案ヲ具シ此段相伺候也

日本銀行

今回發行ノ軍事公債參千五百萬圓ノ内貳千萬圓ハ明治二十七年法律第十六號ニ據リ之ニ相當スル金額ヲ國庫金ノ内ヨリ其行ニ預ケ入レ其行ハ更ニ之ヲ預金部ヘ預ケ入レ該預金ヲ以テ預金部ニ於テ募集ニ應スルニ付命令スルコト左ノ如シ

- 一 其行ニ預ケ入ルヘキ金額ハ凡ソ貳千萬圓ヲ限リトシ軍事公債拂込ノ必要ニ從ヒ漸次預ケ入ル、モノトス
- 一 前項ニ依リ預ケ入レタル金額ハ明治十八年布告第十三號預金規則第一條第三ニ依リ直チニ其行ヨリ之ヲ預金部ヘ預ケ入ル、モノトス
- 一 第一項ニ依リ預ケ入レタル金額ニ對スル利子ハ預金部ヨリ其行ヘ交付スル利子ト同額タルヘシ
- 一 第一項ニ依リ預ケ入レタル金額ノ返戻ヲ要スルトキハ其時々金額ヲ定メ命令スヘキニ依ル

リ該命令ヲ受ケタルトキハ直ニ預金部ヨリ該金額ノ拂戻ヲ受ケ返納スルモノトス
但第一項預ケ入ノ金額ハ一會計年度毎ニ組替計算スルモノトス
右命令候條承諾ノ上ハ受書差出スヘシ

明治二十九年三月三日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

(參照)

明治二十七年法律第十六號

第一條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間餘裕アルトキハ相當ノ利子ヲ徴シテ之ヲ當座預又ハ定期預トシテ日本銀行ニ預ケ入ル、コトヲ得
第二條 政府ハ國庫金出納上一會計年度間一時不足ヲ生スルトキハ相當ノ利子ヲ附シ日本銀行ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ニ依リ政府ノ借入ル、コトヲ得ヘキ金額ハ大藏省證券發行額ト合セテ當該年度該證券ノ發行最高額ヲ超過スルコトヲ得ス

明治二十九年三月四日大藏大臣決定 (主計局長提議)

今回臨時發行可相成軍事公債貳千五百萬圓ノ内五百萬圓ハ別紙御決議ノ通預金部現在金(日本銀行外預ケ入レ)ヲ以テ募集ニ應シ之カ拂込ハ必要ノ都度支出可致計畫ニ有之候處該公債ハ此際一時ニ發行ノ事ニ相成候ニ付テハ目下預金部現在高四百萬圓餘ニシテ百萬圓ノ不足ヲ生シ實際不得止次第ニ付日本銀行ヘ預ケ入レ可相成貳千萬圓ヘ百萬圓ヲ加ヘ貳千百萬圓トシ預金部ノ

方ハ百萬圓ヲ減シ四百萬圓ト御改正相成候様致度依テ日本銀行へ追加命令按等相伺候也

日本銀行

本年三月三日祕第一八二號命令中其行へ預ケ入ルヘキ金額凡ソ貳千萬圓ハ凡ソ貳千百萬圓ト改ム此旨更ニ命令ス

明治二十九年三月四日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

日本銀行

本年三月四日大藏省令第三號ニ依リ發行ノ軍事公債貳千五百萬圓ハ額面百圓ニ付百圓ノ價額ヲ以テ預金部ニ於テ引受クヘキ義ト心得ヘシ

明治二十九年三月四日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

明治二十九年三月四日大藏大臣決定 (主計局長提議)

別紙御決議ノ趣旨ニ基キ此際國庫餘裕金ノ内貳千百萬圓日本銀行へ預ケ入可取計ニ付左ノ通主計局及金庫出納役へ令達按相伺候

主計局

別紙ノ通金庫出納役へ相達候條該收支ニ係ル報告表ヲ得タルトキ國庫原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入方取計フヘシ

明治二十九年三月四日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

金庫出納役

一金貳千百萬圓也

右ハ別紙本月三日祕第百八拾貳號日本銀行へ命令ノ趣意ニ基キ明治二十七年法律第十六號ニ依リ日本銀行へ預ケ入候條同行領收證書引替ニ現金交付スヘシ但現金出納原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治二十九年三月四日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

(別紙ハ前ニ掲ケタルヲ以テ略ス)

尋テ同年五月及十一月ノ兩期ヲ以テ豫テ政府カ第十五國立銀行ヨリ借入レヲ爲シタル征討費償却ノ爲メ特ニ發行ヲ要シタル整理公債證書額面計四百萬圓ノ内參百五十萬圓ヲ預金部ニ於テ引受クルコトヲ要シタルモノ及明治三十年二月ニ至リ中央及府縣備荒儲蓄金所有ノ整理公債證書額面四拾七萬七百五十拾圓ヲ預金部ニ購入スルコトヲ要スルニ至リシ場合其他同年三月ニ至リ事業公債證書額面參百萬圓竝ニ鐵道公債證書額面四百萬圓ヲ發行スルノ必要ヲ生シ之ヲ預金部ニ引受クルコトヲ要シタル場合ニアリテモ事業公債證書ヲ發行シタル場合ト同シク其都度一時國庫ノ餘裕金ヲ日本銀行ニ預ケ入レ日本銀行ハ之ト同時ニ其金額ヲ大藏省預金ニ寄託シ以テ財政上ノ料理ヲ全フスルニ至リシモノニシテ是等ノ事歴ニ伴ヒ金庫出納役カ取扱ヲ爲シタル預金ハ

即チ壹千貳百萬貳千圓ノ計數ヲ看ルニ至レリ其取扱ニ關スル事歴ノ概要ハ左ニ列舉スル所ノ如シ

明治二十九年五月大藏大臣決定（主計局長提議）

第十五國立銀行ヨリ借入金ニシテ本月末償却可相成金額貳百萬圓ハ整理公債證書ヲ預金部ニ對シ臨時發行シ其代金ヲ以テ償還可相成ノ處目下同部ニ餘裕金無之ニ付先般發行ノ軍事公債貳千五百萬圓ノ内貳千百萬圓ヲ預金部ニ於テ引取候例ニ倣ヒ該金額ハ國庫ヨリ日本銀行ヘ預ケ入レ同銀行ヨリ更ニ之ヲ預金部ヘ預ケ入レサセ預金部ニ於テ該公債ノ募集ニ應スルコトニ御決定相成可然哉

左ニ日本銀行ヘ命令案ヲ具シ此段相伺候也
秘第四四五號

日本銀行

今回發行ノ整理公債貳百萬圓ハ明治二十七年法律第十六號ニ依リ之ニ相當スル金貳百萬貳千圓ヲ國庫金ノ内ヨリ其行ニ預ケ入レ其行ハ更ニ之ヲ預金部ヘ預ケ入レ該預金ヲ以テ預金部ニ於テ引受クルニ付之カ取扱順序ハ二十九年三月三日秘第一八二號本大臣命令書ノ各項ニ照シ取扱フヘシ

右命令ス承諾ノ上ハ受書差出スヘシ

明治二十九年五月二十一日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

主計局

別紙之通金庫出納役ヘ相達候間該收支ニ係ル報告表ヲ得タルトキ國庫原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入方取計フヘシ
右相達ス

明治二十九年五月二十二日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

金庫出納役

一金貳百萬貳千圓也

右ハ別紙本月二十一日秘第四四五號日本銀行ヘ命令ノ趣旨ニ基キ明治二十七年法律第十六號ニ依リ日本銀行ヘ預ケ入候間同行領收證書引換ニ現金交付スヘシ但現金出納原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治二十九年五月二十七日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

明治二十九年十一月大藏大臣決定（松尾主計局長提議）

征討費借入金貳百萬圓今回第十五國立銀行ヘ返償ノ爲メ整理公債貳百壹萬五千圓發行ノ分ハ預金部ニ於テ應募可致等ニ有之然ルニ同部ニ於テ本年度内二十九年度歳入ヘ繰入ルヘキ預金利子中央備荒儲蓄及各縣備荒儲蓄所有ノ公債證書買入等ノ爲メ仕拂フヘキモノ有之右ハ本年十二月渡リ諸公債證書利子收入及現在高百參拾壹萬餘圓等ヲ以テ使辨可致見込ニ有之候間旁

餘裕無之結局悉皆國庫金ノ内ヲ以テ日本銀行へ預ケ入レ更ニ之ヲ預金部へ預ケ入レシメ該預金ヲ以テ應募スル外無之候得共前述預金部ニ於テ仕拂フヘキモノ、内國庫中一テ移換等ニ係ル分ハ差向支拂フニモ及ヒ間敷ト被存候ニ付此際預金部現在高ノ内金四拾八萬貳千參百五拾七圓ハ整理公債應募ノ分ニ振向ケ殘金百五拾萬圓ハ明治二十七年法律第十六號ニ依リ國庫餘裕金ノ内ヨリ該金額ヲ日本銀行ニ預ケ入レ而シテ同行ヨリ之ヲ預金部ニ預ケ入レサセタル上同部ニ於テ應募ノ事ニ取計可然哉依テ日本銀行金庫出納役へ令達及會計検査院へ通達案共相伺候也

日本銀行

今回發行ノ整理公債貳百壹萬五千圓ニ相當スル金額ノ内金百五拾萬圓ハ明治二十七年法律第十六號ニ依リ國庫金ノ内ヨリ其行ニ預ケ入其行ハ更ニ之ヲ預金部へ預ケ入該預金ヲ以テ預金部ニ於テ引受クルニ付之カ取扱順序ハ明治二十九年三月三日祕第一八二號本大臣命令書ノ各項ニ照シ取扱フヘシ

右命令ス承諾ノ上ハ受書差出スヘシ

大藏大臣 伯爵 松方正義

金庫出納役

一金百五拾萬圓也

右ハ別紙本月十六日祕第一〇〇六號日本銀行へ命令ノ趣旨ニ基キ明治二十七年法律第十六號

ニ依リ日本銀行へ預ケ入候間同行領收證書引換ニ現金交付スヘシ但現金出納原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治二十九年十一月十六日

大藏大臣 伯爵 松方正義

主計局

別紙ノ通金庫出納役へ相達候條該收入ニ係ル報告表ヲ得タルトキ國庫原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治二十九年十一月十六日

大藏大臣 伯爵 松方正義

明治三十年二月大藏大臣決定 (主計局長提議)

中央備荒儲蓄金所有ノ整理公債證書額面百六拾八萬圓並香川縣外四縣備荒儲蓄金所有ノ整理公債證書額面四拾七萬七百五拾圓ヲ預金部ニ於テ購入可致(香川縣外四縣分ハ既積リニ有之候ニ付右購入代價貳百拾萬餘圓別紙調書ノ通此際預金部ニ於テ現金ノ必要有之候處目下同部ニ於ケル現在高ハ日々拂戻ノ爲メ不足ヲ告ケ國庫餘裕金ノ内ヲ以テ一時使辨致居候義ニテ餘裕無之就テハ明治二十七年法律第十六號ニ依リ國庫餘裕金ノ内ヨリ金貳百萬圓ヲ日本銀行ニ預ケ入而シテ全行ヨリ之ヲ預金部ニ預ケ入サセタル上全部ニ於テ前述公債證書購入ノ順序取計可然乎依テ日本銀行金庫出納役主計局へ令達及會計検査院へ通知案共相伺候也

追テ今後預金部ニ於テ日本銀行ヨリ預ケ入ニ係ル利子仕拂並鐵道公債ヲ引受クル爲メ右代

價仕拂等ノ基金ハ必要ノ事ト被存候得共右ハ必要ニ臨ミ更ニ相伺ヘク積リニ有之候也

日本銀行

今回中央備荒儲蓄金並ニ各縣備荒儲蓄金所有ノ整理公債證書ヲ預金部ニ於テ購入スルノ必要アルニ付右代價等ヘ充用ノ爲メ金貳百萬圓ヲ明治二十七年法律第十六號ニ依リ國庫金ノ内ヨリ其行ニ預ケ入其行ハ更ニ之ヲ預金部ニ預ケ入ルヘク之カ取扱順序ハ明治二十九年三月秘第一八二號本大臣命令書第二項以下ニ準據シ取扱フヘシ

右命令ス承諾ノ上ハ受書差出スヘシ

明治三十年二月四日

大藏大臣 伯爵 松方正義

金庫出納役

一 金貳百萬圓

右ハ則紙本月四日秘第一三九號日本銀行ヘ命令ノ趣旨ニ基キ明治二十七年法律第十六號ニ依リ日本銀行ヘ預ケ入候間全行領收證書引替ニ現金交付スヘシ但現金出納原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治三十年二月四日

大藏大臣 伯爵 松方正義

主計局

別紙ノ通金庫出納役ヘ相達候條該收支ニ係ル報告ヲ得タルトキ國庫原簿借方日本銀行預ケ入

ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治三十年二月四日

大藏大臣 伯爵 松方正義

主計局長 提議

明治三十年三月大藏大臣決定
本年度ニ於テ事業公債及鐵道公債ヲ以テ經營スヘキ費途ニ對スル支出額取調候處別紙第一號計算書ノ通事業公債ヲ以テ支辨スル費途ノ支出額貳百五拾六萬五千百拾四圓
鐵道公債ヲ以テ支辨スル費途ノ支出額參百八拾萬六千參拾七圓
合計六百參拾七萬千五百五拾壹圓

ニ有之右ハ國庫在金ヲ以テ一時繰替支辨致來候モノニツキ年度閉鎖前ニ幾分ノ餘裕ヲ見込ミ左記ノ通公債ヲ募集シ償還ヲ要シ候

一 事業公債參百萬圓

一 鐵道公債四百萬圓

合計七百萬圓

然ルニ目下市場ノ景況公債ヲ募集スル時機ニアラサルニヨリ此際ハ是迄數度國庫金ヲ以テ軍事公債整理公債等ヲ一時引受ケタル例ニ依リ明治二十七年法律第十六號ニ依リ一時國庫金ノ内六百五拾萬圓ヲ日本銀行ニ預ケ入レ同行ヲシテ更ニ之ヲ預金部ニ預ケ入レシメ預金部ノ餘裕金五拾萬圓トヲ併セ前記公債ハ悉皆特別發行ヲナシ之ヲ預金部ニ於テ引受クルコトニ致候外無之ト存候

然ルニ右國庫ノ餘裕金ハ全ク一時ノ餘裕ニ過キスシテ漸次支拂ヲ要スルモノナレハ此儘永ク差措ク能ハサルニヨリ該預ケ金ハ漸次預金部所有ノ公債ヲ賣却シテ國庫金へ償還致サ、ルヘカラス依テ取調候處三十年度國債償還豫算中公債償還豫算額ニ各種公債利子ノ不用トナルヘキ額ニシテ公債償還ニ充用シ得ヘキ高ヲ加フルトキハ別紙第二號計算書ノ通

金六百壹萬八千三百七拾八圓餘

有之候間右ノ内ヲ以テ先以テ三十年度開始後直ニ預金部所有ノ海軍公債六百萬圓ヲ買上銷却スルコトニ致度其價格ハ過般買入候例ニ依リ時價ヨリ十錢ヲ減シ九拾九圓九拾錢ニテ買上候事ニ致候ハ、可然ト存候

但本文買上ケ銷却ハ本年四月一日ニ施行相成度候也

右相伺候也

本議御決判ノ上ハ國庫金預ケ入ノ爲メ先以左案ノ通金庫出納役其他へ御令達相成可然哉

日本銀行

今般事業公債參百萬圓鐵道公債四百萬圓合計七百萬圓整理公債條例第六條第一項ニ依リ臨時發行シ之ヲ預金部へ引受クルニツキ之カ基金トシテ國庫金ノ内六百五拾萬圓ヲ明治二十七年法律第十六號ニ依リ其行へ預ケ入候條該金額ハ預金部へ預ケ入ルヘシ其取扱順序ハ明治二十九年三月秘第一八二號本大臣ノ命令書第二項以下ニ準據シ取扱フヘシ

右命令ス

明治三十年三月二十六日

大藏大臣 伯爵 松方正義

一金六百五拾萬圓也

金庫出納役

右ハ別紙日本銀行へ命令ノ趣旨ニ基キ明治二十七年法律第十六號ニ依リ日本銀行へ預ケ入候間全行領收證書引換ニ現金交付スヘシ

但現金出納原簿借方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治三十年三月十六日

大藏大臣 伯爵 松方正義

主計局

別紙ノ通金庫出納役へ相達候條該收支ニ係ル報告表ヲ得タルトキ國庫原簿借方日本銀行へ預ケ入ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治三十年三月二十六日

大藏大臣 伯爵 松方正義

斯ノ如クニシテ追々金庫出納役カ取扱ヲ爲シ來リシ日本銀行ヨリノ預リ金ハ其總計實ニ參千參百萬貳千圓ノ巨額ヲ視ルニ至リシト雖モ大藏大臣ハ其現金ヲ絶ヘス預金ニ固定セシメタルモノニアラスシテ既ニ明治二十九年四月二十七日付ヲ以テ日本銀行及金庫出納役へ令達シ以テ内金四百萬圓ノ拂戻ヲ爲サシメ直チニ其金額ヲ國庫へ納付セシメタル以降同三十一年三月ニ至ルマテ數次ノ令達ヲ以テ其貸借ヲ決算セシメ以テ其取扱ヲ終了セシメタリ其一例ハ即チ左ノ如シ

明治二十九年四月二十五日大藏大臣決定(松尾主計)

明治二十九年三月秘第一八二號ニ依リ日本銀行へ預ケ入金貳千百萬圓内金四百萬圓返戻方ノ儀ニ付左ノ通主計局日本銀行及金庫出納役へ御達案相伺候也

主計局

別紙之通金庫出納役へ相達候條該收支ニ係ル報告表ヲ得タルトキ國庫原簿貸方日本銀行預ケ入ノ科目ヲ以テ記入方取計フヘシ

明治二十九年四月二十七日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

日本銀行

一金四百萬圓也

右ハ明治二十九年三月三日秘第一八二號ニ依リ其行へ預ケ入金貳千百萬圓ノ内今般本行ノ金額返戻方可取計就テハ該金額預金額ヨリ拂戻ヲ受ケ直ニ中央金庫へ納付スヘシ

明治二十九年四月二十七日

大藏大臣 子爵 渡邊 國武

金庫出納役

一金四百萬圓也

右ハ明治二十九年三月四日秘第一八八號ヲ以テ相達候日本銀行へ預入金貳千百萬圓ノ内今般本行ノ金額全行ヨリ返戻候條之ヲ領收シ領收證書ヲ交付スヘシ但現金出納原簿貸方日本銀行預ケ入返戻ノ科目ヲ以テ記入スヘシ

明治三十五年一月大藏省令第一號ヲ以テ預金取扱規程第三條第二十四條及第二十五條ニ改正ヲ加ヘ且預金通帳ノ書式ヲ改メラレタリ抑々本令ヲ以テ預金取扱規程第三條ヲ改正スルニ至リシ所以ヲ釋スルニ從來預金者一人ニ對シ記號ヲ區分シ數冊ノ預金通帳ヲ交付シ以テ其受渡ヲ各別ニ取扱來リシカ其取扱ハ事理穩當ナラサルノミナラス金庫ノ取扱上ニ於テモ繁雜ナリトノ故ヲ

以テ即チ本條ニ但書ヲ加ヘ自今預金者一人ニ對シ一冊ノ通帳ヲ交付シ以テ之カ受渡ヲ爲スヘキコトニ變更シタルニアリ又第二十四條改正ノ要旨ハ從來法人タル會社ノ預金ニアリテハ單ニ會社名ヲ以テ預ケ入ヲ爲スコトヲ得ル規定ナリシモ其他ノ法人ニアリテハ特ニ預金擔當者ヲ定メ其者ノ名ヲ以テスルニアラサレハ之カ取扱ヲ爲サ、ル規定ニシテ彼是權衡ヲ失スルノミナラス爲メニ會社以外ノ法人タル府縣郡市町村等ニ於テ不便ヲ感スルモノ尠カラズ依テ本條ヲ改正シテ是等ノ法人ニアリテモ會社ト同シク其法人名ヲ以テ預金スルコトヲ得ルノ便宜ヲ與フルコト、爲シタルモノニシテ第二十五條ノ改正ハ第二十四條改正ノ結果ニ外ナラサルカ如シ而シテ預金通帳ノ書式ノ改正ハ從來ノ書式ニ殘高ノ一欄ヲ增加シタルニ過キスト雖モ是等ハ其預ケ入及拂戻金額ノ計算上ニ便宜ヲ與フルト同時ニ一見其現在高ヲ認ムルコトヲ得セシムル趣旨ニ出テタルモノニシテ其便益蓋シ尠カラサルモノアリ其省令第一號ハ即チ左ノ如シ

大藏省令第一號 (明治三十五年一月二十七日)

明治二十六年大藏省令第一九號預金取扱規程中左ノ通改正ス

第三條ニ但通帳ハ一人一冊ニ限ルノ十一字ヲ追加シ第三號書式預金通帳中拂戻高主任印ノ下差引殘高ノ一欄ヲ增加ス

第二十四條但書ヲ法人タル府縣郡市町村會社ニアリテハ擔當者記名調印セスト改ム

第二十五條中社寺教會ノ下へ府縣郡市町村又ハ其他ノ法人ノ十三字ヲ追加ス

明治二十六年十一月以降金庫直接取扱預金ノ收支ニ關スル計算ヲ左ニ表示スヘシ

金庫直接取扱ノ預金收支計算表

年度事由	自二十六年十一月至二十七年三月		二十七年		二十八年		二十九年	
	預リ	引金局受ヨリ	差引	拂戻	差引	拂戻	差引	拂戻
郵便貯金	一、〇〇八、六八六	二、七六三、八一三	二、四、六六〇、〇三六	二、四、二二二、四六三	二、七、二七八、三三四	二、七、二七八、三三四	三、〇、一七五、五一一	三、六、一五七、四
官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金	四七、一、六二四	九六、八、一三二	八二、一、五五三	六、一八、二〇四	六三、九、一四三	六三、九、一四三	二、八七、一、三七五	二、六、四、一、六三三
社寺教會會社其他人民共有ニ係ル積立金	一〇〇、一、一六	五三、三、三六	五、一七、八二八	一〇〇、一、一六	二、一、七〇〇、七五九	二、一、七〇〇、七五九	三、三、五、九、六三八	三、〇、八、九、七、〇七
計	一、一八三、〇、七八三	二、六、二、六、二、六一	二、五、九、九、九、四、一八	一、五、六、五、九、三、九	二、五、八、一、八、一、三六	二、五、八、一、八、一、三六	三、七、一、五、一、八、四、五	三、七、一、五、一、八、四、五

年度事由	三十一年		三十二年		三十三年		三十四年	
	前年度ヨリ越高	拂戻	差引	前年度ヨリ越高	拂戻	差引	前年度ヨリ越高	拂戻
郵便貯金	二、六、六、八、四、〇、一一	一、九、四、九、〇、四、四	四、三、三、九、九、七、一	二、〇、七、一、八、九、四、一	三、三、三、九、〇、七、四	一、九、五、九、五、二、〇	二、二、〇、九、八、四、九、六	一、九、五、九、五、二、〇
官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金	八、六、七、三、五、五	七、一、六、〇、四、六	一、一、一、八、六、八、五	四、六、四、七、一、七	五、一、六、〇、八、二、〇	五、八、三、〇、九、五	五、一、五、八、三、八、六、一	五、八、三、〇、九、五
社寺教會會社其他人民共有ニ係ル積立金	二、四、一、六、三、二、九、〇	二、三、九、一、一、一、六、六	四、六、四、六、〇、九、八、五	一、六、一、三、四、七、一	一、二、九、一、七、六、五	一、五、〇、九、四、一、三	九、四、四、七、八、一	一、五、〇、九、四、一、三
計	五、一、七、一、四、六、五、八	二、六、五、七、六、二、五、七	五、一、九、〇、九、六、四、二	二、六、三、八、一、二、七、三	二、六、三、八、一、二、七、三	七、一、七、一、七、三、七	二、六、三、八、一、二、七、三	七、一、七、一、七、三、七

明治二十二年六月十五日

大藏大臣 伯爵 松方正義

内閣總理大臣伯爵黑田清隆殿

法律第一號 (明治二十三年四月四日)

保管金規則

第一條 法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管スル公有金私有金ハ左ノ計算法ニ從ヒ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但別ニ法律ヲ以テ失權ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル

第一 保管義務解除ノ期アルモノハ其義務ヲ解除シタル翌日ヨリ起算ス

第二 保管義務解除ノ期ナキモノハ保管ノ翌日ヨリ起算ス

第三 訴訟事件ノ爲ニ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ起算ス

第二條 保管金ハ法律勅令又ハ從來ノ規則若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ附セス

第三條 保管金ノ證書ハ賣買讓與又ハ書入質入スルコトヲ得ス

第四條 保管金ノ受渡ニ屬スル證書ハ證券印税ヲ納ムルニ及ハス

勅令第二號 (明治二十三年四月四日)

預金規則ニ定メタルモノ、外法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依リ政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有金私有金ハ總テ大藏省預金局ニ寄托スヘシ法律勅令又ハ從來ノ規則ニ依ルノ外政府ハ公有金私有金ヲ保管セス

而シテ此勅令第二號ニ所謂預金規則ニ定メタルモノ、外政府ニ於テ公有金私有金保管ノ原因ヲ

定メタル法律勅令及從來ノ規則ニシテ漸次公布セラレタルモノ極メテ多シト雖モ參考ノ爲メ左ニ之ヲ録ス

法律ノ部

一 漂流物取扱規則

(明治八年四月布告第六十六號)

第三十一條

第三十二條 漂流物公賣代金

第三十八條

一 遺失物取扱規則

(明治九年四月布告第五十六號)

第二條

第七條 官ニ預置スル現金

第九條

第十一條

一 控訴上告手續

(明治十年二月布告第十九號)

第十六條 上告者ノ上告狀ニ添ヘテ金拾圓ヲ預ケ置ケルモノ

一 行旅死亡人取扱規則

(明治十五年九月布告第四十九號)

第五條 行旅死亡人等所持金

一 郵便條例

(明治十五年十二月布告第五十九號)

第二百五條 郵便沒書封入金

第四百四十七條 請求ナキ郵便爲替金

一 輕罪控訴規則

(明治十八年一月布告第二號)

第三條 裁判費用ノ保證トシテ豫納スルモノ

一 違刑罪即決例

(明治十八年九月布告第三十一號)

第九條 科料ニ對スル假納金

- 第十條 拘留ニ對スル保證金 (明治十九年八月法律第二號)
- 公證人規則 (明治十九年八月法律第二號)
- 第十八條 公證人身元保證金管轄地方裁判所へ納ムルモノ
- 衆議院議員選舉法 (明治二十二年二月法律第三號)
- 第七十九條 當選訴訟原告人ニ於テ保證トシテ控訴院書記局へ預クル現金
- 土地收用法 (明治二十二年七月法律第十九號)
- 第十四條 起業者土地ヲ受取ル爲補償金ヲ地方廳へ預ケ置クモノ
- 第二十三條 土地ト建物木石作物ト其所有ヲ異ニスル等ノ場合ニ於テ補償金ヲ地方廳へ預ケ置クモノ
- 第二十四條 補償金ヲ受取ラサルトキ起業者該金ヲ地方廳へ預ケ置クモノ
- 國稅滯納處分法 (明治二十二年十二月法律第三十二號)
- 第四十三條 差押物件賣却代剩餘金本人又ハ管理人ニ還付シ能ハサルトキ
- 裁判所構成法 (明治二十三年二月法律第六號)
- 第九十九條 執達吏職務ヲ行フ爲メ保證トシテ管轄地方裁判所へ納ムルモノ
- 重罪控訴豫納金規則 (明治二十三年二月法律第七號)
- 第一條 裁判費ノ保證トシテ豫納スルモノ
- 民事訴訟法 (明治二十三年三月法律第二十九號)
- 第二百八十八條 舉証者ノ豫納スル證據調ノ費用
- 第五百七十一條 差押物保存ノ爲償權者ヨリ執達吏ニ豫納スル費用
- 第六百五十六條 債權者カ自己ノ定メタル價格ニ於テ競賣人ナキトキハ買受クヘキコトノ保證金
- 第六百五十七條 差押債權者ノ競買手續ノ爲メニ供スル保證金
- 第六百六十四條 利害關係人ノ申立ニヨリ競買人カ執達吏ニ預クル保證金
- 第六百六十八條 利害關係人ノ申立ニヨリ競買人カ執達吏ニ預クル現金
- 第六百九十四條 不動産競買代金
- 第七百十六條 強制管理續行ノ爲メノ費用

- 第七百二十一條 船舶ノ監守及保存ノ爲必要ナル處分續行ノ費用
- 第七百五十四條 假差押續行ノ爲メ特別ノ費用ヲ要スルトキ必要ナル費用
- 商法 (明治二十三年四月法律第三十二號)
- 第一千四條 破産者ノ拘留若クハ監守ヲ釋放スルトキ供セシムル擔保金
- 刑事訴訟法 (明治二十三年十月法律第九十六號)
- 第五百五十二條 保釋金裁判所へ差出スモノ
- 取引所法 (明治二十六年三月法律第五號)
- 第四條 營業保證物差出方
- 酒造稅法 (明治二十九年三月法律第二十八號)
- 第十三條 製造者ヨリ差出ス納稅保證金
- 移民保護法 (明治二十九年四月法律第七十號)
- 第十六條 保證金 (明治二十九年三月法律第二十一號)
- 國稅徵收法 (明治三十年三月法律第二十一號)
- 第二十八條 差押物件賣却代金及差押通貨ノ殘金ヲ滯納者ニ還付シ得サル場合ノ現金
- 遺失物法 (明治三十二年三月法律第八十七號)
- 第一條 遺失物ヲ拾得者ヨリ差出ストキ
- 第二條 遺失物公賣代金
- 第十一條 犯罪者ノ置去リタル現金 (明治三十二年三月法律第九十三號)
- 行旅病人及行旅死亡人取扱法 (明治三十二年三月法律第九十三號)
- 第十二條 遺留物件ノ保管
- 第十三條 遺留物品賣却代
- 水難救護法 (明治三十二年三月法律第九十五號)
- 第九條 遭難船舶其他救上タル物件中保管スヘキ現金アルトキ
- 第十一條 救上ケタル物件公賣代金

- 第十六條 市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却抵當又ハ質入ト爲シ取得シタル現金
 - 第十七條 市町村長保管ノ物件又ハ擔保物件ノ公賣代金
 - 第二十五條 漂流物及沈没品ノ引渡ヲ受ケタル物件中現金アルトキ
 - 第二十六條 救上ケタル物件公賣代金
- 勅令ノ部
- 一 罰金追徴ニ係ル上告金課納ノ件 (明治十九年六月勅令第四十六號)
 - 一 罰金及追徴ノ十分一ニ當ル金額ヲ原裁判所書記局ヘ預ケ置クモノ
 - 一 新聞紙條例 (明治二十年十二月勅令第七十五號)
 - 一 第八條 新聞紙發行保證トシテ管轄廳ヘ納ムルモノ (明治二十一年四月勅令第二十號)
 - 一 煙草稅則 (明治二十一年四月勅令第二十號)
 - 一 第三條 營業證約金 (明治二十二年五月勅令第六十號)
 - 一 會計規則 (明治二十二年五月勅令第六十號)
 - 一 第六十九條 工事請負入札及契約保證金
 - 一 第一百三條 出納官吏身元保證金
 - 一 監獄則 (明治二十二年七月勅令第九十三號)
 - 一 第八條 入監者携有金 (明治二十二年七月勅令第九十三號)
 - 一 第二十三條 入監者工錢 (明治二十二年七月勅令第九十三號)
 - 一 第三十八條 入監者携有金 (明治二十二年七月勅令第九十三號)
 - 一 第三十九條 差入金 (明治二十二年七月勅令第九十三號)
 - 一 作業及鐵道會計規則 (明治二十三年三月勅令第三十三號)
 - 一 第四十二條 工事請負物品賣買ノ契約保證金 (明治二十三年三月勅令第三十三號)
 - 一 第四十三條 出納官吏身元保證金 (明治二十三年三月勅令第三十四號)
 - 一 鎮守府造船材料資金會計規則 (明治二十三年三月勅令第三十四號)
 - 一 第九條 工事請負物品賣買ノ契約保證金 (明治二十三年三月勅令第三十四號)

- 第十條 出納官吏身元保證金 (明治二十三年三月勅令第五十三號)
- 一 官立學校及圖書館會計規則 (明治二十三年三月勅令第五十三號)
- 一 第三十七條 工事請負物品賣買ノ契約保證金 (明治二十三年三月勅令第五十三號)
- 一 第三十八條 出納官吏身元保證金 (明治二十三年五月勅令第七十七號)
- 一 中央備荒儲蓄金會計規則 (明治二十三年五月勅令第七十七號)
- 一 第十三條 出納官吏身元保證金 (明治二十三年五月勅令第七十七號)
- 一 地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムル件 (明治二十三年六月勅令第八十八號)
- 一 御料局ヨリ地方長官ニ委任金 (明治二十三年六月勅令第八十八號)
- 一 海軍監獄則 (明治二十三年七月勅令第一百一號)
- 一 第八條 入監者携有金 (明治二十三年七月勅令第一百一號)
- 一 稅關規則 (明治二十三年九月勅令第二百三號)
- 一 第二十六條 稅金ヲ稅關長ニ假納スルモノ (明治二十三年九月勅令第二百三號)
- 一 土木工事起業者保證金ノ件 (明治二十四年三月勅令第二十六號)
- 一 工事起業者保證金 (明治二十四年三月勅令第二十六號)
- 一 度量衡器制限制作修履及販賣免許並檢定規則 (明治二十四年八月勅令第七十七號)
- 一 第十一條 度量衡器ノ製作修履販賣免許ノ身元保證金 (明治二十四年八月勅令第七十七號)
- 一 陸軍一年志願兵條例 (明治二十六年七月勅令第七十三號)
- 一 第二條 一年志願兵自辦金 (明治二十六年七月勅令第七十三號)
- 一 陸軍監獄條例 (明治二十七年一月勅令第三號)
- 一 第八條 入監者携有金 (明治二十七年一月勅令第三號)
- 一 第二十四條 入監者工錢 (明治二十七年一月勅令第三號)
- 一 中央幼年學校條例 (明治二十九年五月勅令第二百十二號)

- 一 第二十七條 幼年學校生徒自辦金
- 一 度量衡器ノ制限其ノ製作及販賣ノ免許並檢定ニ關スル規則改正 (明治三十年四月勅令第百十六號)
- 一 第十一條 度量衡器ノ製作修履販賣免許ヲ受ケタルモノ、身元保證金 (明治三十年十一月勅令第四百十五號)
- 一 第三條 被押送者所持ノ貨幣
從來ノ規則ノ部
- 一 海外電報前納金 (明治十一年四月達第八十四號)
- 一 陸軍武官結婚條例 (明治十四年五月陸軍省達甲第十三號)
- 一 第七條 現役士官並同等官以下ノ納ムル家計保證金
- 一 犯罪ノ用ニ供シタル及犯罪ニ由リテ得タル金銀又ハ物件ノ代金 (明治十五年司法省達丙第二十號)
- 一 民事裁判所假納金 (明治十七年三月司法省丁第八號)
- 一 裁判所假納金但書類送達ニ屬スル費用 (明治十七年八月司法省達第廿九號)
- 一 控訴書類返戻費ノ件
- 一 控訴書類返戻入費 (明治十七年九月司法省達丁第三十一號)
- 一 民事裁判所假納金
裁判所假納金但書類送達ニ屬スル費用 (明治十九年六月內務省訓令第七號)
- 一 乘合馬車取締規則標準 (明治二十二年三月海軍省令第三十六號)
- 一 第五十二條 組合保證金トシテ管轄廳ヘ納ムルモノ
- 一 海軍治罪法施行細則 (明治二十二年三月海軍省令第三十六號)
- 一 第七十一條 犯罪ノ用ニ供シタル物件犯罪ニ因テ得タル物件若クハ其公賣代
- 一 第八十條 犯人置品
- 一 國外文涉訴訟金外國船被覆亡水夫遺留金救恤金布哇國出稼人ニ係ル委託金外國行者ノ預金

以上掲クルモノ、外尙大藏大臣ノ決定ヲ以テ便宜保管金トシテ取扱ヲ爲シタル公有私有金ノ大要ハ即チ左ノ如シ

- 一 神社幣帛料及神祿料 (明治二十三年十月內務省訓令第六百九十號)
- 一 行政裁判所豫納金 (明治二十三年十一月行政裁判所告示第二號)
- 一 書類送達等ニ要スル費用ニ充ツルモノ
- 一 郵便爲替貯金身元保證金規則 (明治二十四年十月逓信大臣公達第四百六十九號)
- 一 第六條 郵便爲替貯金取扱人保證金
- 一 小包郵便法施行細則 (明治二十五年九月逓信省令第十三號)
- 一 第四十四條 配達運付シ能ハサル小包郵便物ヲ處分スルニ郵便沒書取扱ノ例ニヨルトキ
- 一 雜船運民費用償還金及外國人居留地寄託工事費 (明治二十六年十一月大藏省訓令第一八六八號)
- 一 罹災人民恤救金 (明治二十七年五月內務省庶甲第一七八號)
- 一 揮發物貯蓄規則 (明治二十七年七月)
- 一 第十四條 揮發賣却留置金

是ニ於テ大藏大臣伯爵松方正義ハ是等ノ公有金私有金ノ受渡所ハ預金ト同シク東京市内ハ大藏省預金局各地方ハ本支金庫ト定メ同年三月十七日大藏省令第八號ヲ以テ其保管金取扱規程ヲ同年四月二十二日大藏省訓令第四十四號ヲ以テ保管金受渡事務順序ヲ左ノ如ク頒布シ以テ同年四月一日ヨリ實行セシメタリ

大藏省令第八號 (明治二十三年三月十七日)

本年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金取扱規程左ノ通相定ム

保管金取扱規程

- 第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金ハ此規程ニ依テ取扱フモノトス但從來預金局ニ寄托シタルモノハ當分ノ内從前ノ取扱ニ依ル
- 第二條 保管金ノ受渡ハ東京市内ニ於テハ預金本局其他ハ各地本金庫又ハ支金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第三條 保管金ハ權利者ヨリ現金ヲ拂込ムモノト各廳ヨリ拂込ムモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フモノトス
- 第四條 權利者ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ總テ取扱官廳ヨリ寄托通知書ヲ得テ之ニ現金ヲ添ヘ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ差出スヘシ但出納官吏身元保證金ヲ拂込ムトキハ寄托通知書ヲ要セス
- 第五條 取扱官廳ハ權利者ヲシテ現金ヲ拂込マシムルトキハ第一號書式ニ依リ寄托通知書ヲ製シテ之ヲ權利者ニ交付スヘシ
- 第六條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ第四條ノ拂込ヲ受ルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シテ之レヲ權利者ニ交付スヘシ
- 第七條 各廳ヨリ現金ヲ拂込ムトキハ主任官吏ニ於テ第三號書式ニ依リ保管金送付書ヲ製シ現金ト共ニ之ヲ預金本局又ハ各地ノ金庫ニ送付スヘシ
- 第八條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ拂込ヲ受ルトキハ第四號書式ノ保管金領收證書ヲ製シテ之ヲ拂込官吏ニ交付スヘシ

- 第九條 本規程第五條第七條ニ依リ寄托通知書又ハ保管金送付書ヲ發スルモノハ豫メ取扱官廳ヨリ廳印及取扱主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局又ハ各地金庫へ送付スヘシ
- 應印ノ改正又ハ主任官吏ノ變更改印ノトキハ廳印又ハ主任官吏印ノ印鑑ヲ預金本局竝ニ取扱金庫へ送付スヘシ
- 第十條 權利者ニ於テ其拂込ミタル保管金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ得テ之レヲ預金本局又ハ當初拂込ヲナシタル金庫ニ差出スヘシ
- 第十一條 取扱官廳へ保管金ノ拂込ヲ要スルトキハ保管證書ニ第五號書式ノ如ク裏書ヲナシ之ヲ權利者ニ交付スヘシ
- 第十二條 取扱官廳ハ保管金ノ政府ノ所得ニ歸シタル場合ニ於テハ保管證書ノ裏面ニ其事由ヲ記載シ收入官吏ヲシテ一般歳入トシテ之レヲ金庫ニ拂込マシムヘシ
- 第十三條 保管金領收證書ヲ發シタル保管金ニシテ失權ノ期限ニ至ルトキハ預金局ニ於テ一般歳入トシテ納付ノ手續ヲナシ其旨ヲ保管金ヲ寄托シタル官廳へ通知スヘシ
- 第十四條 取扱官廳ハ保管金ノ幾分ヲ歳入トナシ其幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要スルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ當初拂込ヲナシタル預金本局又ハ各地ノ金庫ニ請求スヘシ
- 第十五條 預金本局又ハ各地ノ金庫ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ新ニ二葉ノ保管證書ヲ製シテ舊保管證書ト交換スヘシ
- 第十六條 預金本局又ハ各地金庫ニ於テ權利者ヨリ保管金拂戻ノ請求ヲ受クルトキハ保管證

書ト引換ニ其金員ヲ権利者ニ交付スヘシ

第十七條 各廳ヨリ數人ノ権利者ニ屬スル保管金ヲ取纏メテ拂込ムトキハ保管金送付書ニ各
權利者ノ金額氏名及期滿失効ノ年月日ヲ記シタル別紙ヲ添付スヘシ但權利者ノ不明ナルモ
ノハ其旨ヲ保管金送付書ニ記入スヘシ

第十八條 權利者ニ於テ各官廳ヨリ拂込タル保管金ノ拂戻ヲ受ントスルトキハ其事由ヲ具シ
テ其取扱官廳ニ申出ヘシ取扱官廳ハ之ヲ調査シテ拂戻スヘキ理由アルトスルトキハ第六號
書式ノ拂戻金證明書ヲ權利者ニ交付スヘシ

權利者ハ拂戻金證明書裏面ニ式ノ如ク記名捺印シ之ヲ預金本局又ハ當初其官廳ヨリ拂込タ
ル金庫ニ差出シテ其拂戻ヲ受クヘシ

第十九條 預金本局又ハ各地金庫ハ權利者ヨリ前條ノ請求ヲ受ルトキハ取扱官廳及主任官吏
ノ印影ニ照合シ相違ナキモノハ領收證書ト引換ニ其金員ヲ權利者ニ交付スヘシ

第二十條 保管金ノ利子ハ毎年六月十二月ノ二期ニ分チ之ヲ計算スヘシ

第二十一條 保管金ノ利子ハ毎年七月一月預金局ニ於テ各權利者毎ニ第七號書式ノ保管金利
子證券ヲ製シ取扱官廳ヘ送付スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ證券ヲ受取タルトキハ取扱主任官吏ニ於テ式ノ如ク檢印シ之ヲ權利
者ニ交付スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子證券ヲ受取タルトキハ之ヲ以テ利子仕拂ヲ保管金利子證券ニ記載
アル日本銀行本支店又ハ其代理店ニ請求スヘシ

第二十二條 日本銀行本支店又ハ其代理店ハ前條ノ保管金利子證券ト引換ニ現金ヲ仕拂フヘ
シ

第二十三條 保管證書ヲ亡失シタルトキ第十一條ノ裏書ヲナサハルモノハ再渡シ其裏書ヲナ
シタルモノハ再渡セス取扱官廳ヨリ裏書同様ノ證明ヲ得尙保證人ヲ立テシメ保管金ヲ拂戻
スヘシ

保管證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ見認メ難キニ至リタルモノハ前項ニ準シテ證書ノ交換
又ハ保管金ノ拂戻ヲナスヘシ

(書式略ス)

大藏省訓令第四十四號 (明治二十三年三月二十二日)

金庫 出納 役

保管金受渡事務順序左ノ通相定メ本年四月一日ヨリ施行ス

第一條 明治二十三年勅令第二號ニ依リ預金局ニ寄托スル保管金ハ各地本支金庫ニ於テ此順
序ニ據リ取扱フヘシ

第二條 取扱官廳ノ寄託通知書(第一書式)出納官吏元保ヲ以テ權利者ヨリ直チニ保管金ヲ寄托ス
ルトキハ其現金ヲ領收シ保管證書(第二書式)ニ金員番記號等式ノ如ク記載調印シ之ヲ交付スヘシ

第三條 各官廳ヨリ保管金送付書(第三書式)ヲ以テ保管金ヲ寄托スルトキハ其現金ヲ領收シ保管金
領收證書(第四書式)ニ金員番記號等式ノ如ク記載調印シ之ヲ交付スヘシ

第四條 各官廳ヨリ保管金ヲ寄托スルニ由リ其官廳及取扱主任官吏ノ印鑑ヲ差出シタルトキ

ハ爾後受渡ノ照合ニ供置スヘシ

第五條 寄托通知書及送付書ニハ受入濟年月日金庫名保管證書又ハ領收證書ノ番記號ヲ記入シ且數人ノ權理者ニ屬スル保管金ヲ取纏メテ寄托シタル分ニ係ル別紙アルトキハ之ヲ添ヘ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送致スヘシ

第六條 權理者ヨリ取扱官廳ノ裏書(第五式)ヲシタル保管證書ヲ以テ拂戻ヲ要セハ其裏書ノ印章ヲ印鑑帳ニ照合シ相違ナキヲ認メ之レト引替ニ現金ヲ拂渡スヘシ但其證書及證書控ニ拂渡濟年月日ヲ記入スヘシ

第七條 各官廳ヨリ寄托シタル保管金ニシテ其官廳ノ拂戻金證明書(第六式)ニ權理者ノ裏書ヲナシタルモノヲ以テ拂戻ヲ要セハ其證明書ノ印章ヲ印鑑帳ニ照合シ相違ナキヲ認メ之レト引替ニ現金ヲ拂渡スヘシ但證明書ニハ渡濟年月日ヲ記入シ置クヘシ

第八條 各官廳ノ收入官吏ヨリ取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ以テ一般歳入トシテ納入シタルトキハ預金ノ拂戻ニタテ歳入ノ手續ヲナスヘシ

第九條 取扱官廳ヨリ保管證書ニ事由書ヲ添ヘ該證書ノ分割ヲ要セハ新ニ保管證書二通ヲ調製シ舊證書ト引替フヘシ但シ舊證書及證書控ニ引替濟年月日ヲ記入シ其事由書ニハ引替濟年月日金庫名保管證書ノ新番號ヲ記入シ之ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送付スヘシ

第十條 取扱官廳ノ裏書ヲナサ、ル保管證書ヲ亡失シタルニヨリ更ニ證書ノ下渡シヲ請フトキハ其事由ヲ詳記セル書面ヲ差出サセ事實相違ナキヲ認メ新ニ保管證書ヲ製シ之レニ再渡ノ印章ヲ捺シ交付スヘシ但舊證書控ニハ亡失ノ旨記載シ且再渡ノ年月日ヲ記入シ其書面ニ

ハ再渡濟ノ年月日金庫名保管證書ノ新番記號ヲ記入シ之ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送付スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書ヲナシタル保管證書ヲ亡失シタルニ由リ保證人ノ調印シタル本人ノ事由書ニ取扱官廳ノ證明書ヲ添ヘ指出セハ其證明書ノ印章ヲ印鑑帳ニ照合シ相違ナキヲ見認メ之レト引替ニ現金ヲ拂渡スヘシ但證書控ニ亡失ノ旨記載シ且渡濟年月日ヲ記入シ其事由書ニハ渡濟年月日金庫名保管證書ノ番記號ヲ記入シ之ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送付スヘシ

第十二條 保管證書ヲ汚染毀傷シ其要點ヲ見認メ難キニ至リタルモノハ第十條第十一條ニ準シテ引替ヘシ

第十三條 各地金庫ヘ寄托シタル保管金ニシテ其保管證書又ハ領收證書ニ對シ預金局ニ於テ拂戻ヲナシタルトキ及期滿失效ニ至リ預金局ニ於テ歳入ノ處分ヲ了セハ其旨中央金庫ヲ經テ其金庫ヘ通報スヘシ金庫ハ其通知ヲ受ケタルトキ其事由ヲ證書控ヘ記入スヘシ

第十四條 各地金庫ニ於テ毎日受ケ入タル保管金ハ預金受渡事務順序第二十八條ニ據リ其拂戻金ハ同第三十條ニ據リ取扱フヘシ

第十五條 保管金ヲ受入レタルトキ預金受渡事務順序第三十二條ニ據リ預金受入簿ニ記入スヘシ

第十六條 保管金ヲ拂戻ストキ預金受渡事務順序第三十三條ニ據リ預金拂戻簿ノ即時拂ノ項ニ記入シ尙同第三十四條ニ據リ預金即時拂戻豫算額差引簿ニ記入スヘシ

第十七條 保管證書及保管金領收證書ノ記號ハ預金ノ記號ニ據リ其番號ハ預金通帳及定期預金證書ト區分シ別段ニ各交附スル順次ニ附スヘシ

第十八條 保管證書及保管金領收證書用紙ヲ預金局ヨリ受ケタルトキ又之ヲ使用セントキハ預金受渡事務順序第三十七條ニ據リ通帳及定期證書用紙受渡帳ニ各其項ヲ設ケ記載スヘシ
第十九條 各金庫ニ於テ使用スル左ノ用紙ハ預金局ヨリ之ヲ下渡スヘシ

一 保管證書

一 保管金領收證書

第二十條 各金庫ニ於テ使用シタル前條ノ用紙ハ預金受渡事務順序第四十四條ニ據リ報告書ヲ調製スヘシ但シ廢棄セシ用紙モ同條ニ據ルヘシ

(書式異ス)

斯ノ如クニシテ保管金ニ關スル取扱規程及受渡事務順序ノ制定ヲ見ルニ至レリト雖モ尙其保管金ノ取扱ニ關シテ改正ヲ爲シタル事項尠カラス即明治二十三年三月大藏大臣ハ大藏省訓令第四十五號ヲ以テ左ノ如ク出納官吏ニ命令ヲ與ヘタリ

大藏省訓令第四十五號 (明治二十三年三月二十四日)

出納官吏

本年大藏省令第八號保管金取扱規程ニ據リ身元保證金ヲ寄托スルトキハ現金ニ左ノ書式ノ拂込書ヲ添ヘ拂込ムヘシ

(書式異ス)

出納官吏身元保證金ノ拂込ニ關シ前掲ノ如ク書式ヲ特定スルニ至リタリシハ保管金取扱規程第四條及受渡事務順序第二條ノ定ムル所ニシテ即チ寄托通知書ニ代ヘ特ニ拂込書ヲ作成セシムル事ト爲シタルニ由レリ蓋シ寄托通知書ハ其取扱官廳ニ於ケル出納官吏カ職務上作成シテ他ノ寄托者ニ交付スルノ要アリト雖モ出納官吏自身カ身元保證金ヲ納付スルニ當リ躬ラ寄托通知書ヲ作成スルカ如キハ事態穩當ナラサルカ故ニ斯ク其拂込ニ關スル特例ヲ設ケタルモノト云フ可シ
明治二十三年四月大藏省訓令第五十六號ヲ以テ保管金取扱規程ニ依リ寄托ニ關スル書類ニ押捺スル官印ニ關スル件ヲ定メタリ

大藏省訓令第五十六號 (明治二十三年四月二十二日)

金庫出納役

保管金取扱規程ニ據リ寄托ニ關スル書類ニハ官廳ノ廳印ヲ押捺スル成規ニ候處廳印ヲ置カサル官廳ニ於テハ其取扱廳首席ノ官吏調印候條此旨心得ヘシ

次テ同月十六日大藏省訓令第六十號ヲ以テ保管金受渡事務順序中左ノ如ク改正ヲ施セリ

大藏省訓令第六十號 (明治二十三年四月十六日)

金庫出納役

保管金受渡事務預序中左ノ通り改正ス

第十四條中第三十條ヲ第二十九條ト改ム

第十五條中第三十二條ヲ第三十一條ト改ム

第十六條中第三十三條ヲ第三十二條ト改ム

同條中第三十四條ヲ第三十三條ト改ム

同條中預金即時拂戻豫算額差引簿ヲ預金拂戻豫算額差引簿ト改ム

第十八條中第三十七條ヲ第三十六條ト改ム

第二十條中第四十四條ヲ第四十三條ト改ム

同年五月大藏省訓令第七十八號ヲ以テ各廳一時ノ取扱ニ係ル金銭ハ預金局ニ寄托スル限リニア
ラサル旨ヲ達セリ即左ノ如シ

大藏省訓令第七十八號 (明治二十三年五月十九日)

廳 府 縣

本年一月勅令第二號ヲ以テ公有金私有金寄托ノ義ヲ定メラレ候處各廳ニ於テ一時ノ取扱ニ係
ル金銭ハ包含セサル義ナルニ往々警察官拾得金未決囚所持金ノ類ニシテ直ニ交附又ハ仕拂ヲ
ナス場合ニ於テモ預金局ニ寄托シ却テ事務取扱ノ不便ヲ醸スモノ有之候ニ付今後ハ數日內ニ
其交付又ハ仕拂フヘキ見込ナキモノヲ預金局ニ寄托スル義ト心得ヘシ

同月二十九日大藏省訓令第九十四號ヲ以テ保管金取扱規程ニ依ル拂戻證明書ニ關スル件ヲ定ム

大藏省訓令第九十四號 (明治二十三年五月十九日)

金庫出納役

本年大藏省令第八號保管金取扱規程第六號書式ノ拂戻證明書ヘハ權利者裏書調印ノ上拂戻ヲ
受クヘキ成規ノ處在監人放免ノモノ印形所持セサルトキ取扱官應ヨリ印形所持セサルノ證明
書ヲ以拂戻ノ請求ヲ受クルトキハ本人ノ拇印ヲ押捺セシメ拂戻ヲナスヘシ

同月二十九日更ニ大藏省訓令第九十五號ヲ以テ各控訴院及各裁判所ヨリ寄托スル豫納金及假納
金ニ關スル取扱方ヲ改ム蓋シ各控訴院及各裁判所ニ於ケル豫納金假納金ノ如キハ其分割拂戻ヲ
要スルコト頗ル頻繁ニシテ規程第五條第六條ニ依リ取扱ヲ爲スニ於テハ相互ノ煩雜容易ナラサ
ルモノアルヲ以テ是等ノ保管金ニ限リ第七條及第八條ヲ適用シ受入ノ際領收證書ヲ交付シ置キ
當該廳ニ於テ拂戻ヲ要スル金額ハ隨次拂渡證書ヲ發行セシメ以テ分割拂戻ニ要スル煩雜ナル手
續ヲ避ケンメタルモノニシテ即チ保管金ノ取扱ニ關スル特例ナリト知ルヘシ

大藏省訓令第九十五號 (明治二十三年五月十九日)

金庫出納役

各控訴院各裁判所ヨリ寄托可相成豫納金及假納金ノ儀ハ本年省令第八號保管金取扱規程第五
條第六條ニ據リ可取扱部分ニ有之候處右ニテハ拂戻ノ際第十四條ニ據リ分割ヲ要シ取扱上繁
雜ニ堪ヘサル儀ニ付キ右豫納金及假納金ニ限リ同規程第七條第八條ヲ適用シ取扱官應ニ於テ
ハ保管金送付書ヲ納人ヘ交付スヘキニ付右ニ對シ各金庫ニ於テハ該取扱官應宛ノ保管金領收
證書ヲ納人ヘ交付スヘシ

明治二十三年五月八日內務大臣伯爵山縣有朋ヨリ大藏大臣伯爵松方正義ニ向テ囚徒所持金及盜
犯贓金ノ大藏省預金局ヘ寄托セルモノヲ當初寄托金庫以外ノ本支金庫ニ於テ拂戻スコトニ改正
セン事ヲ照會セリ是ニ於テ大藏省ハ審査ノ結果右ニ關スル取扱手續ヲ定メ五月二十九日其旨ヲ
回答シ同時ニ大藏省訓令第九十六號ヲ以テ金庫出納役ニ對シ預金本局又ハ金庫ヨリ發セル保管
證書又ハ保管金領收證書ニ對シ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ爲ストキノ取扱順序ヲ達セリ

囚徒所持金及盜犯贓金ノ儀ハ本年勅令第二號ニ依リ大藏省預金局ヘ寄托スヘキモノニ有之候處右囚徒ノ内集治監ニ入ルヘキモノ若クハ刑事被告人ニシテ裁判管轄違ヒ若クハ控訴上告等ニヨリ各地ノ監獄ヘ送致スルモノ尠カラス然ルニ右寄托金ノ如キ預金本局ノ外ハ其寄托シタル金庫ニアラサレハ之レカ拂戻ヲ受クル能ハサルヲ以テ右囚人又ハ刑事被告人ノ護送ヲ要スル場合ニ於テハ其寄托シタル預金本局若クハ各地本支金庫ニ就キ一旦該金ノ拂戻ヲ受ケタル上現金或ハ銀行爲替券等ヲ以テ送致シ又之ヲ受取リタル官廳ニ於テハ該地ノ本支金庫ニ就キ更ニ寄托セサルヲ得スト雖トモ斯ノ如キ順序ナルトキハ自然煩雜ニ涉ルノミナラス護送途中ニ於テ盜難又ハ紛失等ノ憂ヒモ有之且銀行爲換ニ付スルトキハ亦タ其手數料等ノ支拂ヲ要シ其他不都合ノ廉不少就テハ前記金種ノ如キハ保管金領收證書ヲ以テ送致シ之ヲ受取リタル官廳ニ於テハ拂戻證明書ヲ以テ其地所在ノ本支金庫ニ就キ現金ノ拂戻ヲ受クルコトヲ得セシメ候様致度此段及御協議候也

明治二十三年五月八日

內務大臣 伯爵 山縣有朋

大藏大臣 伯爵 松方正義殿

追テ十八年第十三號布告預金規則ニ依リ預入ルヘキ囚徒工錢ニ於テモ本文ニ準シ取扱ハセ候様致度此段添テ及御協議候也

大藏大臣 回答

囚徒所持金及盜犯贓金之義ニ付警甲第七號ヲ以テ御協議之趣了承右ハ左ノ順序ニ據リ可取扱候

- 一 預金本局又ハ金庫ヨリ發シタル保管證書ヲ以テ他ノ取扱官廳ヘ移シ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ要スルトキハ取扱官廳ハ其事由書ニ保管證書ヲ添ヘ當初拂込ミタル預金本局又ハ金庫ヘ送付シ證書ヘ裏書ヲ受ケ之レヲ他ノ取扱官廳ヘ送付スルモノトス
- 一 前項ノ保管證書ノ送付ヲ受ケタル取扱官廳ハ該保管證書ヲ以テ拂戻ヲ要スルトキハ成規ノ如ク證書ヘ裏書調印ノ上權利者ヘ交附シ其官廳及取扱主任ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スルモノトス

但曩ニ印鑑ヲ交付シアルモノハ更ニ送致スルニ及ハス

- 一 預金本局又ハ金庫ヨリ發シタル保管金領收證書ノ全部又ハ幾分ヲ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ要スルトキハ取扱官廳ハ其事由書ヲ當初拂込ミタル預金本局又ハ金庫ヘ送付シ其承諾ノ旨ヲ受ケ他ノ取扱官廳ヘ領收證書ノ記番號拂戻ヲ要スル金額等ヲ通知スルモノトス
- 一 前項ノ通知ヲ受ケタル取扱官廳ニ於テ其保管ノ拂戻ヲ要スルトキハ成規ノ拂戻金證明書ヲ發スルモノトス

但印鑑ヲ送付スルハ前第二項ニ同シ

右及御回答候也

明治二十三年五月二十九日

大藏大臣 伯爵 松方正義

內務大臣 伯爵 西郷從道殿

追テ囚徒工錢ノ義ハ預金規則ニ據リ御預ケ入相成候ニ付本文ノ如ク特別ノ取扱ヲ爲ストキハ

人民一般同一ノ取扱ヲ免サ、ルヲ得サル様相成夫是差支之筋少ナカラス候條御協議ニ應シ難ク尤右ニテ御差支ニ候ハ、保管金トシテ御預ケ入相成候ハ、御差支無之ト存候此段添テ及御答候也

大藏省訓令第九十六號 (明治二十三年五月二十九日)

金庫出納役

保管金之内預金本局又ハ金庫ヨリ發付シタル保管證書又ハ保管金領收證書ニ對シ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲナストキハ左ノ順序ニ據リ取扱フヘシ

- 一 預金本局又ハ金庫ヨリ發シタル保管證書ヲ以テ他ノ金庫ヨリ拂戻ヲ受ケタル爲メ取扱官廳ヨリ保管證書ニ事由書ヲ添ヘ當初拂込ミタル預金本局又ハ金庫ヘ差出シタルトキハ該證書ニ左ノ書式ノ如ク裏書ヲナシ之レヲ返付シ同時ニ拂戻ヲナスヘキ金庫ヘ其拂戻ノ請求ヲナスヘキ取扱官廳名金額保管證書ノ記番號ヲ記入シタル書面ヲ以テ通知スヘシ但證書控ニ拂戻ヲナスヘキ金庫名及年月日ヲ記入シ金庫ニ於テハ事由書ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送付スヘシ

(裏書々式)

表面金額何應ノ裏書證明ニ據リ拂戻スコトヲ何地何金庫ヘ通知セリ

預金局長氏名印

(又ハ何地何金庫)

- 一 前條ノ通知ヲ受ケタル金庫ニ於テ通知先ノ裏書及取扱官廳ノ裏書シタル保管證書ヲ以テ

拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ金額證書ノ記番號等ヲ通知書ニ照合シ其他ハ保管金受渡事務順序ニ據リ拂戻ヲナスヘシ

- 一 預金本局又ハ金庫ヨリ發シタル保管金領收證書ノ全部又ハ幾分ヲ他ノ金庫ヨリ拂戻ヲ受ケタル爲メ取扱官廳ヨリ事由書ヲ當初拂込ミタル預金本局又ハ金庫ヘ差出シタルトキハ承諾ノ旨ヲ回答シ同時ニ拂戻ヲナスヘキ金庫ヘ其拂戻ノ請求ヲナスヘキ取扱官廳名金額領收證書ノ記番號ヲ記入シタル通知書ヲ送付スヘシ但證書控ニ拂戻ヲナスヘキ金庫名及年月日ヲ記入シ金庫ニ於テハ事由書ヲ中央金庫ヲ經テ預金局ヘ送付スヘシ

- 一 前條ノ通知ヲ受ケタル金庫ニ於テ其拂戻金證明書ヲ以テ拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ領收證書ノ記番號及ヒ通知書ノ金額ニ超過セサルヤヲ照合シ其他ハ保管金受渡事務順序ニ據リ拂戻スヘシ

一 拂戻ヲナスヘキ金庫ニ於テハ取扱官廳ノ印鑑差出シナキモノハ之レヲ徵シ保管證書ノ裏書又ハ拂戻金證明書ノ印章ニ照合スヘシ

而シテ此訓令ハ前段ニ掲クル所ノ甲官廳ヨリ寄托シタル囚徒所持金及盜犯贓金ヲ乙官廳ニ移送スル場合ニ於ケル金庫ノ取扱手續ヲ定メタルモノナリト雖モ尙他ノ種類ニ屬スル保管金ニ在テモ便宜本訓令ニ依リ取扱ヲ爲シタルモノ尠カラズ蓋シ保管金取扱手續中ノ一便法ニシテ即チ現金回送ノ不便ヲ避ケタルモノト云フ可シ

從來預金局ニ於テ保管金仕拂方ハ拂戻金一口毎ニ中央金庫雜部金引出切符ヲ調製シ之ヲ拂受人ニ交付シテ中央金庫派出員ヨリ現金ヲ領收スル順序ナルモ日々多人數ノ納拂有リ其輻輳スル場

合ニ於テハ保管金證書又ハ雜部金引出切符ヲ調製スル等甚繁雜ニシテ爲メニ納拂人時間ヲ徒費シ不便尠カラサルヲ以テ保管金拂戻ニ限リ其拂戻スヘキ成規ノ證書(保管金證書(拂戻書(證明書(利息子證)ヲ預金局ニ於テ検査シ右證書ヲ派出員へ渡シ直ニ現金ヲ仕拂ハセ其一日分ノ合計額ヲ以テ雜部金引出切符ヲ調製シ之ヲ派出員へ交付シ渡濟證書ト交換スルコト、セハ極メテ便利ナルヲ以テ同年六月大藏大臣ヨリ左ノ如ク金庫出納役へ達示セリ

金庫出納役

中央金庫ヨリ預金局へ派出ノ上現金仕拂ノ義來ル七月一日ヨリ保管金ヲ限リ左ノ順序ニ據リ取扱フヘシ

明治二十三年六月二十七日

大藏大臣 伯爵 松方正義

- 一 預金局ニ於テ請求人ヨリ差出ス保管證書取扱官廳ニ於テ拂戻ヲ證明セシモノ保管金拂戻證明書保管金利子證券ヲ検査シ要拂戻ノ印ヲ捺シ預金局長檢印ノ上中央金庫派出員へ交付スヘシ
 - 一 中央金庫派出員ハ前項證書表面ノ金額及預金局長ノ檢印ヲ認メ直ニ現金ヲ仕拂證書ニ渡濟ノ印ヲ捺シ而シテ其日仕拂濟書ハ合計金額ノ雜部保管金引出切符ト交換スヘシ
- 而シテ預金局ニ於テ直ニ領收スヘキ預金保管金及運用金ハ從來三連接續セル拂込書ヲ納入へ交付シ納入ニ於テ之レニ金員ヲ記入調印セシメ預金局主任檢印ノ上原書ヲ切斷シ二連接續ノ儘之レヲ中央金庫派出員へ交付シ同派出員ハ右ニ據リ納入ヨリ現金ヲ領收シ二連ノ内一葉ヲ派出員ニ留メ一葉ニ領收ノ證印ヲナシテ預金局主任へ返付シ以テ彼是ノ受授ヲ了シ其日ノ領收高ハ之レヲ中央金庫ノ雜部保管金トナスノ順序ナリシモ斯テハ納入ニ記名調印等ヲナサシムルカ爲メ

時間ヲ費シ不便尠ナカサルヲ以テ此手續ヲ改メ納入ヨリ徵セル書類ヲ以テ現金受入ノ材料トナシ得ヘキ保管金寄託通知書同送付書出納官吏身元保證金拂込書ニ限リ一定ノ受入書ヲ添ヘ之レヲ中央金庫派出員ニ交付シ同派出員ハ右ニ據リ納入ヨリ現金ヲ領收シ右寄託通知書等ニ記載アル金員ノ左傍へ年月日領收濟ノ證印ヲ捺シテ之レヲ預金局主任へ返付シ以テ彼是ノ受授ヲ了スルコト、シ七月七日大藏大臣ヨリ金庫出納役ニ其旨ヲ達セリ

金庫出納役

中央金庫ヨリ預金局へ派出上保管金領收ノ儀來ル七月七日ヨリ左ノ順序ニ據リ取扱フヘシ
明治二十三年七月七日
大藏大臣 伯爵 松方正義

- 一 預金局ニ於テハ納入ヨリ差出シタル保管金寄託通知書同送付書出納官吏身元保證金拂込書ヲ調査主任檢印ノ上之レニ受入書別紙書式ヲ添ヘ中央金庫派出員ニ交付スヘシ
 - 一 中央金庫派出員ハ前項ノ受入書ヲ得テ該現金ヲ納入ヨリ領收シ保管金寄託通知書同送付書出納官吏身元保證金拂込書ニ記載アル金員ノ左傍へ年月日領收濟ノ證印ヲ捺シテ之レヲ預金局へ返付スヘシ
- 控訴院ニ於ケル豫納金及各裁判所ニ於ケル假納金ノ保管取扱方ニ付テハ茲ニ大藏省訓令第九十五號ヲ以テ特別ノ手續ヲ定メタリシカ明治二十三年十月ニ至リ行政裁判所ノ豫納金モ亦右ニ依リ取扱フヘキモノトシ左ノ如ク金庫出納役へ訓示セリ

大藏省訓令第三百三十七號 (明治二十三年十月十四日)

金庫出納役

行政裁判所ヨリ各金庫へ寄托可相成豫納金ノ儀モ本年訓令第九十五號ニ據リ取扱フヘシ
次テ同年十月十六日大藏省訓令第三百三十八號ヲ以テ左ノ如ク金庫出納役へ達セリ

大藏省訓令第三百三十八號 (明治二十三年十月十六日)

金庫出納役

甲應ヨリ寄托シタル保管金ヲ其甲應所在地ノ乙應へ移送ヲ要スルトキ寄托金庫ヲ同シクスル
モノハ甲應ノ通知書及乙應ヨリ成規ノ印鑑送付ヲ得テ寄托官廳移轉ノ旨ヲ證書原符ニ記入シ
乙應ノ寄托トナシ其旨預金局へ届出スヘシ

蓋シ此訓令第三百三十八號ハ既ニ本節ニ掲ケタル甲應寄托ノ保管金ヲ乙應へ移送ヲ要スル場合ノ
手續ニ關スル便宜法ニシテ即チ其甲乙官廳ニ於ケル保管金ノ取扱金庫相同シキトキノ取扱方法
ヲ定メタルモノナリ

然ルニ明治二十六年ニ至リ大藏大臣渡邊國武ハ政府所有ノ有價證券及法律規則ノ結果政府ニ於
テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ニシテ從來各官廳ノ物品會計官吏若クハ金庫ニ於テ
保管スルモノ及其他國立銀行ニ於テ保管スルモノニアリテモ亦政府保管公有金私有金ト同シク
之レヲ預金局ニ寄托セシメ其保管出納ハ預金局長ヲシテ一定ノ方法ノ下ニ取扱ハシムルノ必要
ヲ認メ茲ニ其勅令案ヲ起シ此年六月九日ヲ以テ之レヲ閣議ニ提出シタリ然ルニ其勅令制定ニ關
スル理由ニアリテハ全然閣議ノ容ル、所トナリタリシモ其勅令案ハ少シク修正ヲ加ヘラレ同年
七月十二日ヲ以テ公布セラレタリ其提議ノ要旨及公布セラレタル勅令ハ即チ左ノ如シ

閣議案

有價證券ハ從來物品會計官吏ニ於テ保管スルモノト金庫ニ於テ保管スルモノト國立銀行ニ於
テ保管スルモノトノ三種アリ其所以ハ各其規定ノ出所ヲ異ニスルカタメニ有之然レトモ政府
所有ノ有價證券ナルト政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ナルトヲ問ハス等
シク政府ニ於テ保管スヘキモノナルハ言フ俟タス畢竟是迄ハ之ニ關スル規定ノ一途ニ出テサ
ルカタメ隨テ取扱方モ區々ニ涉リタル義ニシテ取締上掛念有之候間以來右有價證券ハ總テ當
省預金局ヲシテ保管セシメ可然候依之勅令案ヲ具シ茲ニ閣議ニ提出ス

勅令第七十號 (明治二十六年七月十日)

各官廳ニ於テ管理スル政府所有ノ有價證券ハ保管ノ爲メ大藏省預金局ニ寄托ス可シ
政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ大藏省預金局ニ寄托ス可シ
而シテ此勅令ノ施行ニ由リ預金局ノ保管ニ屬シタル政府所有ノ有價證券及政府ニ於テ保管ノ義
務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ漸次ニ増加シタリ參考ノ爲メ左ニ之ヲ録ス

法律ノ部

- 一 國立銀行條例 (明治五年十一月布告第三百四十九號)
- 第六條 國立銀行ヨリ政府へ抵當トシテ預クル公債證書(明治十一年第五號布告ヲ以テ改正)
- 一 衆議院議員選舉法 (明治二十二年二月法律第三號)
- 第七十九條 當選訴訟原告人ニ於テ保證トシテ控訴院書記局へ預ケル有價證券
- 一 民事訴訟法 (明治二十三年三月法律第二十九號)
- 第六百六十四條 利害關係人ノ申立ニヨリ執行人カ執達吏ニ預クル保證有價證券
- 第六百六十八條 利害關係人ノ申立ニヨリ執行人カ執達吏ニ預クル有價證券
- 一 商法 (明治二十三年四月法律第三十二號)

- 一 第四百四條 破産者ノ拘留若クハ監守ヲ釋放スルトキ供セシムル擔保有價證券 (明治二十三年十月法律第九十六號)
- 一 第四百五十二條 保釋ノ爲メ裁判所ヘ差出ス有價證券 (明治二十九年三月法律第二十八號)
- 一 酒造税法 製造者ヨリ差出ス納税保證有價證券 (明治二十九年四月法律第七十號)
- 一 移民保護法 取扱人ノ納付スル保證金代用國債證券 勅令ノ部 (明治二十年十二月勅令第七十五號)
- 一 新聞紙條例 新聞紙發行保證トシテ管轄廳ヘ納ムルモノ (明治二十二年五月勅令第六十號)
- 一 會計規則 工事項目入札及契約保證金代用ノ公債證書 (明治二十三年三月勅令第三十三號)
- 一 第六十九條 物品賣買ノ公債證書 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 (明治二十三年三月勅令第三十四號)
- 一 作業及鐵道會計規則 (明治二十三年三月勅令第三十三號)
- 一 第四十二條 工事項目物品賣買ノ契約保證金代用ノ公債證書 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 (明治二十三年三月勅令第五十三號)
- 一 第四十三條 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 鎮守府造材材料資金會計規則 (明治二十三年三月勅令第三十四號)
- 一 第九條 工事項目物品賣買ノ契約保證金代用ノ公債證書 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 (明治二十三年三月勅令第五十三號)
- 一 第十條 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 官立學校及圖書館會計規則 (明治二十三年五月勅令第七十七號)
- 一 第三十七條 工事項目物品賣買ノ契約保證金代用ノ公債證書 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 (明治二十三年五月勅令第七十七號)
- 一 第三十八條 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書 中央備荒儲蓄金會計規則 (明治二十三年五月勅令第七十七號)
- 一 第十三條 出納官吏身元保證金代用ノ公債證書

- 一 甲紙賣捌規則 (明治二十三年十一月勅令第二百七十一號)
- 一 第七條 拂下甲紙代延納擔保ノ爲メ納ムルモノ (明治二十四年三月勅令第二十六號)
- 一 土木工事業業者保證金ノ件 工事業業者保證有價證券 從來ノ規則ノ部 (明治十九年六月內務省訓令第七號)
- 一 乘合馬車取締規則標準 (明治十九年六月內務省訓令第七號)
- 一 第五十二條 組合保證トシテ管轄廳ヘ收ムル有價證券

斯ノ如ク政府所有ノ有價證券及政府ニ於テ保管ノ義務ヲ有スル公有私有ノ有價證券ハ大藏省預金局ノ保管ニ屬スル事トナリタルヲ以テ茲ニ大藏大臣渡邊國武ハ明治二十六年七月十二日大藏省令第十六號及同省訓令第二十四號ヲ以テ明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程及同省訓令第四十四號保管金受渡事務順序ヲ改正シテ以テ是等ノ有價證券ハ公有金私有金ト同シク東京市內ハ大藏省預金局長、地方ハ金庫ヲシテ其取扱ヲ實行セシムルニ至レリ右改正省令及訓令左ノ如シ

大藏省令第十六號 (明治二十六年七月十二日)

明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程左ノ通追加ス

第一條中「勅令第二號」ノ下ニ「明治二十六年勅令第七十號」ノ十二字及「保管金」ノ下ニ「及保管有價證券」ノ七字ヲ加フ

第二條中「保管金」ノ下ニ「又ハ保管有價證券」ノ八字ヲ加フ

第三條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ「權利者ヨリ」ノ下「現金」ヲ三字ヲ削除ス

- 第四條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第五條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字及「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第八條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第九條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第十條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第十一條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第十六條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字及「金員」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第十八條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字及「拂戻金」ノ下ニ「又ハ拂戻有價證券」ノ八字ヲ加ヘ
- 第二項「拂戻金」ノ三字ヲ削ル
- 第十九條中「金員」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
- 第二十三條中第一項「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ第二項「保管金」ノ下ニ「若クハ有價證券」ノ七字ヲ加フ

(書式改正略ス)

大藏省訓令第二十四號 (明治二十六年七月十二日)

金庫出納役

明治二十三年大藏省訓令第四十四號保管金受渡事務順序中左ノ通加除改正ス

第一條中「勅令第二號」ノ下ニ「明治二十六年勅令第七十號」ノ十二字及「保管金」ノ下ニ「及有價證券」ノ五字ヲ加フ

- 第二條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ「現金」ノ下ニ「又ハ證券」ノ四字ヲ加フ
 - 第三條中「各官廳ヨリ保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ「以テ保管金」ノ下ニ「又ハ證券」ノ四字ヲ加ヘ「現金」ノ下ニ「又ハ證券」ノ四字ヲ加ヘ「領收シ」ノ下ノ「保管金」ノ三字ヲ削ル
 - 第四條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
 - 第六條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
 - 第七條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加ヘ「現金」ノ下ニ「又ハ證券」ノ四字ヲ加フ
 - 第十一條中「現金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
 - 第十四條中左ノ一項ヲ加フ
 - 各地金庫ニ於テ毎日受拂ヲナシタル有價證券ハ供託物取扱順序第十八條ニ準シ取扱フヘシ
 - 第十五條中左ノ一項ヲ加フ
 - 各地金庫ニ於テ寄托ヲ受タル有價證券ハ之ヲ其金庫ニ保管シ供託物取扱順序第十七條ニ準シ受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ記入スヘシ
 - 第十七條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ
 - 第十九條中左ノ但書ヲ加フ
- 但有價證券ニ係ル保管證書及領收證書ノ用紙ハ當分ノ内保管金ニ係ル保管證書及領收證書ノ用紙ヲ代用シ其不用ノ文字ハ朱書ヲ以テ抹殺シ使用スヘシ
- 同條中「保管金」ノ下ニ「又ハ有價證券」ノ六字ヲ加フ

(書式改正略ス)

此時ニ當テ既ニ金庫出納役ハ明治二十三年四月一日以降會計規則第百三條ニ依ル出納官吏身元保證金代用ノ公債證書ノ保管出納ヲ爲シ來リシカ此ノ取扱ニ關スル總テノ責任ハ同年一月大藏省令第二號出納官吏身元保證金取扱規則及同年訓令第十六號等ニ依リ金庫出納役直接ニ負擔スル所ニシテ預金部以外ノ取扱ニ屬スルモノナルカ故ニ其取扱ハ一旦金庫出納役ヲシテ預金局ニ引繼カシムヘキ必要アルヲ以テ茲ニ大藏大臣渡邊國武ハ特ニ大藏省訓令第十七號及第二十七號ヲ以テ金庫出納役ヲシテ其取扱方ヲ預金部ニ引繼カシムルコト、セリ

大藏省令第二號 (明治二十三年一月二十五日)

本年勅令第四號第六條ニ依リ出納官吏身元保證金取扱規則左ノ通り相定ム

出納官吏身元保證金取扱規則(抄録)

第五條 出納官吏會計規則第百三條但書ニ依リ現金ニ代用スル公債證書ハ記名トシ利札付ノマ、之レヲ金庫ニ預ケ入レ其保管證書ヲ得之レニ書入證書ヲ添ヘ各省大臣ヲ經由シテ大藏大臣ニ納付スベシ

第十條 出納官吏公債證書ヲ以テ身元保證金ニ代用シタル場合ニ於テハ其利子渡期ニ至リ前ニ公債證書ヲ預入タル金庫ニ於テ其利札ヲ受取ルヘシ

大藏省訓令第十六號 (明治二十三年二月二十六日)

金庫出納役

明治二十三年一月大藏省令第二號出納官吏身元保證金取扱規則ニ據リ出納官吏ヨリ身元保證金ノ代用トシテ記名公債證書ヲ金庫ヘ保管預ケ入レノ請求ヲナスモノアルトキハ各金庫ニ於テ左ノ順序ニ據リ之レヲ保管預ケニナスヘシ

第一條 出納官吏ヨリ身元保證金代用ノ爲メ金庫ヘ記名公債證書ヲ保管預ケナストキ(預ケ入ヘキ公債證書ノ種書式ハ適宜)金庫ハ之レヲ領收記帳シ第一號書式ノ保管證書ヲ調製シ其甲號ハ公債證書ヲ預ケ入レタル出納官吏ヘ交付シ其乙號證書ハ第二條ノ順序ニ據リ大藏省ヘ送付スヘシ

第二條 中央金庫ニ於テ保管預リヲナシタル乙號保管證書ハ直ニ之ヲ大藏省ヘ差出スヘシ

中央金庫ニ屬スル支金庫ニ於テ保管預リヲナシタル乙號保管證書ハ之ヲ中央金庫ヘ送付シ中央金庫ハ之レヲ記帳シ該證書ヘ式ノ如ク捺印シテ之ヲ大藏省ヘ差出スヘシ

各本金庫ニ屬スル支金庫ニ於テ保管預リヲナシタル乙號保管證書ハ之ヲ本屬ノ本金庫ヘ送附シ其本金庫ハ之ヲ記帳シ式ノ如ク捺印シ中央金庫ヘ送附スヘシ中央金庫ハ之ヲ記帳シ式ノ如ク捺印シテ大藏省ヘ差出スヘシ

第三條 第一條ニ依リ各金庫ヘ保管預リニセシ公債證書ノ利札ハ其利子渡期限ニ於テ出納官吏ノ請求アルトキハ各金庫ニ於テ之ヲ裁斷シ出納官吏ニ交付シ第二號書式ノ領收證書ヲ徴スヘシ

第四條 各金庫ニ於テ保管預リニセシ公債證書ヲ拂戻ストキハ乙號保管證書ニ裏書ヲナシ之レヲ大藏省ヨリ金庫ヘ返付ス但本金庫又ハ支金庫ヨリ發シタル保管證書ハ中央金庫本金庫ヲ經由シテ之レヲ返付スヘシ

前項ニ據リ大藏省ヨリ返付セラレタル乙號保管證書ト拂戻シテ受クヘキ出納官吏ヨリ差出ス處ノ甲號保管證書ト對照ノ上公債證書ヲ返付スヘシ

第五條 各金庫ニ於テハ公債證書保管預リ書留簿書式適宜ヲ設ケ其受拂ヲ記入スヘシ (書式略ス)

大藏省訓令第二號 (明治二十四年一月十日)

金庫出納役

出納官吏身元保證金代用記名公債證書ノ代リニ他人ノ記名公債證書ヲ以テ保管ノ請求アルトキ之レヲ取扱方左ノ通心得ヘシ

- 一 出納官吏ヨリ他人ノ記名公債證書ヲ差出ストキハ金庫ハ之レヲ保管方取扱フヘシ但本文他人ノ記名公債證書ヲ差出ス場合ハ其記名者承諾ノ有無ハ金庫ノ關スル所ニ非サルモノナレハ金庫ハ單ニ其公債證書ヲ保管スルニ止ルヘシ
- 一 前項他人ノ記名公債證書ニアツテハ明治二十三年大藏省訓令第十六號中第一號書式保管證書額面處ヘ所有主ノ氏名ヲ掲載シ其ノ他人ノ所有ナルコトヲ明カニスヘシ

大藏省令第十七號 (明治二十六年七月十三日)

明治二十三年大藏省令第二號出納官吏身元保證金取扱規則第五條中之「下」及第十條中「預入タル」ノ下ニ「預金本局又ハ」ノ六字ヲ加フ

大藏省訓令第二十七號 (明治二十六年七月十三日)

出納官吏 金庫 出納役

明治二十三年大藏省訓令第十六號ニヨリ金庫ニ於テ取扱フタル出納官吏身元保證金ノ代用公債證書ハ本訓令到達ノ日ニ於テ保管證書ノ原符及書留簿ト共ニ預金部ノ取扱ニ移換ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テ前項預金部へ移換ヲナシタルトキハ保管金受渡事務順序第十四條第二項ノ書式(取扱官廳名ノ記入ヲ要ス)ニ準シタル移換報告表ヲ調製シ之レヲ大藏省へ送付スヘシ

明治二十三年大藏省訓令第十六號ニ依リ金庫ヨリ發シタル保管證書ハ其儘使用シ別ニ書換ヲ成スニ及ハス保管金受渡事務順序ニ依リ發シタル保管證書ト同一ノ取扱ヲ爲スモノトス前項金庫ヨリ發シタル保管證書ヲ以テ公債證書ノ拂戻ヲナストキハ保管金取扱規程第十條ニ依リ取扱官廳ノ裏書アル該證書ヲ以テ拂戻ヲナスヘシ

右ノ如ク從來金庫出納役カ預金部以外ニ於テ直接取扱ヲ爲シ來リシ身元保證金代用ノ公債證書ヲ預金部ノ取扱ニ引移シタルト同時ニ訓令第二十六號ヲ以テ其代用公債證書ノ取扱ニ關スル事項ヲ定メ明治二十三年大藏省訓令第十六號ヲ廢止セリ

大藏省訓令第二十六號 (明治二十六年七月十三日)

出納官吏 金庫 出納役

明治二十三年大藏省訓令第四十五號令文中「保證金」ノ下ニ「身元保證金」ノ代用公債證書ノ十三字「現金」ノ下ニ「又ハ證券」ノ四字ヲ加フ

(書式改正略ス)

明治二十四年大藏省訓令第二號第二項中「第十六號中第一」トアルヲ「第四十四號中第二」ト改ム

明治二十三年大藏省訓令第十六號ヲ廢止ス
而シテ明治二十六年七月三十一日大藏大臣ノ決定ヲ以テ預金部ニ於テ保管スヘキ有價證券ノ種別及其保管義務ノ有無ノ決定ヲ各官廳ニ一任スルコト、爲シ預金局長ハ之ヲ金庫出納役へ通牒シタリ其通牒即チ左ノ如シ

本年勅令第七十號ニ依リ保管スヘキ有價證券ノ種類及政府ニ於テ保管ス可キ義務アルモノナ
ルヤ否ヤノ區分ハ各廳ニ於テ相定メ候ニ付金庫ニ於テハ各廳ヨリノ送付書又ハ通知書ヲ添へ
寄托スルモノハ之レヲ領收スヘキ事ニ省議相決候間此段及御通知候也

明治二十六年七月三十一日

預金局長 松尾 臣 善

金庫 出納役

日本銀行總裁 川田 小一郎 殿

明治二十三年四月一日以降大藏省預金部カ取扱ヲ爲シタル保管金中布哇國出稼人ノ貯金保管出納ニ關スル方法順序ハ概シテ當時外務大藏兩大臣ノ往復ニ由テ特定セラレタルモノニシテ他ノ公有金私有金トハ其取扱ヲ異ニセリ今煩ヲ厭ヒ之ヲ省ク

斯クテ明治二十六年九月二十日大藏省令第二十六號ヲ以テ從來大藏省預金局ニ於テ直接保管ヲナシタル貯金保管金供託金及有價證券ハ同年十一月一日ヨリ中央金庫ヘ引繼キ金庫出納役ニ於テ擔任スルコト、ナレリ而シテ本節ニ於テハ明治二十三年四月一日以降明治二十六年十月ニ至ル期間預金局取扱ニカ、ル公有金私有金竝ニ有價證券ノ保管ニ關スル事項ヲ記述セリト雖モ此他ニ其取扱方ニ關シテ既ニ一般預金ノ部ニ掲ケタルモノアルヲ以テ須ク參照ヲ要ス
預金局取扱公有私有金及有價證券ノ保管ニ關スル計數ハ左表ノ如シ

預金局保管金收支計算表

年度	事由		前年度ヨリ越高	受 入	高 拂	戻 高	差 引 殘 高
	受 入	高 拂					
二十三年度	〇	四六八、八九	一七七四、八八	一三〇六、六九九	四六八、八九		
二十四年度	四六八、二八九	一、七五四、九八三	一、〇五九、五六九	一、一六三、六〇二			
二十五年年度	一、一六三、六〇二	八二一、九六九	一、五六六、五八一	四一八、九九一			
自廿六年四月至全十年十月	四一八、九九一	六一九五、一二	五〇八、八一八	五二九、六八五			
合 計	〇	四、九七一、三三三	四、四四一、六六八	五二九、六八五			

備考

本表合計ノ行最下段ノ差引殘高五二九六八五、ハ二十六年十一月一日ヲ以テ金庫出納役ヘ引繼キ爲シタル計數ナリト知ルヘシ

預金局保管有價證券收支計算表

年度事由	種類		諸 公 債 證 書	株 券	諸 證 券
	受 入 高	拂 戻 高			
自廿六年七月至全十年十月	三四七九一、一四五	三、八六三、四三〇	三二、六八五	一五八、〇六六	一五、七九三
差 引 殘 高	三〇、九二七、七一五	三、三三五〇	二九、三三五	一四二、二七二	

備考

本表差引殘高ノ行ニ掲ケタル各種類別金額ハ二十六年十一月一日ヲ以テ金庫出納役ヘ引繼キ爲シタル計數ナリト知ルヘシ

第二節 金庫直接取扱保管

大藏省預金局ニ於ケル公有私有金及有價證券ノ保管出納ハ明治二十六年九月大藏省令第二十二號ヲ以テ同年十月三十一日限り金庫出納役直接ノ取扱ニ引移シタルコトハ既ニ述タル所ノ如シ而シテ大藏大臣渡邊國武ハ此省令ヲ頒布スルト同時ニ大藏省令第二十號ヲ以テ明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程ヲ左ノ如ク改正シ又同省訓令第三十二號ヲ以テ預金保管物及供託物金庫出納事務規程ヲ新ニ定メ以テ此年十一月一日以降金庫出納役ヲシテ直接其取扱ヲ實行セシメタリ而シテ金庫出納事務規程ハ既ニ一般ノ部ニ示セルヲ以テ之ヲ略ス

大藏省令第二十號 (明治二十六年九月二十日)

明治二十三年大藏省令第八號保管金取扱規程左ノ通改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

保管物取扱規程

- 第一條 明治二十三年勅令第二號明治二十六年勅令第七十號ニ依ル金錢有價證券ノ保管受渡ハ此規程ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 現金又ハ有價證券ハ權利者ヨリ寄托スルモノト官廳ヨリ寄托スルモノトノ二種ニ分チ之ヲ取扱フヘシ
- 第三條 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄託セシムルトキハ第一號書式ノ寄托通知書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ
- 第四條 權利者ハ現金又ハ有價證券ニ前條ノ寄托通知書ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ
- 第五條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ保管證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ
- 第六條 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄托スルトキハ第三號書式ノ送付書ヲ製シ之ヲ現金又ハ有價證券ニ添ヘ金庫ヘ送付スヘシ
- 第七條 金庫ニ於テ前條ノ寄托ヲ受ケタルトキハ第四號書式ノ領收證書ヲ製シ之ヲ寄托官廳ヘ交付スヘシ
- 第八條 官廳ニ於テ數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取纏メ寄託スルトキハ其送付書ニ第五號書式ノ仕譯書ヲ添付スヘシ
但權利者不分明ナル者ハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書ニ記入スヘシ

第九條 取扱官廳ハ本規程ニ依リ現金又ハ有價證券等受渡ノ證明ニ供スル爲メ豫メ其廳及取扱主任官ノ印鑑ヲ金庫ヘ送付スヘシ廳印ノ更改主任官ノ改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テモ又同シ

第十條 權利者ニ於テ其寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十一條 取扱官廳ノ裏書アル保管證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ請求スル者アルトキハ金庫ハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之ト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十二條 權利者ニ於テ官廳ヨリ寄托シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ具シ其取扱官廳ニ請求スヘシ

取扱官廳ニ於テ前項ノ請求ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ金庫ニ宛テタル第六號書式ノ拂渡證書ヲ製シ之ヲ權利者ヘ交付スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ之ヲ金庫ヘ差出シ現金又ハ證券ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ハ前條ノ拂渡證書ヲ以テ現金又ハ有價證券ノ拂渡ヲ請求スルモノアルトキハ取扱官廳及主任官ノ印鑑ニ照合シ相違ナキモノハ之レト引換ニ現金又ハ證券ヲ交付スヘシ

第十四條 政府ノ所有ニ歸シタル保管金ハ左ノ手續ニ依リ取扱フ可シ

一 保管證書ヲ發シタルモノハ取扱官廳ニ於テ該證書ノ裏面ニ事由ヲ記載シ收入官吏ヲシ

テ歳入トシテ金庫へ納付セシムヘシ

一 保管證書ヲ發セサルモノハ大藏大臣ノ令達ニ依リ金庫ニ於テ歳入へ編入スヘシ
第十五條 取扱官廳ニ於テ保管金ノ幾分ヲ歳入ト爲シ又ハ幾分ヲ權利者ニ拂戻スコトヲ要ス
ルトキハ保管證書ニ事由書ヲ付シ保管證書ノ分割ヲ金庫ニ請求スヘシ

第十六條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ新ニ保管證書ヲ製シ舊保管證書ト交換ス
ヘシ

第十七條 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之レカ計算ヲ爲スヘシ

權利者ニ於テ保管金利子ノ拂渡ヲ請求スルトキハ第七號書式ノ請求書ヲ取扱金庫へ差出ス
ヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之レヲ大藏省へ進達スヘシ

第十八條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第八號書式ノ通知書ヲ製シ取扱官廳ヲ經テ權利者へ
交附シ請求書ハ案内トシテ之レヲ日本銀行へ送附スヘシ

權利者ニ於テ前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之レヲ其通
知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店へ差出シ現金ノ拂渡ヲ受クヘシ

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ其寄托シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之レカ利
札ノ交附ヲ請求セントスルトキハ第九號書式ノ請求書ヲ金庫へ差出スヘシ

金庫ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ徵シ之レト引換ニ利札ヲ
交付スヘシ

第二十條 保管證書又ハ領收證書ヲ亡失シタルカ爲メ官廳又ハ權利者ヨリ保管ノ證明方ヲ金

庫ニ請求スルトキ金庫ニ於テハ第十一號書式ノ證明書ヲ製シ之レヲ官廳又ハ權利者へ交付
スヘシ

保管證書又ハ領收證書ヲ汚染毀傷シ證書ノ要點ヲ認メ難キニ至リタルカ爲メ官廳又ハ權利
者ヨリ之カ引換ヲ金庫ニ請求スルトキハ金庫ハ更ニ保管證書又ハ領收證書ヲ製シ舊證書ト
交換スヘシ

(書式畧ス)

然ルニ軍艦乗組出納官吏身元保證金及其代用公債證書ノ拂込ニ關シ取扱官廳ニ於テ規程第三條
ノ寄托通知書ヲ交付スルカ如キハ往々爲シ能ハサル場合尠カラス爲ニ其拂込期限ヲ遷延セシム
ヘキ恐アリテ海軍省經理局長トノ往復ノ結果是等ノ拂込ニアリテハ單ニ出納官吏ヲシテ之レカ
拂込書ヲ作成セシムルコト、ナシ大藏大臣ハ此年十一月二十二日ヲ以テ其金庫ノ取扱ニツキ左
ノ如ク令達セリ

金庫 出納 役

海軍省所管各軍艦乗組ノ出納官吏ヨリ身元保證金又ハ代用ノ公債證書ヲ寄托スルトキハ其寄
托通知書ヲ添付セサルニ付右ノ分ニ限リ金庫ハ權利者ヨリ身元保證金ナル旨ヲ記載シタル拂
込ノ書面ヲ徵シ保管物取扱規程第五條ノ手續ヲナスヘシ
但本文保證金ハ海軍省經理局ヲ以テ取扱官廳トシテ取扱フヘシ
右相達ス

明治二十六年十一月二十二日

大藏大臣 渡邊 國武

明治二十七年一月十五日ヲ以テ既ニ出納官吏ヲ甲地金庫ニ寄托シタル保管金(在監人工錢又ハ所持金)ニシテ其轉因ニ伴ヒ乙地金庫ニ寄托替ヲ爲スヘキ必要ヲ來シタル場合ノ取扱ニ付大藏省訓令第二號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

大藏省訓令第二號 (明治二十七年一月十五日)

金庫出納役

甲地金庫ニ寄托セシ保管金ヲ乙地金庫ニ寄托替ヲ要スル爲メ甲出納官吏ヨリ保管金拂渡證書ニ明治二十三年大藏省訓令第三十四號附屬書式第一號ニ準シタル爲替納金請求書ヲ添ヘ甲地金庫ニ送付ヲ受ケタルトキハ甲地金庫ハ明治二十六年大藏省令第二十號第十三條ニ依リ該保管金ヲ拂出シタル上明治二十三年大藏省訓令第三百三十四號ニ依リ爲替納金領收證書ヲ製シ甲出納官吏ニ交付シ甲地金庫ト乙地金庫トノ計算ハ總テ同訓令第三十四號ニ依リ整理スヘシ但爲替納金請求書中納金ヲ取扱フヘキ官廳名及收入官吏官氏名トアル欄ニ將來取扱ヲナスヘキ官廳名及當該出納官吏氏名ヲ記入シアルモノトス
乙出納官吏ヨリ前項ノ爲替納金領收證書ニ保證金送付書ヲ添ヘ乙地金庫ニ納付セシトキハ乙地金庫ハ明治二十六年大藏省令第二十號ニ依リ保管金領收證書ヲ製シ其出納官吏ニ交付スヘシ
尋テ郵便爲替貯金出納官吏及取扱人ノ身元保證金ニシテ中央金庫ノ保管ニ屬スル現金ヲ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ要スル場合及一般出納官吏カ甲地金庫ヘ寄托シタル身元保證金ヲ乙地金庫ニ於テ拂戻ヲ要スル場合ノ取扱手續ニ付キ大藏大臣渡邊國武ハ同年一月十五日及ヒ同三月十六日ヲ

以テ左ノ如ク金庫出納役ヘ令達セリ

第一七九號

金庫出納役

逓信省所管三等郵便電信局郵便局爲替貯金出納官吏及爲替貯金取扱人身元保證ノ現金ニシテ中央金庫ニ保管シアル分ヲ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ要スルトキハ其權利者ヨリ保管物取扱規程第十條ニ依リ取扱官廳ノ裏書シタル保管證書ニ別紙書式ノ請求書ヲ添ヘ中央金庫ニ差出(郵便ニ依リ)スヘキニ付中央金庫ハ同規程第十一條ニ依リ保管證書ヲ以テ現金ヲ拂戻シ其現金ハ金庫相互間振換順序ニ依リ權利者ノ請求セル地ノ金庫ニ於テ權利者ニ交付スヘシ
前項保管金ノ權利者ヨリ明治二十六年大藏省令第二十號第十七條ノ利子請求書ニ何地日本銀行支店又ハ其代理店ニ就キ現金ノ仕拂相受度候也ト附記シ中央金庫ニ送付セシトキハ中央金庫ハ既定ノ手續ヲ經タル上之ヲ大藏省ニ進達スヘシ
明治二十七年一月十九日

大藏大臣 渡邊國武

第五五五號

金庫出納役

出納官吏身元保證ノ現金ニシテ甲地金庫ニ保管シアル分ヲ乙地金庫ニ於テ拂戻ヲ要スルトキ及甲地金庫ヘ保管スル身元保證金ノ利子ニシテ乙地日本銀行支店又ハ其代理店ニ於テ拂渡ヲ要スルトキハ本年一月十九日第一七九號達ニ準シ其權利者ヨリ拂渡方請求スヘキニ付金庫ニ

於テモ同達ニ準シ取扱フヘシ

明治二十七年三月十六日

大藏大臣 渡邊 國武

蓋シ是等ノ令達ハ出納官吏及爲替貯金取扱人等轉免ノ後其現金ノ拂戻ヲ要スル場合ニ於テ本人所在ノ金庫ヲシテ之レカ拂戻ヲ取扱ハシムヘキ一便法ニシテ保管金取扱ニ關スル特例ナリト知ルヘシ

又同月十八日ニ至リ大藏省令第一號ヲ以テ保管物取扱規程ニ左ノ條項ヲ追加シ以テ保管金ノ時効期日及時効ニ罹リタル場合ノ取扱手續ヲ定メタリ省令第一號即チ左ノ如シ

大藏省令第一號 (明治二十七年二月十八日)

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程中左ノ通追加ス

第二十一條 官廳ニ於テ金庫ヘ寄托シタル保管金ニシテ權利移轉又ハ其他ノ事故ノ爲メ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日(本支期滿失効ノ年月日トハ各其據ルヘキニ變更ヲ生スルトキハ即日其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ)

附 則

第二十二條 前條保管金ニシテ本令發布以前既ニ其送付書ニ記載シタル期滿失効ノ年月日ニ變更ヲ生シタルモノハ明治二十七年二月二十八日迄ニ當該官廳ヨリ其旨ヲ金庫ヘ通知スヘシ

第二十三條 金庫ニ於テ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ調査シ全ク期滿失効トナリタルモノハ計算書ニ依リ明治二十七年三月三十一日迄ニ當該官廳ニ送付シ其證明ヲ受ケ之ヲ整理ス

スヘシ

明治二十七年二月二十日大藏省訓令第八號ヲ以テ明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程ニ改正ヲ加ヘタリ蓋明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程第十四條第二項ニ依リ保管金ノ期滿失効ニ歸シタルモノヲ大藏大臣ノ令達ヲ以テ金庫ニ於テ歳入ヘ編入シタル場合ハ寄託官廳ニ於テ果シテ之ヲ歳入ヘ編入濟ナルヤ否ヲ知ルヘキ必要有ルヲ以テ歳入編入濟ハ金庫ヨリ其旨ヲ寄託官廳ヘ通知スヘキ事トセルナリ

大藏省訓令第八號 (明治二十七年二月二十日)

金庫出納 役

明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程中左ノ通加除改正ス

第十二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

「金庫ハ前項歳入ヘ編入ノ手續ヲ了シタルトキハ其旨ヲ寄託官廳ニ通知スヘシ」

第五十條及第五十六條ヲ削リ第五十一條ヲ第五十條トナシ以下各條ヲ順次繰上ケ第五十三條中第五十二條トアルヲ第五十一條第五十四條中第五十三條トアルヲ第五十二條ト改ム

明治二十七年三月大藏省訓令第十五號ヲ以テ金庫ヘ寄托前ニ係ル甲應取扱ノ保管金ヲ其應ヨリ乙應ヘ移送ヲ要スル場合ニ於ケル取扱手續ヲ定メタリ但此訓令ハ既ニ預金ノ部ニ示セルヲ以テ之ヲ略ス

同年四月十七日大藏省令第八號及同省訓令第三十三號ヲ以テ保管物取扱規程及預金保管物供託

物金庫出納事務規程中保管金ノ時効ニ關スル取扱手續ヲ改ム蓋シ保管物取扱規程附屬第六號書式拂渡證書中ニ領收證書ノ期滿失效期月ニ變更ヲ生シタルトキハ取扱官廳ヨリ金庫へ通知スヘキ事ニ改正セラレタルヲ以テ金庫ノ計算ニ對照スル爲メ該書式中へ期滿失效日ヲ掲記スルノ必要ヲ生シ且拂渡證書ハ有記名ニ非サレハ紛失等ノ場合ニ取扱上紛雜スヘキヲ以テ權利者ノ名ヲ記スルノ必要アリ又預金保管物及供託物金庫出納事務規程第十二條ニ保管金ノ期滿失效ニ至リタルモノハ毎月時効調書ヲ製スルノ手續ナルモノ一箇年分ヲ取纏メ歳入へ編入スルモ敢テ差支ナキニ付キ手數省略ノ爲メ該調書ハ翌年四月ニ至リ調製スヘキ事ニ改正ヲ要スルヲ以テナリ省令及訓令左ノ如シ

大藏省令第八號 (明治二十七年四月十七日)

明治二十六年大藏省令第二拾號保管物取扱規程附屬第六號書式中「領收證書ノ年月日」ノ下ニ「領收書ニ記載アル期滿失效ノ年月日」ノ十七字及「金何圓也」ノ下ニ「權利者何ノ誰渡」ノ七字ヲ加フ

大藏省訓令第二十三號 (明治二十七年四月十七日)

明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程第十二條第一項中「毎月」トアルヲ「一ヶ年度分」ヲ取纏メ翌年度四月ニ於テ「又第五號書式冒頭ニ「明治何年何月分」トアルヲ「明治何年度分」ト改ム

金庫出納 役

明治二十七年九月大藏省令第十六號ヲ以テ保管物取扱規程第二十一條へ左ノ一項ヲ加へ以テ政府ノ所得ニ歸シタル保管金ハ其取扱官廳ヨリ金庫へ通知スヘキコト、爲セリ蓋シ各官廳ヨリ金

庫へ寄托シタル保管金ノ内人民拾得金ニシテ拾得者ニ於テ請求スルノ權利ヲ拋棄シタル場合ハ從來ノ慣例ニ依リ歳入へ編入ヲ要スヘキ旨當該廳ヨリ金庫へ通知シ來レルモ其他ノ保管金ニシテ同様棄權シタルモノハ通知スヘキ慣行無ク整理上錯雜ヲ生スルヲ以テ右棄權ニヨリ歳入へ編入ヲ要スヘキモノ若クハ其他ノ事故ノ爲メ保管ノ必要ナク歳入へ編入スヘキモノハ一般ニ其旨ヲ通知スヘキ順序ト爲セルナリ

大藏省令第十六號 (明治二十七年九月十二日)

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程第二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項保管金ニシテ權利者自ラ其權利ヲ拋棄シ又ハ其他事故ノ爲メ保管ノ必要ナク歳入へ編入スヘキモノハ其旨ヲ金庫へ通知スヘシ

明治三十一年二月三日大藏省訓令第六號ヲ以テ各裁判所ヨリ寄托スヘキ假納金豫納金ノ取扱ハ明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程第六條第七條ニ依ラシムル事トシ明治二十二年大藏省訓令第九十五號ヲ廢シタリ蓋シ此訓令第九十五號ハ假納金豫納金ノ取扱ニ關スル特例ナリシカ前條保管物取扱規程頒布以後ハ其特例ヲ存置スヘキ必要ナキニ至リシヲ以テナリ又同年四月大藏省令第四號ヲ以テ明治二十六年同省令第二十號保管物取扱規程ニ改正ヲ加へ以テ有價證券ノ利札ヲ受取ルヘキ場合ニ於テ權利者カ提出スヘキ請求書ヲ廢セリ其省令ハ即チ左ノ如シ

大藏省令第四號 (明治三十一年四月二十三日)

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程中第九條ニ左ノ通改メ第九號書式ヲ削ル

第十九條 官廳又ハ權利者ニ於テ寄托シタル有價證券ニ屬スル利子ノ渡期ニ至リ之カ利札ノ

交付ヲ受ケントスルトキハ第十號書式ノ領收證書ヲ金庫へ差出スヘシ
金庫ハ前項ノ領收證書ト引換ニ利札ヲ交付スヘシ

明治三十一年五月大藏省令第三十三號ヲ以テ預金保管物及供託物金庫出納事務規程第三十二條第二項ニ但書ヲ追加シ以テ各地本金庫ニ於ケル保管供託有價證券ノ出納ヲ整理スル爲メ其受拂總括簿ヲ設置セシムル事ト爲セリ蓋シ從來中央金庫ノ外此帳簿ハ設置セラレサリシカ爾來各本金庫ニ於ケル有價證券ノ取扱ハ頗ル頻繁ヲ極ムルコト、ナリタルヲ以テ金庫出納役ノ稟申ニ依リ各本金庫ニ於テモ之レカ整理上ノ必要ニ從ヒ總括簿ヲ設置セシムルコト、爲シタルニアリ

大藏省訓令第三十三號

(明治三十一年五月四日)

金庫出納役

明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程第三十二條第二項へ左ノ但書ヲ追加ス

但有價證券ノ出納頻繁ナル本金庫ニアツテハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ中央金庫同様ノ有價證券受拂總括簿ヲ設ケ整理スルコトヲ得

明治三十二年九月二十五日大藏大臣ノ決定ヲ以テ從來金庫ニ於テ取扱ヲ爲サシメタリシ度量衡法施行規則ニ依リ當業者カ身元保證トシテ地方廳へ納付スヘキ現金又ハ有價證券ニ對スル銀行ノ預リ證書ハ自今金庫ニ於テ保管ノ取扱ヲナサシメサルコト、シ理財局長ヨリ左ノ如ク金庫出納役へ照會セリ

二十六年勅令第七十號第二項ニ依リ金庫ニ於テ保管スヘキ有價證券種類ノ義ハ取扱官廳ノ認

定ニ一任シ寄託通知書又ハ送付書ニ依リ保管致候コトニ曾テ預金局長ヨリ通知致候次第モ有之候ヘトモ度量衡法施行規則ニ依リ當業者カ身元保證トシテ地方廳へ提出スル現金又ハ公債證書ニ對スル銀行ノ預リ證書ノ如キハ勅令第七十號ノ有價證券ト認メ難ク候ニ付自今以後右等ノ證券ハ各金庫ニ於テ保管セサル様御訓示相成度此段及御照會候也

明治三十二年九月二十五日

理財局長 松尾 臣善

金庫出納役

日本銀行總裁 山本 達 雄殿

追テ現在保管ニ係ル分ハ其儘据置當該廳ノ拂戻シ證明アリタル際拂戻方取扱相成可然此段申添候也

尋テ同年十月三日大藏大臣ノ決定ヲ以テ新聞紙條例ニ依リ發行人ヨリ管轄廳へ納付スヘキ現金又ハ有價證券ニ對スル銀行ノ預リ證書ニアリテモ自今金庫ニ於テ保管ノ取扱ヲ爲サシメサルコト、ナセリ

明治三十四年五月ニ至リ大藏省令第六號ヲ以テ各金庫ノ保管ニ係ル有價證券ヲ日本銀行カ直接取扱ヲ爲ス金庫ノ保管ニ移シ其拂戻ヲ要スル場合ハ更ニ當該金庫へ返送シ拂渡ヲ爲サシムルコト、爲シ又特ニ大藏大臣ハ金庫出納役ニ令達シテ事急劇ナル場合ニ於テハ中央金庫ニ於テ指定スル金庫ヲシテ前ノ取扱ヲ爲サシムルコトヲ許シタリ其省令ハ左ノ如シ

大藏省令第六號

(明治三十四年五月四日)

明治二十六年大藏省令第二十號保管物取扱規程及明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程ニ依リ各地金庫ニ於テ保管スル有價證券ハ左ノ金庫へ移送シテ保管ヲ爲スコトアルヘシ
前項ニ依リ保管ヲ移シタル有價證券又ハ之ニ屬スル利札賦札ノ拂戻ハ最初該證券ノ寄託ヲ受ケタル金庫ハ速ニ返送ノ上其金庫ニ於テ拂渡スヘシ

- 京都本金庫 名古屋本金庫
- 札幌本金庫 中央金庫福島派出所
- 大阪本金庫 函館本金庫
- 中央金庫門司派出所

大藏省令第七號 (明治三十四年五月六日)

明治三十四年五月省令第六號中京都本金庫ノ前ニ中央金庫ノ四字ヲ加フ

右大藏省令第六號ヲ以テ金庫ニ於テ保管スル有價證券ヲ中央金庫外七金庫へ移送ノ件ヲ定メタルヲ以テ金庫出納役ハ同年五月二十日有價證券移送取扱手續ヲ定メ大藏大臣ノ認可ヲ求メタリ即左ノ如シ

本年五月四日御省令第六號ヲ以テ金庫ニ於テ保管スル有價證券ヲ中央金庫外七金庫へ移送ノ件規定セラレ候ニ付之カ取扱手續別紙ノ通相定候右手續中第六條支金庫ニ於テ保管スル有價證券ノ一時其所管本金庫又ハ他ノ支金庫ニ移送ノ儀ハ明治二十六年九月二十一日第一六三九號ノ乙御達ニ基キ取扱來リ候處今後共事急劇ニ出ル場合ハ敏速ノ取扱ヲ要スル事情モ有之候ニ付従前ノ通り取扱度候間本件モ併テ御認可被下度此段及稟申候也

明治三十四年五月二十日

金庫出納役

日本銀行總裁 山本達雄

大藏大臣 侯爵 西園寺公望殿

有價證券移送取扱手續

第一條 甲地金庫ハ中央金庫ノ通達ニ依リ有價證券ニ移送仕譯書(第一號)ヲ添へ確實ナル方法ヲ以テ乙地金庫へ廻送スヘシ乙地金庫ハ之ニ對スル領收證書(第二號)ヲ甲地金庫へ送付スヘシ

第二條 甲地金庫ハ前條有價證券ヲ債權者ニ拂戻ヲ要スルトキハ返還ノ請求書(第三號)ヲ乙地金庫へ送付スヘシ乙地金庫ハ之ニ對スル有價證券ニ返還仕譯書(第四號)ヲ添へ確實ナル方法ヲ以テ甲地金庫へ返還スヘシ

第三條 甲地金庫ハ前條有價證券ノ返還ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ曩ニ受入レアル領收書ニ裏書(第二號書式一)ヲ爲シ乙地金庫へ返還スヘシ
返還ヲ受ケタル有價證券カ保管又ハ供託ニ於ケル書號中ノ内渡ナルトキハ前項領收書ニ之カ領收ノ裏書(第二號書式二)ヲ爲シ乙地金庫へ返還スヘシ

返還ヲ受ケタル有價證券カ保管又ハ供託ニ於ケル書號中ノ内渡ナルトキハ前項領收證書ニ之カ領收ノ裏書(第二號書式三)ヲ爲シ乙地金庫へ返還スヘシ

乙地金庫ハ有價證券ノ内渡ヲ爲シ前項ノ裏書シタル領收證書ノ返還ヲ受ケタルトキハ更ニ其殘額ニ對スル領收證書(内渡ニ付再製ト記入ヲ要ス)ヲ製シ之ヲ甲地金庫へ送付スヘシ

第四條 前各條ニヨリ有價證券ノ受拂ヲ爲シタルモノハ各書留簿(書式適宜)ヲ設ケ記帳ノ上其受拂ヲ詳細中央金庫ニ報告(書式適宜)スヘシ但支金庫ニ係ルモノハ本金庫ヲ經テ報告スヘシ

第五條 甲地金庫ハ利子賦金ノ渡期ニ際シ債權者ノ請求ニヨリ有價證券ニ附屬スル利賦札ノ返還ヲ要スルトキハ返還ノ請求書(書式第五號)ヲ乙地金庫ヘ送付スヘシ乙地金庫ハ之ニ對スル利賦札ニ返還仕譯書(書式第六號)ヲ添ヘ甲地金庫ニ返送スヘシ

甲地金庫ハ前項利賦札ノ返還ヲ受ケタルトキハ之ニ對スル領收證書(書式第七號)ヲ乙地金庫ニ送付スヘシ

第六條 支金庫カ保管スル有價證券ニシテ多數ニ上リ保管上不便ト認ムルトキハ本手續ニ準シ中央金庫ハ各本金庫ヲシテ一時其本支金庫又ハ他ノ支金庫ニ移送セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ本金庫ハ其受拂ヲ詳細中央金庫ヘ報告スヘシ

但該有價證券寄托ヲ取扱ヒタル支金庫ニ於テ債權者ヨリ拂戻ヲ請求セラレタルトキハ差支ナク之ニ應シ得ラル、様取扱フヘシ

(書式略)

大藏省ニ於テハ右金庫出納役ノ稟申中手續第六條ノ規定ニ關シ明治二十六年九月第一六三九號ノ乙達ニ基キ取扱來リ云々トアルモ本年大藏省令發布ノ爲メ右達ハ當然廢止セラレタルモノナルヲ以テ實際上急劇ノ場合ニ於ケル特別取扱方更ニ令達ヲ要スルモノトシ六月七日左ノ如ク金庫出納役ヘ指令及令達ヲ爲セリ

(指令)

金庫出納役

客月二十日國第六四一號稟申有價證券移送取扱手續ノ件第六條ヲ除キ認可ス

明治三十四年六月七日

大藏大臣

(令達)

金庫出納役

本年五月當省令第六號ニ依リ有價證券移送方ニ付事急劇ニ涉リ省令ノ指定セル箇所ニ移送ナシ難キ場合ニ限リテハ特ニ中央金庫ノ指定スル金庫ニ移シ保管セシムルモ差支ナシ

但本文ノ場合ト雖モ省令第六號ニ關スル手續ニ準シ取扱ヒ明治二十六年九月第一六三九號ノ令達ハ廢止候儀ト心得ヘシ

明治三十四年六月七日

斯クテ明治三十五年五月大藏省告示第二十五號ヲ以テ金庫位置及出納區域ノ改正アリ此改正ノ結果中央金庫門司派出所ハ廢止セラレ同時ニ門司本金庫ヲ設置セラレタルヲ以テ茲ニ從來門司派出所ニ於ケル移送有價證券ノ保管出納ハ門司本金庫ニ於テ之ヲ繼承シ其取扱ヲ爲スニ至レリ同年三月大藏省訓令第四號ヲ以テ預金保管物供託物金庫出納事務規程ニ改正ヲ加ヘ從來各本金庫ノ稟請ニ依リ設置スルコトヲ聽許シ來リタル保管供託有價證券受拂總括簿ヲ各本金庫ニ悉ク設置セシムルコト、シ更ニ支金庫中其出納頻繁ナル箇所ニ限リ稟請ヲ待テ聽許スルコト、ナスニ至レリ而シテ當時此改正ヲ爲スニ至リシハ各金庫ニ於ケル有價證券ノ出納漸次頻繁ヲ加フルニ從ヒ監督上各金庫別有價證券ノ出納額及現在額ヲ總括シテ見ルヘキ必要ヲ來シタルニ由ルモ

ノナリト雖モ該帳簿ノ設置以來金庫ヲシテ其計算整理上ニ頗ル便宜ヲ得セシメ所謂一舉兩得ノ效果ヲ奏スルニ至レリ

大藏省訓令第四號 (明治三十五年三月十四日)

金庫出納役

明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物及供託物金庫出納事務規程中左ノ通り改正シ本年四月一日ヨリ施行ス

預金保管物及供託物金庫出納事務規程

第二十二條二項中但書ヲ削除シ一有價證券受拂内譯簿トアルヲ二有價證券受拂内譯簿ト改メ其前位ニ一有價證券受拂總括簿ノ文字ヲ加フ

第三十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十四條ノ二有價證券受拂總括簿ハ支金庫ノ集計表及内譯簿ノ締高ヲ以テ左ノ科目毎ニ受拂額ヲ登記スヘシ

- 一 保管諸公債證
- 二 保管諸株券
- 三 保管諸證券

第三十六條二項中又ノ下ニ有價證券受拂總括簿及ノ文字ヲ加フ

第四十一條一項ノ次ニ左ノ二項ヲ設ケ現行ノ二項ヲ第三項ニ繰下ク

第四十一條二項

有價證券ノ出納頻繁ナル支金庫ニアリテハ大藏大臣ノ認可ヲ得テ本金庫ト同ク有價證券受拂總括簿ヲ以テ整理スルコトヲ得

(書式改正略)

左ニ明治二十六年十一月一日以降同三十五年ニ至ルノ期間金庫出納役カ直接取扱ヲ爲シタル公有金私有金及有價證券ノ計數ヲ掲出セントスルモ既ニ預金保管物及供託物金庫出納事務規程中定ムル所ノ如ク是等ハ供託金及供託有價證券ト共ニ各一帳簿中ニ於テ整理セルヲ以テ今茲ニ其公有私有金有價證券ノ計數ノミヲ分掲スル能サルニ因リ止ムヲ得ス供託金及供託有價證券ノ計數ヲ併セ掲クコト、セリ

金庫直接取扱保管金收支計算表

年度	事由	前年度ヨリ越高	受入高	拂戻高	差引殘高
自二十六年十一月至二十七年三月		1,010,101	1,122,515	1,003,933	1,118,783
二十七年年度		1,218,783	3,364,366	3,285,196	1,297,953
二十八年年度		1,297,953	2,788,987	2,944,279	1,142,660
二十九年年度		1,142,660	3,772,154	3,249,021	1,665,794
三十年年度		1,665,794	4,996,411	4,690,722	1,971,483
三十一年度		1,971,483	5,134,350	4,964,759	2,141,074
三十二年度		2,141,074	6,587,959	5,415,697	3,313,326

三十三年度	三、三三三、三三六	九、七三六、二一七	八、六三四、七二一	四、四一四、八三二
三十四年度	四、四一四、八三二	一、二、九七四、六五三	九、七八六、二四一	七、六〇三、二四四
三十五年四月ヨリ同十二月迄	七、六〇三、二四四	九、三七六、〇四五	一、一〇一、九七八	五、九六七、三二二

備考

本表前年度ヨリ越前ノ欄中初頭ノ金額一、〇一〇、二〇一、一八二、二六六、十一月一日ヲ以テ預金局ヨリ引繼テ受ケタル計數ヲ掲ケタルモノト知ルヘシ
而シテ其最終積高ヲ國庫原簿ノ積高ニ比較シ十一萬二千七百七十九圓八十七錢五厘ノ超過ヲ視ル所以ノモノハ本表ハ其計數ヲ各金庫ノ出納計算書ニ徴シ國庫原簿ハ中央金庫ノ報告ニ依リ登記シタルモノナルヲ以テナリ

年度	種別				諸公債證書	諸株券	諸證券
	預金局受高	引繼受高	拂入高	差引殘高			
自二十六年十一月至二十七年三月	三、三三九、一一五	三、四二六、四五〇	三、〇二九、一五五	三、一七八、八四一〇	三、八七六、六	二、二六六、五	一、四九〇、五五
二十七年年度	前年度ヨリ越前	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
	差引殘高	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
	拂入高	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
	受入高	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
二十七年年度	前年度ヨリ越前	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二
	差引殘高	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二
	拂入高	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二
	受入高	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二

年度	種別				諸公債證書	諸株券	諸證券
	預金局受高	引繼受高	拂入高	差引殘高			
自二十六年十一月至二十七年三月	三、三三九、一一五	三、四二六、四五〇	三、〇二九、一五五	三、一七八、八四一〇	三、八七六、六	二、二六六、五	一、四九〇、五五
二十七年年度	前年度ヨリ越前	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
	差引殘高	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
	拂入高	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
	受入高	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	三、一七八、八四一〇	四、七一九六	一、四、二三五	一、三二、九〇九
二十七年年度	前年度ヨリ越前	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二
	差引殘高	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二
	拂入高	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二
	受入高	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	八、八三五、二六五	四、四、一七六	一、五二、二九三	一、四八、三九二

月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲナサントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ラントスルトキハ有權者ヨリ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ヲキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取タル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

而シテ右供託規則施行以來民法民事訴訟法商法及其他漸次公布セラレタル法律命令ニ依リ供託ヲ爲スヘキ場合ニ關スル規定ノ大要ハ即チ左ノ如シ

法律ノ部

一 民法財産編

(明治二十三年四月法律第二十八號)

第七十七條 擔保ノ性質ニ付キ當事者ノ間ニ協議ハサルトキ供託所ヘ寄托スル金錢若クハ有價證券

第八十條 日用品其他ノ代替物競賣代金ノ供託

第四百五十一條 債權者カ辨濟ヲ受クルコト能ハス又ハ欲セサルトキ債務者ノナス供託

第四百七十四條 辨濟ノ爲メニスル供託

第四百七十七條 債權者カ提供ヲ承諾セサルトキ債務者ノナス供託

第四百八十八條 代位辨濟ノ爲メニスル供託

一 民法財産取得編

(明治二十三年四月法律第二十八號)

第七十九條 買主ノナス供託

第八十條 動產物ノ買主カ引渡ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキ賣主ノナス供託

一 民事訴訟法

(明治二十三年四月法律第二十九號)

第七十條 委任ナク代理人トシテ出頭スルモノ、ナス保證

第八十七條 訴訟上ノ保證トシテ供託スルモノ

第八十八條 被告ノ要求ニ依リ訴訟費用保證

第五百條 原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキノ保證

第五百三條 債權者カ假執行ノ宣告ヲ請求スル爲メ執行前ニ立ツル保證

第五百五條 假執行ヲナシ得ヘキ宣言及執行ヲ免ル、爲メ保證トシテ供託

第五百十二條 假執行ノ宣告ヲ付シタル判決ニ對シ故障ノ申立又ハ本訴ヲ起シタルトキ第五百條ニ準シ立ツル保證

第五百十三條 原告若クハ被告ニ保證ヲ立ツル義務ヲ負ハシメ若クハ保證ヲ立テ又ハ供託ヲナスコトヲ許シタルトキ

第五百二十二條 強制執行ヲ停止シ又ハ續行スヘキ事ヲ命スルトキ

第五百四十七條 執行處分ヲ停止シ又ハ取消スヘキ事ヲ命スルトキ

第五百四十九條 第三者カ強制執行ノ目的物ニ對シ訴ヲ以テ權利ヲ主張シ又ハ異議ヲ申立タルトキ強制執行ノ停止又ハ執行處分取消ノ爲メ第五百四十七條ニ依リ立ツル保證

第五百六十五條 第三者賣得金ニ付供託

第五百九十三條 債權者間配當ノ協議調ハサル賣得金

第六百七條 債務者ニ保證ヲ立テシメ又ハ供託ヲナサシメテ執行ヲ免レシメタルトキ取立ノ命令ヲ受ケタル第三債務者ノナス債務額ノ供託

- 第六百二十一條 配當要求ノ送達ヲ受ケタルトキ第三債務者ノ供託
- 第六百三十條 停止條件付ノ債權又ハ確定セサル債權異議アル債權ノ配當額供託
- 第六百三十九條 期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ノ供託
- 第六百九十九條 引受クヘキ債務又ハ競落人ノ債權ニ對シ異議アルトキノ保證
- 第七百十二條 裁判所ニ於テ管理人ニ立テシムル保證
- 第七百三十一條 債務者動産ノ受取ヲ怠リタルトキ執達吏之ヲ斃賣ニ付シタル代金
- 第七百四十一條 假差押保證金
- 第七百四十五條 異議ノ申立アリタルトキ立テシムル保證
- 第七百四十七條 假差押ノ認可後ニ於テ假差押取消ヲ申立ツル爲メ債務者ノ保證
- 第七百五十條 假差押ノ金銭及賣得金
- 第七百五十二條 假差押執行ヲ保全スル爲メ供託スルモノ
- 第七百五十四條 假差押ヲ取消ス爲メニ供託スルモノ
- 第七百五十九條 假處分ノ取消ヲナストキノ保證
- 商法
 - 第一千二十條 破産財産收入金 (明治二十三年四月法律第三十二號)
 - 郵便貯金條例
 - 第十二條 貯金又ハ公債證書ノ拂戻請求ナキモノ (明治二十三年八月法律第六十三號)
 - 陸海軍軍法會議私訴裁判強制執行法
 - 第四條 軍法會議ニ於テ假執行假差押假處分ノ命令ヲナス場合ニ於テ保證者クハ供託ヲ命スルモノ (明治二十三年八月法律第七十三號)
 - 貯蓄銀行條例
 - 第四條 貯金拂戻擔保 (明治二十三年九月法律第八十六號)
 - 同稅關稅則者處分法
 - 第十七條 差押物公賣代金

- 一 續業條例 (明治二十三年九月法律第八十七號)
 - 第五十七條 土地所有者又ハ關係人ニ於テ借料ノ保證金損害賠償金等ヲ受取ラサルトキ續業人ニ於テ其金額ヲ供託スルモノ
 - 一 保稅倉庫法 (明治三十年三月法律第十五號)
 - 第二十一條 保管物輸入稅擔保
 - 勅令ノ部
 - 一 酒造稅法施行規則 (明治二十九年八月勅令第二百八十七號)
 - 第二十三條 酒類製造保證
 - 第二十四條 同變換
- 是ニ於テ大藏大臣伯爵松方正義ハ其供託ニ係ル金銭有價證券ノ受渡及保管ハ東京府内ハ大藏省預金局其他ノ地方ハ各地金庫ト爲シ其取扱規程及順序ヲ定メ此年十二月大藏省令第三十九號及同省訓令第五百五十五號ヲ以テ頒布シ二十四年一月一日ヨリ其取扱ヲ開始セシメタリ其省令訓令ハ即チ左ニ列擧スル所ノ如シ
- 大藏省令第三十九號 (明治二十三年十二月十五日)
- 本年勅令第四百四十五號供託規則ニ依リ寄託スル金銭有價證券取扱規程左ノ通相定ム
- 供託物取扱規程
- 第一條 供託物ノ受渡及保管ハ東京府内ハ大藏省預金局其他ノ各地ハ本支金庫ニ於テ之ヲ取扱フヘシ
- 第二條 供託物ヲ寄託セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル第一號書式ノ供託書二通ヲ調製捺印ノ上其寄託ヲ供託取扱所(東京府内ハ大藏省預金局其他ノ各地ハ本支金庫以下概之)ニ請求スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官廳名官氏名

第二 金錢ハ其金額

有價證券ハ其種類記號番號券面金額枚數

但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製添付スヘシ

第三 供託ノ事由

但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲナサントスルトキハ尙其件名及裁判所名ヲ記スヘシ

第四 年月日

第三條 供託取扱所ニ於テ供託書ヲ受ケタルトキハ其式ニ違ハサルヲ認メ其物件ヲ受領シ供託書ニ受領ノ旨記載捺印シ其一通ヲ供託者ニ交付スヘシ

第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ金錢ハ寄託スヘキ供託取扱所所在ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ送

金手形若クハ爲替券等ヲ以テ寄託スルコトヲ得

第五條 送金手形若クハ爲替券ヲ以テ金錢ヲ寄託シタルトキハ供託取扱所ハ其現金ヲ領收シタル後ニアラサレハ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲナサハルヘシ

第六條 供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ分割シタル供託書各二通ヲ調製シ第二號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領書ヲ添ヘ供託取扱所ヘ差出スヘシ

第七條 供託取扱所ニ於テ前條ノ分割請求ヲ受ケタルトキハ更ニ差出シタル供託書ニ第三條

ニ於ケル受領手續ヲナシ其一通ヲ舊受領證ト引替ニ交付スヘシ

第八條 寄託シタル有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ノ受取方ヲ要スルトキハ有權者ヨリ第三號書式ノ請求書二通ニ委任狀ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ差出スヘシ

第九條 供託取扱所ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償金利子又ハ配當金ヲ受取リタルトキハ代供託物トシテ之ヲ預リ請求書ニ受領ノ旨記載捺印シ其一通ヲ請求者ニ交付スヘシ

第十條 供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル第四號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ請求スヘシ但全部拂戻ノトキハ受領證ニ式ノ如ク與書ヲナシ幾分拂戻ノトキハ第五號書式ノ受取證ヲ差出スヘシ

第十一條 裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂戻ヲ要スルトキハ裁判所ハ第六號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂戻證ヲ調製シ之ヲ受取人ヘ交付スヘシ

第十二條 前條ノ拂戻證ヲ受ケタル者ハ其末尾ニ式ノ如ク記載捺印シ之ヲ供託取扱所ヘ差出シ其拂戻ヲ受クヘシ

第十三條 供託取扱所ニ於テ供託物ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ三日休日ヲ除ク以內ニ拂戻スヘシ

供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ受領證ノ末尾ニ内渡ノ旨記載捺印シ其供託物ト共ニ之ヲ返付スヘシ

第十四條 供託規則ニ依リ仕拂フヘキ利子ハ元金仕拂請求ノ際第八號書式ノ利子請求書ヲ供

託取扱所へ差出スヘシ

第十五條 前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ大藏省預金局ニ於テ供託金利息證券ヲ調製シ之ヲ拂戻請求者へ返付スヘシ

第十六條 前條ノ利子證券ヲ受ケタルモノハ其證券ニ記載アル大藏省預金局又ハ本支金庫へ差出シ之ト引替ニ現金ヲ受取ルヘシ

(書式略ス)

大藏省訓令第五百五十五號 (明治二十三年十月二十一日)

金庫出納役

供託物取扱順序左ノ通り相定ム

供託物取扱順序

第一條 各地金庫ニ於テ供託物寄托ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託書ニ其物件ヲ照査シ式ノ如ク記載證印シ二通ノ間ニ割印ノ上一通ハ供託者ニ交付シ一通ハ金庫ニ存置シ其寫ヲ預金局へ送付スヘシ

第二條 各地金庫ニ於テ銀行送金手形又ハ郵便爲替券ヲ以テ寄托ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ引替へ前條ノ手續ヲナスヘシ但現金不渡ノトキハ渡シ先キノ證明ヲ受ケ供託書ト共ニ之ヲ返付スヘシ

第三條 各地金庫ニ於テ分割ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託書ヲ第一條又ハ第五條ノ受領證ニ照合シ更ニ第一條ノ手續ヲナスヘシ但最前ノ受領證ニハ式(規程第一號)ノ如ク記入ノ上金庫

ニ存置シ分割請求書ハ預金局へ送附スヘシ

第四條 各地金庫ニ於テ寄托ニ係ル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金受取方ノ請求ヲ受ケタルトキハ請求書及委任狀ニ其證券又ハ利賦札ヲ添へ預金局へ送附スヘシ但其地ニ於テ受取ルヘキモノハ證券又ハ利賦札ヲ添附スルニ及ハス

第五條 預金局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ金員領收ノ手續ヲ了シ請求書ニ式ノ如ク記載證印ノ上其金庫へ送附シ金庫ニ於テハ式(規程第三號)ノ如ク附記證印シ請求人へ交附スヘシ

第六條 前條償還金利息又ハ配當金ノ内各地ニ於テ受取方ヲ要スルモノハ預金局長ヨリ之ヲ其地ノ金庫へ委託スヘシ

第七條 各地金庫ニ於テ前條ノ委託ヲ受ケタルトキハ其銀行又ハ會社ニ就キ金員領收シ直ニ第一號ノ報告書ヲ預金局へ送附スヘシ

第八條 預金局ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ第四條ノ請求書ニ式ノ如ク記載證印ノ上之ヲ其金庫へ送附シ金庫ニ於テハ式ノ如ク附記證印シ請求人へ交附スヘシ

第九條 各地金庫ニ於テ供託物全部拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ第一條又ハ第五條ノ受領證及請求書ニ式(規程第一號式乙印)同第四號式甲印)ノ如ク記入證印ノ上其物件ヲ拂戻シ受領證ハ金庫ニ存置シ請求書ハ預金局へ送附スヘシ

第十條 各地金庫ニ於テ供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ第一條又ハ第五條ノ受領證ニ式(規程第一號式丙印)ノ如ク記載證印ノ上其物件ト共ニ返附シ受取證及請求書ニ式(規程第五號式

甲印同第四)ノ如ク記載シ受取證ハ金庫ニ存置シ請求書ハ預金局へ送附スヘシ

第十一條 各地金庫ニ於テ分割拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂戻證ヲ請求書ニ照合シ式(規程六號式甲印同第)ノ如ク記入ノ上其物件ヲ拂戻シ拂戻證ハ金庫ニ存置シ其寫ヲ預金局へ送附スヘシ

第十二條 各地金庫ニ於テ供託金利子仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ其請求書ヲ預金局へ送附スヘシ

第十三條 預金局ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ利子證券ヲ調製シ之ヲ請求人へ送附スルト同時ニ其報知書ヲ其金庫へ送附スヘシ

第十四條 各地金庫ニ於テ供託金利子仕拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ報知書ニ照合シ報知書及利子證券ニ第二號書式ノ如ク記入シ其金員ヲ仕拂ヒ利子證券ハ金庫ニ存置シ報知書ハ預金局へ送附スヘシ

第十五條 各地金庫ニ於テ毎日受ケ入レタル供託金ハ預金受渡事務順序第二十八條ニ據リ其仕拂金ハ同第二十九條ニ據リ取扱フヘシ

第十六條 各地金庫ニ於テ受ケ入レタル供託金償還金利子及配當金ハ預金受渡事務順序第三十一條ニ據リ預金受入簿ニ記入シ其仕拂金ハ同第三十二條ニ據リ預金拂戻簿同第三十三條ニ據リ預金拂戻豫算額差引簿ニ記入スヘシ

第十七條 各地金庫ニ於テ寄托ヲ受ケタル有價證券ハ之ヲ其金庫ニ保管シ第三號書式ノ有價證券受拂簿ヲ備ヘ其出納ヲ記入スヘシ

第十八條 各地金庫ニ於テ有價證券受拂簿ニ據リ第四號書式ノ有價證券受拂報告表ヲ調製シ支金庫ニ於テハ毎日日本金庫(中央金庫ニ屬スル)へ本金庫ニ於テハ毎五十ノ日(月末日ハ三十一日若クハ二十九日)支金庫ヨリ送附スル所ノ報告表ヲ添ヘ預金局へ送附スヘシ

第十九條 供託物ニ關スル書類ノ記號ハ預金ノ記號ヲ用ヒ其番號ハ預金及保管金ト區分シ更ニ番號ヲ附スヘシ但報告表ニハ記號ノ上ニ供託ノ文字ヲ附スヘシ

(書式略ス)

而シテ供託規則第一條ニ依リ供託トシテ金庫カ取扱ヲ爲ヘキ有價證券ノ種類ニアリテハ預金局長ト金庫出納役ノ間ニ於ル往復ニ由テ公債證書市町村債證書銀行會社ノ株券債券大藏省證券爲換手形約束手形倉荷證書等ノ類ニシテ轉帳流用スヘキ總テノ證券ヲ包含スルモノト決定シタリ

明治二十四年四月二十三日ヲ以テ供託物取扱規程ニ依リ既ニ供託者ニ交付シタル供託受領證ヲ亡失シタル場合ニ於ケル取引ニ關シ大藏大臣伯爵松方正義ハ左ノ決定ヲ爲シ同月二十四日ヲ以テ預金局長ヲシテ金庫出納役ヘモ通達セシメタリ

第一 供託物受領證亡失シタルトキ取扱方ノ件

出サシムヘシ

第二 前項届書ニ據リ舊供託物受領副書へ受領證亡失ニ付何年何月何日第何號...通再製交付ニ據リ無効ト朱記スルモノトス但シ本項手續ヲ了シタル后各地金庫ト該届書ノ謄本ヲ製シ之ヲ預金本局へ送附スヘシ

第三 再製供託書ハ舊供託物受領證ト照合シ相違ナキヲ認メ更ニ供託物取扱順序第一條ノ手續ヲ爲シ該供託物受領證餘白ヘ何年何月何日第何號受領證亡失ニ付再渡ノ旨ヲ朱書シ其寫ヲ預金本局ヘ送附スヘシ

第四 再製供託受領證番記號ハ再製當時ノ番記號ヲ新タニ附スルモノトス
 同年六月六日大藏省訓令第五十一號ヲ以テ供託物取扱順序中規程第四號書式ヘ金錢及有價證券ノ取扱ニ關スル事項ヲ追加シ同年十月十九日大藏省訓令第七十八號ヲ以テ同順序第一條中存置ノ下ノ十字ヲ削除シテ預金局ヘ送附スヘキ供託書ノ寫ヲ廢シタリ而シテ從來甲執達吏カ供託シタル金錢有價證券ヲ乙執達吏ニ於テ拂渡ヲ請求スル場合アリテ之カ理由トスル所ハ甲執達吏ノ死亡又ハ停職免職等ノ結果當該裁判所ノ命令ニ依テ其取扱ヲ繼承シタリト云フニアリト雖モ金庫ニ於テハ其事實ヲ確認スルニ由ナキヲ以テ明治二十五年十月二十一日大藏大臣ハ司法大臣ヘ照會ノ末是等ノ場合ニハ其都度當該裁判所ヨリ其取扱金庫ヘ通知スルコト、ナレリ

明治二十六年三月二十九日大藏省令第六號ヲ以テ東京府内ニ屬スル八王子支金庫ヲシテ供託事務取扱ヲ開始セシム蓋シ八王子支金庫所在ノ地即チ南多摩郡八王子町ハ從來神奈川縣ニ屬シ該支金庫ハ同地區裁判所ノ訴訟事件及其他ニ關スル供託事務ノ取扱ヲ爲シ來リシモノナリト雖モ同年四月一日以降同地ハ東京府ノ管轄ニ移リタルヲ以テ自然其供託事務ハ供託物取扱規程第一條ニ依リ同日以降大藏省預金局ニ於テ直接其取扱ヲ爲サ、ル可カラサルモ斯クテハ其不便尠カラサレハ特ニ省令ヲ發布シテ從來ノ如ク同支金庫ヲシテ其取扱ヲ爲サシムルコト、爲シタルモノト知ルヘシ

從來供託ノ原因タルヘキ規定ノ問題ニ付キ金庫ト供託者トノ間往々見解ヲ異ニシ實施上之カ衝突ヲ免カレサル場合アリテ其都度預金局長ト金庫出納役トノ間往復スル所アリタリシカ遂ニ明治二十六年六月大藏省令第十三號ヲ以テ供託物取扱規程第二條ニ定ムル所ノ供託書中其供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項ヲ明記セシムルコト、爲シ以テ僅ニ其煩累ヲ避クルニ至レリ今其往復ニ關スル公文書及省令第十三號ヲ左ニ列擧スヘシ

●供託金受入ノ義ニ付テハ客年來數々往復ヲ重ネ候得共當中央金庫ニ於テ未タ一定ノ標準ヲ了解仕兼候タメ各地金庫ニ向ヒ如何ナル金員ハ供託トシテ受納シ如何ナル金員ハ供託金トシテ取扱フヘカラサル者ナル歟明示スル運ニ至ラス然ルニ各地金庫ノ實況ヲ顧ミルニ供託金提供者ハ概ネ法律ヲ職務トスル裁判所書記若クハ代言人執達吏等ナラサルナク從テ法律ノ解釋等ニ關シ金庫員ニ於テ右等法律專業者ヲ説破シ得サルコト勿論ノ義ニテ同一ナル事項ニ對シテ數度ノ往復ヲ煩ハスノミナラス其結極ニ至ルモ某金員ハ如何ナレハ供託トシテ受納スヘカラサル者ナリシヤヲ了解シ得サル者多キヲ以テ其後ニ至リ執達吏或ハ代言人等ヨリ同軌ノ事件ニ付供託金ノ提供アルニ際スルモ金員ノ受入ヲナシテ再ヒ往復ヲ煩ハスニ至ルモノモ往々有之甲者ニ拂戻ヲ了スレハ乙者ヨリ受入ヲナスノ奇觀ヲ呈シ整理上頗ル不便ヲ釀居候間至急整理法ヲ定メ度存居候然ルニ各地金庫員ヲシテ至難ナル法律ヲ了知スルニ至ラシムルハ殆ント望ムヘカラサルコトタルノミナラス現ニ前述ノ如キ法律專業者ニ於テモ法規ノ適用ニ關シ貴局ト意見ヲ異ニスル者尠カラズ今日迄ノ實例ヲ鑑ミルモ辨濟提供金ノ如キ各地ニ於テ法律專業者モ不文法トシテ効力アルモノト認メ續々理由ヲ述フル者アルニ貴局ニ於テハ成文法ニア

ラサレハ供託規則第一條ニ所謂法律ノ規定ニ依リ供託スル處云々トアル法律トハ認ムヘカラ
 サル旨御指示相成居候且成文法律ノ解釋ニ付テモ民事訴訟法條文ノ適用ニ關シ貴局ノ意見ハ
 頗ル嚴密ニシテ同法中第八十七條ニ於テ保證ト云ヘル法語ニ付キ法律上ノ解釋有之様被存候
 得其他ノ條項ニ於テ保證ヲ立ツヘシト明記シアル場合ニ於ケル各地ニテノ受入金ヲ拂戻スヘ
 キ旨御通達相成者有之各地金庫ニ於テハ取扱上非常ニ困難ヲ感居候旨申出候向モ有之事情尤
 モノ義ト被存候然ルニ供託受入ニ就キ金庫員ノ職務ハ御規定ノ手續ニ違背セサルヤ否ヤヲ注
 意スルノ外一々供託ノ本義ニ立入り法規ニ參照シテ甄別取捨候儀ハ到底實行シ能ハサル義ト
 存候間此際其筋ト御協議之上代言人執達吏及裁判所書記等へ現時貴局ニ於テ供託トシテ御取
 扱可相成者御通達相成置候外適當ナル整理法無之様被存候間至急右様之御詮議有之度此段及
 御照會候也

明治二十六年一月十九日

金庫出納役

日本銀行總裁 川田小一郎

預金局長 松尾 臣善殿

供託物受入標準ノ義ニ付照會

金庫出納役

右金庫出納役照會ノ要旨ハ供託物受入ニ際シ未タ一定ノ標準了解致兼候ヨリ金庫員ハ常ニ取
 扱上困難ニ有之候ニ付如何ナル法律ノ條項ハ供託シ可得ヤ該標準ノ垂示ヲ希望スト云フニ在

リ抑モ供託物ノ義ハ二十三年勅令第四百十五號第一條ニ依リ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ取
 扱ハサル義ニ候處供託者ハ金庫出納役云フカ如ク往々民法商法等ノ條規ニ係ル供託ヲ請求ス
 ルニ停マラス保管金ノ取扱ニ屬スル金種ヲモ供託トシテ請求爲ス者モ有之各地金庫ハ之カ爲
 メ取扱上困難スルハ只ニ不便ニ限ラス事務滯滞ノ恐レモ可有之ト被存候ニ付金庫出納役照會
 ノ次第一應尤ノ義ニハ有之候へ共末段申出ノ如キハ御詮議可相成筋ニ無之依テ當局取扱上ノ
 標準ニ依リ今回現行法取調候處保管又ハ供託トシテ可取扱條項ヲ區別セハ概シテ別紙ノ通り
 ト思考致サレ候へ共是亦公然交付スルヨリ篤ト協議致候方ト存候條左ノ通り御回答相成候方
 可然哉ト相考候此段相伺候也

客月十九日甲國第一五五號ヲ以テ供託金受入上種類標準ノ儀ニ付續々御照會ノ趣了承候へ
 共右ハ供託規則第一條ニ依リ取扱候外無之尤モ該種類標準等ノ儀ニ付テハ尙ホ當局員ヨリ
 貴所員へ更ラニ可爲及御協議回答旁此段申進置候也

明治二十六年二月十三日

大藏省預金局長 兵頭正懿

金庫出納役

日本銀行 總裁 川田小一郎殿

大藏省令第十三號 (明治二十六年六月二十四日)

明治二十三年勅令第四百十五號供託規則第一條ニ依リ金錢有價證券ノ供託ヲ爲サントスルモ
 ノハ供託者ニ於テ其由ルヘキ法律ノ條項ヲ供託書ニ掲記スヘシ
 預金局取扱ノ供託金及有價證券ノ計數ハ左ノ如シ

預金局供託金收支計算表

年度	事由		前年度ヨリ越高	受入高	拂戻高	差引残高
	前年度ヨリ越高	受入高				
自廿四年三月至廿四年四月	〇	六九二六五	〇	一七、七二六	五、五四九	五、五四九
二十五年年度	五、五四九	一、〇二七、七四七	七、五九、六三五	一、三三六、五六〇	三、一九、六六〇	五、二五、五九〇
自廿六年十月至廿六年十一月	五、二五、五九〇	八、五七、三〇三	九、〇二、三七七	四、八〇、五一六	四、八〇、五一六	〇
合計	〇	三、四九六、八〇五	三、〇一六、二八九	四、八〇、五一六	〇	〇

備考

本表合計ノ行最下段ノ差引残高四八〇、五一六ハ二十六年十一月一日ヲ以テ金庫出納役ヘ引繼ヲ爲シタル計數ナリト知ル可シ

預金局供託有價證券收支計算表

年度	事由		前年度ヨリ越高	諸公債證券	諸株券	諸證券
	前年度ヨリ越高	受入高				
自二十四年三月至二十四年四月	〇	一九、六八五	〇	〇	二、六五〇	〇
二十五年年度	〇	五、八五〇	〇	〇	一五〇	〇
自廿六年十月至廿六年十一月	〇	一、三、八三五	〇	〇	二、五〇〇	〇
合計	〇	二、五、四八五	〇	〇	五、七〇〇	〇

年度	事由		前年度ヨリ越高	受入高	拂戻高	差引残高
	前年度ヨリ越高	受入高				
自二十六年十月至二十六年十一月	〇	四〇五、六〇〇	二、二六、八〇〇	一、一〇、五八	八、九六七	三、七二五
二十五年年度	二、二六、八〇〇	一、六九、〇〇〇	三〇七、八三五	二、四〇、七五	六、二九八	三、一九〇四
自二十四年三月至二十四年四月	〇	三九、九三八〇	一、三五、二五五	二、四〇、七五	三、九八七三	二、三、三八二
二十五年年度	〇	三九、九三八〇	一、三五、二五五	二、四〇、七五	四、五五〇〇	一、二、二三七
自二十四年三月至二十四年四月	〇	二九、三、二五〇	一、三五、二五五	二、四〇、七五	九、八六二七	七、四、二三五
二十五年年度	〇	二九、三、二五〇	一、三五、二五五	二、四〇、七五	四、五五〇〇	一、二、二三七
自二十四年三月至二十四年四月	〇	四、一四、六七〇	二、二六、八〇〇	二、四〇、七五	一、四一、六二七	八、六、四七三
二十五年年度	〇	四、一四、六七〇	二、二六、八〇〇	二、四〇、七五	一、四一、六二七	八、六、四七三
自二十四年三月至二十四年四月	〇	七、七五、九三五	四、六三、四〇〇	二、二六、八〇〇	一、八五、七七七	一、二、〇四〇
二十五年年度	〇	七、七五、九三五	四、六三、四〇〇	二、二六、八〇〇	一、八五、七七七	一、二、〇四〇
自二十四年三月至二十四年四月	〇	一、二、三九、三三五	一、六九、〇〇〇	二、二六、八〇〇	一、九五、二〇八	一、一八、八二三
二十五年年度	〇	一、二、三九、三三五	一、六九、〇〇〇	二、二六、八〇〇	一、九五、二〇八	一、一八、八二三
自二十四年三月至二十四年四月	〇	四、六三、四〇〇	一、六九、〇〇〇	二、二六、八〇〇	九、四三、一	六、七、八三
二十五年年度	〇	四、六三、四〇〇	一、六九、〇〇〇	二、二六、八〇〇	九、四三、一	六、七、八三
合計	〇	四、六三、四〇〇	一、六九、〇〇〇	二、二六、八〇〇	九、四三、一	六、七、八三

備考

本表合計ノ欄差引残高ノ行ニ掲ケタル各種類別金額ハ二十六年十一月一日ヲ以テ金庫出納役ヘ引繼ヲ爲シタル計數ナリト知ル可シ

第二節 金庫直接取扱供託

大藏省預金局ニ於ケル供託金及供託有價證券ノ保管出納ハ明治二十六年九月大藏省令第二十二號ヲ以テ此年十月三十一日限リ金庫出納役直接ノ取扱ニ引移シタルト同時ニ大藏大臣渡邊國武ハ大藏省令第二十一號ヲ以テ明治二十三年同省令第三十九號供託物取扱規程ヲ左ノ如ク改正シ又同省訓令第三十二號ヲ以テ新ニ預金保管物及供託物金庫出納事務規程ヲ以テ此年十一月一日以降金庫出納役ヲシテ直接其取扱ヲ實行セシムルニ至レリ但シ出納事務規程ハ既ニ預金ノ部ニ掲ケタルヲ以テ之ヲ畧ス

大藏省令第二十一號 (明治二十六年八月二十日)

明治二十三年大藏省令第三十九號供託物取扱規程左ノ通り改正シ本年十一月一日ヨリ施行ス

供託物取扱規程

- 第一條 明治二十三年勅令第四百十五號ニ依リ保管スル供託物ノ保管受渡ハ此規定ニ依リ金庫ニ於テ取扱フモノトス
- 第二條 供託者ニ於テ金錢有價證券ヲ寄托セントスルトキハ其物件ニ左ノ事項ヲ記載シタル第一號書式ノ供託書二通ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ但金錢ト有價證券トハ各別ニ供託書ヲ調製スヘシ
- 第一 共託者ノ住所氏名若シ代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ其官廳名官氏名

第二 金錢ハ其金額

有價證券ハ其種類記號番號券面ノ金額枚數但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製添付スルモ妨ケナシ

第三 供託ヲ爲スヘキ法律ノ條項

供託ノ事由

但裁判中ノ事件ニ係リ供託ヲ爲ストキハ尙其件名及裁判所名ヲ記スヘシ

第四 年月日

第三條 金庫ニ於テ前條ノ供託書ヲ受ケタルトキハ其物件ヲ供託書ニ照シ之ヲ受領シ其一通ニ受領ノ旨記載捺印シ供託者ヘ交付スヘシ

第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄托スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ金錢ハ寄托スヘキ金庫所在ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ拂渡スヘキ送金手形若クハ爲換券等ヲ以テ寄托スルコトヲ得

第五條 金庫ニ於テ前條ノ送金手形若クハ爲換券ヲ以テ寄托ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 供託者ニ於テ供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ分割シタル供託書各二通ヲ調製シ第二號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ

第七條 金庫ニ於テ前條ノ分割請求ヲ受ケタルトキハ更ニ差出シタル供託書ニ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲シ新受領證ヲ舊受領證ト引換ニ交付スヘシ

第八條 供託者ニ於テ有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ノ受取方ヲ要スルトキハ第三號書式ノ請求書ニ通テ調製シ委任狀ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ差出スヘシ

第九條 金庫ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償還金利子又ハ配當金ヲ受取リタルトキハ償還金ハ代供託物トシ利子又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ領收シ請求書ノ一通ニ受領ノ旨記載捺印シ請求者ヘ交付スヘシ

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ請求スルトキハ其事由ヲ記載シタル條四號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ金庫ヘ請求スヘシ

其全部拂戻ノトキハ式ノ如ク與書ヲ爲シタル受領證幾分拂戻ノトキハ第五號書式ノ受領證ヲ差出スヘシ但供託者ニ於テ返戻ヲ受クル場合ニ官廳ノ證明書ヲ要スルモノハ其證明書ヲ第四號請求書ニ添付スヘシ

第十一條 裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ之ヲ金庫ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ調製シ之ヲ受取人ヘ交付スヘシ

第十二條 受取人ニ於テ前條ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ其末尾ニ式ノ如ク領收ノ旨記載捺印シ之ヲ金庫ヘ差出シ拂渡ヲ受クヘシ

第十三條 金庫ニ於テ第十條及第十二條ノ拂渡又ハ返戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ供託物ヲ受取人ヘ交付スヘシ

金庫ニ於テ裁判所ノ通知ニ依リ供託物ノ全部ヲ一時ニ拂渡ストキハ式ノ如ク與書ヲナシタ

ル第三條及第九條ノ受領證ト引換ニ供託物ヲ受取人ヘ交付スヘシ

金庫ニ於テ裁判所ノ通知ニ依リ供託物ノ内幾分ヲ拂渡ストキハ其送付ヲ受ケタル第三條及第九條ノ受領證ニ式ノ如ク内渡ノ旨記入捺印シ受取人ヨリ第五號書式ノ受取證ヲ徴シ其供託物ヲ交付スヘシ

第十四條 供託者ニ於テ明治二十六年十一月三十日以前ニ屬スル供託金ノ利子ヲ受クルニハ其元金仕拂ノ後第八號書式ノ請求書ヲ金庫ヘ差出スヘシ金庫ハ式ノ如ク利子金額ヲ記入證明シ之ヲ大藏省ヘ進達スヘシ

第十五條 大藏省ハ前條ノ請求書ニ依リ第九號書式ノ通知書ヲ製シ金庫ヲ經テ請求人ヘ交付シ請求書ハ案内トシテ之ヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第十六條 請求人ニ於テ前條ノ通知書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク裏面ニ領收ノ證印ヲ爲シ之ヲ其通知書ニ記載シタル日本銀行本支店又ハ其代理店ヘ差出シ現金ノ仕拂ヲ受クヘシ

(書式略ス)

明治二十七年十月一日ニ至リ民事訴訟上臨時至急ヲ要スル供託物ニシテ其旨裁判所ノ證明アルモノニ限リ金庫開庫時間外ト雖モ尙其取扱ヲ爲サシムヘキコト、シ大藏大臣ヨリ金庫出納役ヘ令達セリ蓋シ金庫開庫時間外供託物ノ取扱ハ司法大臣ノ照會ニ起因スルモノニシテ假差押又ハ假處分ノ如キ時機切迫寸時モ猶豫スヘカラサル場合ニ於テ金庫カ其保證金ヲ受託セサルカ爲メ大ニ法律ノ効力ヲ減殺シ債權ヲシテ非常ノ損害ヲ受ケシムルコト尠ナシトセサレハナリ

明治二十九年十一月七日大藏省令第十五號ヲ以テ官廳ニ對スル保證トシテ供託シタル金錢有價

證券ノ拂戻シニ關シ左ノ特例ヲ設ケタリ蓋シ酒造税法第十三條又ハ其他ノ法令ニ依リ政府ニ對シ保證トシテ金錢有價證券ヲ供託シタル者カ其保證セラレタル事件ヲ遂行セサリシトキハ政府ニ於テ其供託ニ依ル保證物ノ處分ヲ爲サ、ル可カラスト雖モ供託規則ノ定ムル所ニ依レハ供託物ハ供託者ノ指定又ハ裁判所ノ通知等ヲ以テスルニアラサレハ之カ拂戻ヲ受クル能ハサルカ如ク彼是衝突ノ免レサルモノアリテ茲ニ此特例ヲ要スルニ至リシモノナリ

大藏省令第十五號 (明治二十九年十一月七日)

法律ノ規定ニ依リ官廳ニ對スル保證トシテ供託シタル供託物ハ其官廳ヨリ供託受領證ヲ提供シ金庫ニ供託物拂戻ノ請求ヲ爲シタルトキハ金庫ハ供託物取扱規程第十條以下ノ規定ニ依リ供託者ニ拂戻ノ手續ニ準シ供託物拂戻ノ手續ヲ爲スヘシ

明治三十二年二月ニ至リ法律第十五號ヲ以テ新ニ供託法ヲ公布セラレ其第一條ニ於テ法律命令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢有價證券ハ金庫ノ保管ニ屬シ從來施行スル所ノ供託規則ハ此供託法ノ施行ト共ニ廢止スルコト、ナリタルヲ以テ茲ニ金庫ハ即チ其供託法ニ因テ他ノ法令ニ指定スル所ノ供託所トナルニ至リシモノニシテ其供託法ハ即チ左ノ如シ

法律第十五號 (明治三十二年二月七日)

供託法

第一條 法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢及ヒ有價證券ハ金庫ニ於テ之ヲ保管ス

第二條 金庫ニ供託ヲ爲サント欲スルモノハ大藏大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ差出スコトヲ要ス

第三條 金庫ハ金錢ノ供託ヲ受ケタル翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ大藏大臣カ定メタル利息ヲ拂フコトヲ要ス

第四條 金庫ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ノ請求ニ因リ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ供託物ニ代ヘ又ハ其從トシテ之ヲ保管ス但保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ供託者ハ其利息又ハ配當金ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得

第五條 司法大臣ハ法令ノ規定ニ依リテ供託スル金錢又ハ有價證券ニ非サル物品ヲ保管スヘキ倉庫營業者ヲ指定スルコトヲ得

倉庫營業者ハ其營業ノ部類ニ屬スル物ニシテ其保管シ得ヘキ數量ニ限リ之ヲ保管スル義務ヲ負フ

第六條 倉庫營業者ニ供託ヲ爲サント欲スル者ハ司法大臣カ定メタル書式ニ依リテ供託書ヲ作り供託物ニ添ヘテ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第七條 倉庫營業者ハ供託物ヲ受取ルヘキ者ニ對シ一般ニ同種ノ物ニ付テ請求スル保管料ヲ請求スルコトヲ得

第八條 供託物ハ供託者カ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ之ヲ還付ス

供託者ハ民法第四百九十六條ノ規定ニ依レルコト供託カ錯誤ニ出テシコト又ハ其原因カ消滅シタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ取戻スコトヲ得ス

第九條 供託者カ供託物ヲ受取ル權利ヲ有セサル者ヲ指定シタルトキハ其供託ハ無効トス

第十條 供託物ヲ受取ルヘキ者カ反對給付ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ供託所ニ其給付ヲ爲シ又ハ供託者ノ書面若クハ裁判ニ依リ其給付アリタルコトヲ證明スルニ非サレハ供託物ヲ受取ルコトヲ得ス

附則

第十一條 本法ハ明治三十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 本法施行前ニ供託シタル金錢ニハ其施行ノ月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ第三條ノ利息ヲ附スルコトヲ要ス

第十三條 第四條第八條及第十條ノ規定ハ本法施行前ニ供託シタルモノニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 明治二十九年勅令第四百四十五號供託規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
蓋シ此供託法ハ當時法典調査會委員ノ起草ニ係リ之カ制定ノ必要ハ既ニ明治二十九年四月法律第八十九號及同三十一年六月法律第十五號ヲ以テ公布セラレタル新民法及競賣法中供託ニ關スル事項ヲ定メタル場合尠カラサルノミナラス當時尙修正ヲ爲シツ、アリシ商法及其他將來發布セラルヘキ法律命令中供託ニ關スル事項ヲ設定セサル可カラサル場合亦尠カラサルヲ以テ供託法ノ改定ヲ要スルニ至リシモノニシテ其民法競賣法ハ明治三十一年勅令第二百二十三號ヲ以テ此年七月十六日ヨリ施行セラレ又商法中修正ニ關スル事項ハ遂ニ明治三十二年法律第四十八號ヲ以テ公布セラレ同年勅令第三百三十三號ヲ以テ此年六月十六日ヨリ施行セラレタリ而シテ其民法競賣法及商法中供託ニ關スル事項ヲ參考ノ爲メ左ニ掲ク

一 民法中

(明治二十九年四月法律第八十九號)

第三百六十七條 質權者カ第三債務者ナシテ其辨濟金額ヲ供託セシムル金錢

第三百七十八條 第三者カ抵當權ヲ濫除スルタメ供託スル金錢

第三百九十四條 抵當權者カ其不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産ノ代價ノ配當ヲ受クル場合ニ供託スル金錢

第四百六十一條 主タル債務者カ保證人ニ對シテ賠償ヲナス場合ニ供託スル金錢

第四百九十四條 辨濟者ノナス辨濟供託

第四百九十五條 供託ハ債務履行地ノ供託所ニナスコト又別段ノ定ナキ場合ハ裁判所ハ供託所ノ指定及ヒ

第四百九十六條 供託物保管者ノ選任ヲナスヲ要シ又供託者ハ債權者ニ供託ノ通知ヲナスコトヲ要スル規定

第四百九十七條 辨濟者カ供託物ヲ取戻スコトヲ得ル場合

第四百九十八條 辨濟者カ裁判所ノ許可ヲ得テ目的物ヲ競賣シ其代價ヲ供託スル場合

第四百九十九條 債權者カ供託物ヲ受取ルトキ反對給付ヲナスノ場合

第五百七十六條 買主カ危險ノ限度ニ應ジテ代價ノ仕拂ヲ拒ムトキ賣主ヨリ供託ヲ請求スル場合

第五百七十七條 買受ケタル不動産ニ付濫除ノ手續ヲ終ルマテ代價仕拂ヲ拒ムトキ賣主ヨリ供託ヲ請求スル場合

第五百七十八條 賣主カ買主ニ對シテ代價ノ供託ヲ請求スル場合

競賣法

(明治三十一年六月法律第十五號)

第十五條 執達吏カ競賣代金及競落物ヲ供託スル場合

第十九條 執達吏カ供託スル競賣代金

一 商法

(明治三十二年三月法律第四十八號)

第七十八條 株主カ取締役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ監査役ニ請求シタルトキ株主カ供託スル株券

第八十七條 株主カ監査役ニ對シテ訴ヲ提起スルコトヲ取締役ニ請求シタルトキ株主カ供託スル株券

第八十一條 指圖證券又ハ無記名證券ノ喪失者公示催告ヲシテ債務者ヲシテ債務ノ目的物ヲ供託セシムル場合

第二百八十六條 買主カ目的物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ受取ルコト能ハサルトキ賣主カ供託スル物品又ハ

其競賣代金

第二百八十九條 買主カ受取りタル目的物ニ瑕疵又ハ數量不足ノタメ契約ノ解除チナシタルトキ供託スル物品又ハ其競賣代金

第二百九十條 買主カ注文シタル物品ト異ナルトキ又ハ數量超過ノ場合ニ供託スル物品又ハ其競賣代金

第三百十八條 委託者カ買入レタル物品ヲ受取ラサルトキ同屋カ供託スル物品又ハ其競賣代金

第三百四十五條 荷受人ヲ確知スルコト能ハサルトキ運送人ノ供託スル運送品

第三百四十六條 運送品ノ引渡ニ關シテ爭アル場合ニ運送人ノ供託スル運送品

第三百四十七條 運送品ヲ荷受人ニ引渡スコトヲ得サル場合ニ運送人カ供託スル物品競賣代金

第三百五十一條 手荷物カ到達地ニ達シタルトキ一週間内ニ旅客ヨリ引渡ヲ請求セサルトキ運送人ノ供託スル手荷物及其競賣代金

第三百八十一條 寄託者又ハ預證券ノ所持人カ寄託物ヲ受取ルコトヲ拒ミ又ハ之ヲ受取ルコト能ハサルトキ倉庫營業者カ供託スル物品又ハ其競賣代金

第四百七十四條 爲替手形ニ關シ其所持人又ハ裏書人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル者カ其擔保ニ代ヘテ供託スル金

第四百七十五條 爲替手形ニ關シ其所持人又ハ裏書人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル者カ其擔保ニ代ヘテ供託スル金

第四百七十六條 爲替手形ニ關シ其所持人又ハ裏書人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル者カ其擔保ニ代ヘテ供託スル金

第四百七十七條 爲替手形ニ關シ其所持人又ハ裏書人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタル者カ其擔保ニ代ヘテ供託スル金

第四百七十九條 供託シタル金額取戻シ得ルノ規定

第四百八十條 爲替手形ノ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ其前者カ所持人ヨリ擔保ノ請求ヲ受ケタルトキ供託スル金

第四百八十一條 供託シタル金額取戻シ得ルノ規定

第四百八十五條 爲替手形ノ支拂請求ナキトキ引受人ノ供託スル金

右ノ如ク法律第十五號供託法ノ制定公布ニ基キ大藏大臣伯爵松方正義ハ同年三月大藏省令第六號ヲ以テ其供託物取扱規程ヲ定メ四月一日ヨリ其取扱ヲ實行スルコト、セリ

大藏省令第六號 (明治三十三年三月十六日)

供託物取扱規程左ノ通り相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

供託物取扱規程

第一條 明治三十二年法律第十五號供託法ニ從ヒ金庫ニ於テ保管スル供託物ハ此規定ニ依テ取扱フモノトス

第二條 此規程ニ於テ供託物ト稱スルハ法律命令中供託ヲ明記セラレタル場合一於テ保管スヘキ金錢有價證券ヲ云フ

第三條 供託ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ヲ明示シタル第一號書式ノ供託書二通ヲ作り之ニ供託物ヲ添ヘ金庫ヘ提出スヘシ

第一 供託者ノ住所氏名官吏公吏ノ公務上取扱フ場合ハ其官廳名官氏名又ハ職氏名但代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名

第二 供託セントスル金額

有價證券ハ其種類記號番號券面額枚數但全額拂込未済ノモノハ券面額ノ左側ニ其拂込済額ヲ記入スルコトヲ要ス

第三 供託ノ原因 (事實ヲ詳記スルノ外利害關係人ノ法律上ノ位置及氏名)

第四 供託スヘキ法令ノ條項

第五 供託物ヲ受取ルヘキ者ノ指定ヲ要スル場合ハ其者ノ法律上ノ位置 (預金者抵當權者等ナルコト) 及其氏名住所官廳ナレハ其官廳名官氏名又ハ職氏名

第六 供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要スル場合ハ其反對給付ノ目的

物

第七 官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託スルトキハ其官廳名若シ訴訟ニ關スルトキハ其件名及裁判所名

第四條 金庫ニ於テ前條ノ供託ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其要件ノ具備シタルコトヲ認メタル後供託書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ供託者ニ交付スヘシ

第五條 供託物ハ郵便ニ依リ寄托スルコトヲ得但シ供託物カ金錢ナルトキハ供託者ノ危險負擔ヲ以テ銀行ノ送金手形若クハ郵便爲替券等ヲ以テ供託者ト共ニ金庫ニ送付スルコトヲ得第六條 金庫ニ於テ前條ニ依リ送金手形若クハ爲替券等ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ現金ニ交換シタル後第四條ニ於ケル受領ノ手續ヲ爲スモノトス

第七條 供託物ヲ受取ルヘキ者ニ於テ供託ノ目的タル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ請求セントスルトキハ第二號書式ノ請求書二通ヲ作りテ金庫ヘ提出スヘシ
保證金ニ代ヘテ有價證券ヲ供託シタルモノニ於テ前項ノ請求ニ依リ金庫ヘ保管セラレタル其利息又ハ配當金ヲ受取ラントスル者ハ第八條ノ附屬供託物受領證ニ式ノ如ク領收ノ奧書ヲ爲シ其拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

保證金ニ代ヘテ利札付有價證券ヲ供託シタル場合ニ於テハ本條第一項ノ手續ニ依ラス直ニ其利札ヲ受取ルコトヲ得但シ此場合ハ第三號書式ノ領收證書ヲ作り利札ノ交付ヲ金庫ニ請求スヘシ

第八條 金庫ニ於テ前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其償還金利息又ハ配當金ヲ受取リ償

還金ハ代供託物利息又ハ配當金ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管シ請求書ノ一通ニ式ノ如ク受領ヲ證シ請求者ニ交付スヘシ
前條第二項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其附屬供託物ヲ交付シ第三項ノ請求ヲ受ケタルトキハ其利札ヲ交付スヘシ

第九條 供託法第八條ニ規定スル供託者ノ指定シタル者又ハ法令若クハ裁判ニ依リテ定マリタル者ニ於テ供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡ヲ受ケントスルトキハ第四號書式ノ請求書ヲ作り第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ其請求ノ原由ヲ證スヘキ左ノ書類ト共ニ金庫ヘ提出スヘシ但シ全部ノ拂渡ヲ要スルトキハ其受領證ニ式ノ如ク奧書ヲ爲シ幾分ノ拂渡ヲ要スルトキハ第五號書式ノ領收證書ヲ提出スルコトヲ要ス

第一 供託者カ指定シタル者ハ其供託通知書

第二 法令ニ依リテ定マリタル者ハ其受取ルヘキ事由ヲ證スルニ足ル書類

第三 裁判ニ依リテ定マリタル者ハ執行力アル判決ノ正本又ハ裁判所ノ命令書

前項ノ拂渡ヲ請求スル者カ反對給付ヲ爲スヘキ者ナルトキハ其給付ヲ爲シタル金錢證券若クハ物件ノ數量等ヲ表示シタル左ニ掲クル者ノ證明書ヲ仍ホ提出スルコトヲ要ス

第一 供託所ニ給付ヲ爲シタルトキハ其金庫又ハ倉庫營業者ノ作りタル供託受領ヲ證スル書類

第二 反對給付ヲ受クヘキ者ニ給付ヲ爲シタルトキハ供託者ノ書面又ハ判決ノ正本

第十條 供託者ニ於テ供託物ノ取戻ヲ爲サントスルトキハ前條第一項ノ手續ニ依リ其請求ノ

原由ヲ證スヘキ左ノ書類ヲ提出シ其拂渡ヲ金庫ニ請求スヘシ

第一 債權者カ供託ヲ受諾セサル場合ニ於テハ其事由ヲ表示シタル債權者ノ書面

第二 供託ヲ有效ト宣告シタル判決カ未確定ナル場合ニ於テハ其判決書ノ正本

第三 第一第二ノ場合ニ於テ供託カ質權又ハ抵當權ノ消滅ニ關スルモノナルトキハ其質權

又ハ抵當權ノ消滅セサリシコトヲ證明シ得ヘキ書類

第四 供託ノ原因カ消滅シ又ハ供託カ錯誤ニ出テシ場合ニ於テハ其事實ヲ證明スルニ足ル

ヘキ書類又ハ判決ノ正本若シ官廳ニ對スル保證又ハ擔保トシテ供託シタルモノナルトキ

ハ其官廳又ハ裁判所ノ證明但シ官吏公吏ノ公務上取扱フモノナルトキハ事由ヲ表示シタ

ル書面

第十一條 前二條ノ規定ニ依リ提出スヘキ書類其他原由ヲ證明スルニ足ルヘキ書類ヲ提出ス

ルコト能ハサル正當ノ理由アル場合ニ於テハ其書面ニ代ヘテ金庫ノ承諾ヲ得タル二名以上

ノ保證人ノ連署ヲ以テ其供託物拂戻ノ爲メ政府ニ損害ヲ生シタルトキハ賠償ノ責ニ任スル

旨記載シタル書面ヲ提出スルコトヲ得

第十二條 金庫ニ於テ第九條第十條ニ依レル拂渡請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ請求ノ理

由アルコトヲ確認シタル後供託物ヲ請求者ニ交付スヘシ但シ幾分ノ拂渡ヲ爲シタルトキハ

供託受領證ニ式ノ如ク其拂渡額ヲ記入シ請求者ニ返還スヘシ

第十三條 裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リ分割拂渡ヲ要スルトキハ第六號書式ノ請求書ニ

第四條及第八條第一項ノ受領證ヲ添ヘ金庫ニ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂渡證書ヲ受取人

ニ交付スヘシ

受取人ニ於テ前項ノ拂渡證書ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク受領ヲ證シ供託物ノ拂渡ヲ請求スヘシ

第十四條 金庫ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ拂渡證書ト引換ニ供託物ヲ受取人ニ交付

スヘシ但其拂渡カ幾分ニ係ルトキハ供託受領證ニ式ノ如ク拂渡額ヲ記入シ請求裁判所ヘ返

還スヘシ

第十五條 供託法第三條ニ規定スル供託金ノ利息ハ其元金ト同時ニ拂渡スヘキモノトス但シ

元金ノ受取人ト利息受取人トヲ異ニスルトキハ元金拂渡ノ後利息ヲ拂渡スヘシ

第十六條 供託法第三條ニ依リ利息ノ拂渡ヲ受ケントスルモノハ第八號書式ノ請求書ヲ金庫

ヘ提出スヘシ

第十七條 金庫ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ利息金額ヲ計算シ式ノ如ク之ヲ記入シ

中央金庫ニアツテハ日本銀行ヘ本支金庫ニアツテハ日本銀行ノ支店代理店ヘ之ヲ回付スヘ

シ

日本銀行又ハ其支店代理店ニ於テ前項ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ利息受取人ヲ

シテ式ノ如ク受領ヲ證セシメ其現金ヲ交付スヘシ

附 則

第十八條 此規程施行前ニナシタル供託物ヲ受取ルヘキ者ヨリ反對給付ヲ受クルコトヲ要ス

ル供託者ハ其金錢證券又ハ物件ノ數量等ヲ金庫ニ通知スルコトヲ要ス

第十九條 明治二十六年當省令第二十一號供託物取扱規程其他ノ規程ニ牴觸スルモノハ此規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(書式略ス)

次テ同年三月十六日大藏省訓令第十二號ヲ以テ明治二十六年大藏省訓令第三十二號預金保管物金庫出納事務規程中帳簿書式ヲ改正セリ蓋保管物取扱規程改正ノ結果ナリ然レトモ其供託法カ臺灣ニ施行セラレタリシハ此年六月十日以降ニシテ即チ左ノ律令ノ發布ニ依レリ

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣供託規則勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

明治三十二年六月九日

臺灣總督 男爵 兒玉源太郎

律令第十一號

臺灣供託規則

第一條 民法商法其他法令ノ規定ニ依ル供託ニ付テハ供託法ニ依ル

第二條 供託法中司法大臣ニ付與シタル職權ハ臺灣總督之ヲ行フ

附則

第三條 此規則ハ明治三十二年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 臺灣總督ハ當分ノ内其指定シタル供託所ヲ以テ供託法ニ定メタル倉庫營業者ニ代フルコトヲ得

明治三十四年九月ニ至リ大藏省令第十七號ヲ以テ供託物取扱規程第十三條及第十四條ニ改正ヲ

加ヘ且附屬第六號及第七號書式ヲ改ム抑モ供託物取扱規程第十三條ハ裁判所ノ取扱ニ係ル供託物ノ分割拂渡ヲ要スル場合ヲ規定シタルモノニシテ其當時ニアリテハ其他ノ官廳ノ取扱ニ係ル供託物ノ分割ヲ認メサリシカ爾來供託事件漸次頻繁ヲ極ムルニ從ヒ裁判所以外ノ官廳ニ係ル供託物ノ分割拂渡ヲ要スル場合往々發生シ取扱上差支ヲ生スルコトナリシヲ以テ茲ニ其第十三條ヲ改正スルノ必要ヲ來シタルモノナリ而シテ其第十四條及附屬書式ノ改正ハ第十三條改正ノ結果ニ外ナラサルナリ其省令ハ即チ左ノ如シ

大藏省令第十七號 (明治三十四年九月十三日)

明治三十二年大藏省令第六號供託物取扱規程第十三條中「裁判所ニ於テ裁判ノ結果等ニ依リトアルヲ」官廳又ハ裁判所ニ於テトシ第十四條中「請求裁判所」トアルヲ「請求官廳又ハ裁判所」ト改メ附屬第六號及第七號書式中「裁判所名」トアルヲ「官廳又ハ裁判所名」ト改ム

明治三十五年六月勅令第五百十八號ヲ以テ取引所法ヲ改正セラレタル結果農商務省商工局ヨリノ照會ニ基キ同法ニ依リ會員及仲買人カ身元保證トシテ金庫ニ供託スル金錢有價證券ノ受渡ニ關スル事項ヲ決定シ六月二十五日大藏省理財局長ヨリ金庫出納役ニ對シ左ノ手續ニ依リ出納方取扱フヘキ旨ヲ通達セリ

取引所會員及仲買人身元保證金保管ノ爲メ取引所ヨリ金庫ヘ供託ノ件

一 供託ノ場合ニハ供託物取扱規程第三條ニヨル此場合ニ於テ同條第三項供託ノ原因トハ會員若クハ仲買人ニ就キ身元保證金トシテ現金(現金ニ代用ス)ヲ受取リタル事實ノ詳記トス

二 取戻ノ場合ニハ供託物取扱規程第十條ニヨル此場合ニ於テ同條第四項供託ノ原因ヲ消滅シタル事實ヲ證明スルニ足ルヘキ書類トハ

會員若クハ仲買人カ脱退若クハ廢業シタルトキハ會員若クハ仲買人ヨリ取引所ニ提出シタル脱退届若クハ廢業届

但届書ニハ會員若クハ仲買人ノ記名捺印ヲ要ス

會員若クハ仲買人除名ノトキハ農商務大臣ノ命令書又ハ除名ノ認可書

會員若クハ仲買人死亡ノトキハ戸籍ノ謄本

會員若クハ仲買人資格消滅ノトキハ裁判所ノ判決書破産宣告書家資分産決定書等之ヲ證明スルニ足ルヘキ書類トス

三 引換ノ爲メ全部又ハ一部ヲ取戻ス場合ニハ前項ノ書類ハ會員若クハ仲買人ヨリ新ニ身元

保證金ヲ提出シタル事由ニ因リ先キニ身元保證金トシテ提出シタル現金現金ニ代用スルヘキ有價證券ノ

返還ヲ取引所ニ對シ請求スル請求書トス

但返還請求書ニハ會員若クハ仲買人ノ記名捺印ヲ要ス(此場合ニ於テハ新ニ提出シタル身元保證金ノ供託ト同時ト取戻ヲ請求スヘキコト)

參照

資格ノ消滅ニ就テハ取引所法第十條及第十一條除名ニ就テハ同法第十五條及第二十七條

同年八月六日大阪稅關構内へ派出ノ大阪本金庫員ヲシテ砂糖消費稅ニ關スル擔保ノ爲メ供託ス

ル金錢有價證券受領ノ事務ニ限リ取扱ヲ爲サシムルコトトシ大藏大臣ヨリ金庫出納役へ其取扱

ヲ令達セリ蓋シ派出金庫員ヲシテ供託事務ヲ取扱ハシムルハ出納上危險ノ虞アルニ付キ成ルヘ

ク忌避スルノ方針ヲ採リタルヲ以テ最初大阪稅務管理局長ヨリノ要求ヲ拒絕シタルモ其後主稅

局長ヨリ官民ノ不便尠カラストノ趣旨ヲ以テ商議アリタルニ依リ特ニ金庫へ令達セラレタルモ

ノニシテ全ク特例ニ屬スルモノト知ルヘシ

供託金及供託有價證券ノ計數ハ保管金及保管有價證券ト混同シテ計上セラレ居ルヲ以テ前節保

管ノ部ニ之カ合計額ヲ示セリ

第五章 預金保管金供託金利息

第一節 國債局取扱預金利息

明治九年五月以降同十八年六月ニ至ル期間大藏省國債局ニ於テ取扱ヲ爲セシ準備金中ノ預金及別途預リ金取扱ニ關スル事歴ハ第二章第一節ニ述ヘタル如ク其都度行政上ノ決定ニ因リ國債局ノ取扱ニ屬シタルモノニシテ固ヨリ一定ノ法規アルタルモノニアラサルヲ以テ其利息割合及計算ノ方法任拂ノ順序ニアリテモ預金ノ種類ニ從ヒ概ネ時ノ約定若クハ請願等ニ因リテ其取扱ヲ異ニセリ故ニ其利息ニ關スル事歴ヲ陳述セントセハ自カラ其利息割合及計算ノ方法竝ニ任拂ノ順序等ノ相異ナルモノ毎ニ悉ク之ヲ列舉セサルヘカラサルカ如シト雖モ斯ノ如キハ番ニ煩累ニ涉ルノ嫌アルノミナラス亦敢テ其必要ヲ視サルカ如シ且夫レ既ニ預金ノ取扱ニ關スル事歴ヲ分テ驛遞局貯金保見金物部神社修繕費備金印刷局營業收益据置金米國政府返還ノ下ノ關債金朝鮮

政府補填金及備外國人「パロンアレキサンドル」フオン、ジーボルト」ノ恩賜金等ノ數種ニ限定シテ其他ノ預金ニ及ハサルコト、爲シタルヲ以テ今本節ニ在テモ是等ノ預金ノ事歴ニ伴ヒ其利子割合及計算ノ方法仕拂ノ順序等ヲ左ニ列敘スルコト、セン

第一 驛遞局貯金利息

抑モ國債局カ取扱ヲ爲シタル驛遞局貯金ニ對スル利子割合及計算ノ方法仕拂ノ順序ハ明治十一年五月八日太政官ノ裁定ヲ以テ其貯金ノ預リ入レヲ爲スニ際リ驛遞國債兩局長ノ締結シタル約定ヲ以テ該金受渡ニ關スル手續ト共ニ決定セラレタルモノナリ即約定書第三條ニ於テ預金額ハ一箇年ニ付元金百分ノ六ノ割合ヲ以テ利子ヲ付スヘキ事ヲ定メ第四條ニ於テ預金額ノ利子ハ其預リタル翌日ヨリ計算シ渾テ日割タルヘキモノトシ利子精算ノ期限ニ關シテハ第五條ニ於テ利子ハ每歲六月三十日及十二月三十一日ヲ期限トシ計算ヲ爲シ六月十二月兩度ニ國債局ヨリ驛遞局ヘ利子ヲ相渡シ更ニ其金額ヲ驛遞局ヨリ國債局ヘ預クヘシ其受授ハ第二條ノ通タルヘキモノトシ又第六條ニ於テ預ケ入レノ日ヨリ一箇月ヲ經過セサル以前ニ拂戻ストキハ其ノ拂戻シタル金額ニハ利子ヲ付セサル旨ヲ定メタリ右約定書第五條ニ依レル利子ハ當時直ニ預金ニ組入レタルモノニシテ之カ受授ヲ爲スノ手續ハ豫メ驛遞國債兩局ノ間ニ設置スル所ノ乙通帳ニ證記シテ之ヲ完了セリ其後明治十二年三月ニ至リ曩ニ驛遞國債兩局長カ締結シタル約定書ニ掲クル年六歩ノ利子割合ハ年七歩ノ割合ニ改正シテ此年七月一日ヨリ其取扱ヲ爲スニ至レリ然ルニ明治十三年四月十七日ニ至リ驛遞總監前島密ハ貯金利息割合増加ノ議ヲ時ノ佐野大藏卿

ニ稟請スル所アリ其結果從來取扱ヲ爲シ來リシ年利七歩ノ割合ヲ改メ即チ貯金預リ高豫定參百萬圓ノ内百萬圓ハ年利八歩五厘其餘ノ貳百萬圓ハ年利八歩ノ割合ヲ以テ利息ヲ付スルコト、ナリ乙貯金通帳ニ其事項ヲ明記シ以テ此年七月一日ヨリ實施セリ蓋シ從來驛遞局カ貯金主ニ交付スヘキ利息ノ定率ハ年利六歩ノ割合ニシテ其差一步ノ利金ヲ以テ貯金事業ニ關スル經費ヲ僅カニ補充シ來リタリシカ此時ニ方リ明治十年西南役ノ餘ヲ受ケ農民暴富ノ勢ヲ呈シ通貨地方ニ分散シテ都會ハ却テ金融逼迫ノ景狀ヲ顯シ公債證書ノ價格ノ如キハ低落ノ極ニ陥リタルヲ以テ政府ハ之レカ救済ヲ爲スノ一方法トシテ大ニ貯金ヲ勸誘シテ彼ノ農民ノ手ニ小分セル所ノ通貨ヲ政府ニ吸收センコトヲ謀リ茲ニ其貯金ノ勸誘ニ關スル經費ヲ要スルニ至リシモノナリ

明治十三年九月ニ至リ貯金利息計算期限ヲ毎年六月三十日十一月三十日ノ兩期ニ改メ以テ此年六月ヨリ施行セリ蓋シ此計算期限ハ曩ニ締結シタル約定書第五條ニ明定スルカ如ク其初ハ毎年六月三十日十二月三十一日ノ兩期ナリシカ明治十二年十二月中之ヲ改正シテ毎年五月三十一日十一月三十日ト定メタルヲ茲ニ再ヒ前述ノ如ク改正ヲ爲シ通帳ニ記入スルニ至リシモノナリ然ルニ明治十四年二月ニ至リ驛遞總監前島密ハ貯金利息割合増加ノ議ヲ再ヒ大藏卿佐野常民ニ稟請シ其結果從來金額ノ多寡ニ依リ利率ニ區分ヲ立テ即チ預金高百萬圓迄ハ年利八歩五厘ノ割其餘ノ貳百萬圓迄ハ年利八歩ノ割合ト爲シタリシ約定ヲ改メ貯金預リ高ニ對スル利息ハ一箇年元金百分ノ九ノ割合ヲ以テ計算スルノ約定ト爲シ通帳ニ記入ノ上此年七月一日ヨリ實施セリ斯ノ如ク驛遞局貯金ノ預リ高ニ對スル利子ハ漸次増進シテ年利九歩ノ割合ト爲セシカ其後明治十六年ノ交ニアリテハ世上一般ノ金利モ大ニ低落ノ傾向トナリシヲ以テ茲ニ大藏省國債局長石

渡貞夫ハ數々其貯金預リ高ニ對スル利子割合ヲ年利八歩ニ引直サンコトヲ驛遞總監ニ照會スル所アリシモ驛遞總監ハ容易ニ之ヲ承諾セザリシカ明治十七年ニ至リ一般ノ金利ハ愈低落ノ實況ヲ呈スルコト、ナリタルヲ以テ大藏卿松方正義ハ其利子割合ヲ年利七歩二厘ニ低減スヘシト爲シ二月九日國債局長石渡貞夫ヲシテ更ニ左ノ如ク照會ヲ發セシメタリ

預托貯金利子引下方驛遞局照會

驛遞貯金之義ハ去ル十四年七月以來年九歩ノ利ヲ以テ預リ入之處昨年來一般貸借上ノ利子大ニ低歩ニ相成且公債證書ノ如キハ價格騰貴シ將來金利低落スルハ勿論ト存候就テハ御預リ金利子年九歩ノ割合ニハ運轉致難ク候去逆貴局ヨリ人民ヘ仕拂ノ利子ヨリ相減シ候テハ御差支ノ義ト存候ニ付右預金利子ハ自今年年利七歩二厘ノ割合ヲ以テ御預リ申度右ハ大藏卿ノ命ニ依リ及御照會候也

此時ニ方リ驛遞局カ人民ニ仕拂フヘキ利子割合ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ年利七歩二厘ノ定メナリシヲ以テ其國債局ヨリ收得スル所ノ年利九歩ノ割合ニ比較スレハ即チ一步八厘ノ差益アリト雖モ從來驛遞局ハ是等ノ差益ヲ以テ貯金事業ニ關スル經費ヲ補充シ以テ漸ク其事業ヲ擴張シ來リシモノナルカ故ニ今其國債局ノ要求ニ應シ其利率ヲ年利七歩二厘ノ割合ニ低減セサル可カラサルニ於テハ忽チ事業ヲ縮少スルノ外他ニ施スヘキ策ヲカリシモ當時貯金事業ハ却テ倍々擴張ヲ要スヘキ機運ニ切迫シ從テ經費ハ愈多額ヲ要スル場合ナリシヲ以テ時ノ驛遞總監ハ其狀況ヲ具シテ大藏卿ニ協リ以テ從來驛遞局カ貯金ノ事業ニ關シ採リ來リシ是等ノ方針ヲ改メ即チ貯金ニ對シ人民ヘ仕拂フヘキ利子ハ其金額ヲ限リ之ヲ國債局ヨリ受取ルヘキコト、爲シ貯金事業

ニ關スル經費ニアリテハ別ニ國庫ニ要求スルコト、爲シ茲ニ其人民ニ仕拂フヘキ利子割合ヲ改正シテ之ヲ官報ニ廣告シタリ

驛遞局廣告 (明治十七年五月十二日官報)

當局貯金ノ利子(從來ノ預金及今後ノ預金ニ生スル利子共)左ノ通改定候條此旨廣告ス

利子ノ割合

- 一人ノ預金高千圓以上ハ付來ル七月一日ヨリ一年ニ付元金百分ノ四分八厘
- 但積年ノ預金高千圓以上ニ昇ル時ハ其昇リタル翌月ヨリ金額ヘ本行ノ利子ヲ付ス
- 一人ノ預金高千圓迄 十八年一月一日ヨリ一ヶ年ニ付元金百分ノ六分

而シテ驛遞國債兩局長ハ此改正ノ結果ニ依リ此年六月二十七日ヲ以テ更ニ貯金取扱ニ關スル約定ヲ締結シ其第四條ニ於テ國債局ハ預リ金ニ對シ驛遞局ニテ一人ノ預ケ金千圓以上ハ壹箇年四分八厘、一人ノ預ケ金千圓マテ一箇年七分二厘明治十八年一月ヨリ一箇年六分ノ割合ニ依リ實際預ケ人ニ拂渡スヘキ利子ヲ附スルモノトシ第五條ニ於テ驛遞局ハ其貯金預リ高ノ内千圓以上及千圓迄ノ金額ヲ區別シ毎月其概算ヲ國債局ニ報知スルモノトセリ而シテ利子精算ニ關シテハ第六條ニ於テ預ケ金ノ利子ハ毎年六月三十日及十二月三十一日ヲ區切り精算スルモノトシ第七條ニ於テ驛遞局ハ毎年六月十二月ノ兩度該半季間ニ預ケ人ニ拂渡スヘキ利子精算調書(凡三ヶ月後サレハ完全)ヲ製シ國債局ニ送付スヘキニ由リ國債局ハ該調書ニ據リ毎年六月三十日及十二月三十一日ノ日附ヲ以テ其利子金額ヲ驛遞局ヘ渡シ更ニ其金額ヲ驛遞局ヨリモ其日附ヲ以テ國債局ニ預クヘク其受授ハ第三條ノ通ト爲セリ又第八條ニ於テ決算期限ニ至ラサル前預ケ人ニ拂渡ス

へキ利子ハ驛遞局ニ於テ拂戻準備金ノ内ヲ以テ其時々繰替渡シ置クヘキ旨ヲ定メタリ

第二 保見金及物部神社修繕費備金利息

保見金及物部神社修繕費備金ニ對スル利子割合及計算ノ方法並ニ仕拂ノ順序ニアリテハ該金預
 リ入レニツキ明治十四年二月ヲ以テ内務大藏兩卿カ内務省會計局長武井守正大藏省國債局長郷
 純造ヲシテ締結セシメタル約定ヲ以テ該金受渡ノ手續ト共ニ各決定セラレタルモノニシテ其約
 定書第三條ニ於テ保見金預ケ金額ハ一ケ年ニ付元金百分ノ八ノ割合ヲ以テ利子ヲ付スヘキモノ
 トシ第四條ニ於テ預リ金額ノ利子ハ其預リタル翌日ヨリ計算シ之レヲ返戻スルトキハ其返戻前
 日マテヲ計算シ渾テ日割タルヘキモノトセリ而シテ利子計算ノ期限ニ付テハ第五條ニ於テ毎歲
 五月三十一日十一月三十日兩度ニ計算シ即時支出ヲ要セサル分ハ會計局ヨリ其旨ヲ國債局へ通
 知シ第二條ノ手續ニ依リ更ニ預ケ方ヲ爲スヘキモノトシ又第六條ニ於テ金額ヲ預ケタル日ヨリ
 三十日ヲ經過セサル内ニ取戻ヲ爲ストキハ其ノ取戻シタル金員ニハ利子ヲ生セサル旨ヲ規定セ
 リ
 物部神社修繕費備金ニ對スル利息ノ割合及其計算ノ方法等ニ關スル約定書ニアリテモ右保見金
 ノ取扱ニ關スル約定書ニ規定スル所ト概シテ同一ニシテ獨リ其利息ノ計算期限ヲ六月三十日十
 二月三十一日ノ兩期ト爲シタルニ過キサルヲ以テ茲ニ其條項ヲ摘載セス

第三 印刷局營業收益据置金利息

印刷局營業收益据置金ノ利子割合ニアリテハ明治十六年八月二十八日大藏卿松方正義カ該金預
 リ入レニ關シ太政官ニ提出シタル伺書中年利六歩ノ利息ヲ拂渡スヘシトアルニ因リテ決定セラ
 レタルモノニシテ其計算ノ方法及仕拂ノ順序ニアリテハ別ニ規定ノ視ルヘキモノナシト雖モ今
 其當時印刷國債兩局長カ利息ノ取扱ニ關シ往復ヲ爲セシ公文書ニ依レハ該金ニ對シテハ年利六
 歩ノ割合ヲ以テ其預ケ入レノ翌日ヨリ拂戻シ前日迄ノ利息ヲ付シ其計算ハ毎年六月三十日十二
 月三十一日ノ兩期ニ於テシ其都度印刷局長ヨリハ利息ノ領收證書及預金ノ拂込書ヲ國債局ニ送
 付シ國債局長ハ預リ金領收證書ヲ交付スヘキ順序ニ出タルモノ、如シ

第四 其他別途預金利息

國債局取扱準備金中ノ預金及ヒ別途預リ金中驛遞局貯金保見金物部神社修繕費備金及印刷局營
 業收益据置金ニ對スル利子割合計算ノ方法仕拂ノ順序等ハ上來掲クル所ノ如クナリシカ其別途
 預リ金中米國政府返還ノ下ノ關債金朝鮮政府補填金及備外國人、パロン、アレキサンドル、フオン、シ
 ーポルトノ預金ノ如キハ何レモ金札引換公債證書ニ交換シテ増殖ヲ計リ其利子ヲ以テ直チニ預
 金ノ利子トナシタルモノナルカ故ニ即チ其割合ハ年利五歩ノ取扱ナリト云フヲ得キモ而モ其
 公債證書ヨリ生スル利子ハ仍ホ公債證書ニ交換シテ倍々増殖ヲ計ルコトヲ目的ト爲スニ止マリ
 他ニ別段ノ方法順序ヲ定メタルモノアラサリシナリ
 今左表ヲ添付シ以テ上來ノ事歴ニ伴フ利子割合ノ沿革ヲ示スヘシ若夫レ準備金中ノ預金及別途
 預リ金ニ對シ國債局カ仕拂ヲ爲シタル利息ノ計數ハ別章預金運用ノ部ニ掲クル所ノ損分額中ニ

包含スルモノト知ルハシ

國債局取扱準備金中ノ預金利息割合沿革表

種類	年次	山		一人ノ貯金高
		預リ高ニ對スル 年利息割合	驛遞局貯金豫定三百萬圓ノ内 百萬圓ニ對スル年利息割合	
驛遞局貯金	自明治十一年七月 至全十二年六月	百分ノ六	○	○
	自全十二年七月 至全十三年六月	百分ノ七	○	○
	自全十三年七月 至全十四年六月	○	百分ノ八、五	○
	自全十四年七月 至全十四年六月	百分ノ九	百分ノ八	○
	自全十四年七月 至全十四年六月	百分ノ九	○	○
	自全十七年七月 至全十七年六月	百分ノ九	○	○
	自全十七年七月 至全十七年六月	○	○	○
	自全十八年一月 至全十八年六月	○	百分ノ六	百分ノ四、八
	自全十八年七月 至全十八年六月	○	○	百分ノ四、八
	自全十八年七月 至全十八年六月	百分ノ六	○	○
保見金	自全十四年五月 至全十四年六月	百分ノ八	○	○
	自全十四年七月 至全十四年六月	百分ノ八	○	○
印刷局預リ金	自全十八年十月 至全十八年六月	百分ノ六	○	○
	自全十八年七月 至全十八年六月	○	○	○

備考

別途預リ金米國政府返還ノ下ノ關債金朝鮮政府補填金パロシールト恩賜金ハ單ニ金札引換公債證書ニ交換シテ利殖ヲ爲シタルモノニシテ即チ之カ利息ハ年利五歩ナリト雖モ預リ金ニ對シテ特ニ其割合ヲ定メタルモノニアラサルカ故ニ本表中之ヲ省ケリ

第二節 預金規則施行以降預金利息

抑々預金規則第一條各項ノ預金ニ對シ政府カ仕拂フヘキ利息割合ハ同則第三條ニ依リ大藏卿ノ定ムル所ナリト雖モ其第一項ノ預金即チ驛遞局貯金ノ如キハ從來既ニ國債局ノ取扱ニ係リ明治十八年七月一日即チ預金規則施行ノ當時國債局ヨリ預金局ニ引繼キタルモノニシテ其利息割合ニアリテモ既ニ大藏農商務兩卿カ驛遞國債兩局長ヲシテ締結セシメタル定率アリ而シテ此定率ハ既ニ準備金中ノ預金利息ノ部ニ掲クル所ノ如ク一人ノ貯金千圓未滿ハ年利六歩千圓以上ハ年利四歩八厘ニシテ即チ預金局ハ其貯金ノ取扱ト共ニ此定率ヲ繼續シ當時大藏卿ハ別段ノ決定ヲ爲サ、リシモノナリ而シテ同條第三項ノ預金即チ社寺教會社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ノ利息割合ニアリテハ通常預金ト定期預金ノ區別ニ從ヒ當時大藏卿之ヲ定メ明治十八年六月十二日ヲ以テ官報及新聞紙ニ廣告セリ而シテ其廣告ニ依レハ通常預金千圓未滿ハ年利六歩千圓以上ハ年利四歩八厘ニシテ即チ前陳驛遞局貯金ニ對スル利息割合ト其定率ヲ同フシ又定期預金ノ利息割合ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ期限ノ長短ヲ問ハス年利六歩ノ割合トシ而シテ同條第二項ノ預金即チ官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金ノ利息割合ニアリテハ或ハ以上ノ定率ニ基キ又ハ便宜ノ決定ニ依ルヘキモノト爲シ以テ此年七月一日ヨリ之ヲ實施セリ

茲テ同月十日ヲ以テ官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金中官吏巡查並ニ職工等ノ積立金ニシテ數口ヲ集合シ一ノ官廳ノ名義ヲ以テ拂込ヲ爲ス預金ニアリテハ其金額千圓以上ト雖モ年利六分ノ割合ヲ以テ利息ヲ付スルコト、セリ蓋シ通常預リ金ニ付スル利息割合ハ一口ノ金額千圓未滿ハ年

六分千圓以上者年四分八厘ノ割合ナルモ各官廳預リ金之内官員又ハ巡査職工積立金之類ハ各自ノ區分アルモノト雖モ其人別ニ關セス各官廳ノ名義ヲ以テ一口トナシ預ケ入ヘキ内規ナルヲ以テ其金員ハ忽チ千圓以上ニ登ルト雖モ右ハ許多ノ人員ヨリ成立モノナルヲ以テ普通一口ト稱スルモノトモ同視シ難キヲ以テ右之類ニ限リ千圓以上ト雖モ年六分ノ利息ヲ以テ預ルコト、セルナリ

而シテ此決定ニ依リ各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金中官吏巡査又ハ職工ノ積金及之ニ類スル積立金ノ如キモノニシテ其金額千圓以上ノ通常預リ金ニ對シ年利六歩ノ割合ヲ以テ之カ利息ヲ付スルコト、爲シタルモノ甚タ尠カラスト雖モ預金局直接取扱ノ預金ニ對スル是等ノ特例ニアリテハ當時別段其種類ニツキ取調ヲ爲シタル材料ナキヲ以テ容易ニ茲ニ詳悉スルコト能ハス但各地預金ノ取扱所ニ於ケル預金ニ對シ其利子割合ヲ特定シタルモノニアリテハ明治十九年二月八日ヲ以テ預金局長カ日本銀行へ通達シタル調書ニ由テ其實況ヲ視ルコトヲ得ヘシ今其通達及調書ヲ舉クレハ即チ左ノ如シ

日本銀行

各廳ヨリ各國庫金取扱所へ預ケ入ノ内利子ノ定例ニ異ナル預金別紙ノ通りニ有之候條爲心得該國庫金取扱所へ通知スヘシ

右相達候事

明治十九年二月八日

預金局長 大野直輔

各廳預金ノ内利子ノ定例ニ異ナル分左ノ如シ

- 一 京都府巡查積金 通常預金千圓以上ニ及フモノ年六歩ノ利子ヲ付ス 全上
- 一 同府在監人工錢 全上
- 一 右京都國庫金取扱所へ預ケ入ノ分 全上
- 一 同府巡查積金 全上
- 一 右 見出張場へ預ケ入ノ分 全上
- 一 同府巡查積金 全上
- 一 右同團部出張場へケ入ノ分 全上
- 一 京都府巡查積金 全上
- 一 右福知山國庫金取扱所へ預ケ入ノ分 通常預金千圓以上ニ及フモノ年六歩ノ利子ヲ付ス 全上
- 一 同府巡查積金 全上
- 一 同府在監人工錢 全上
- 一 右同宮津出張場へ預ケ入ノ分 全上
- 一 大阪造幣局職工積金 全上
- 一 大阪府巡查積金 全上
- 一 大阪鐵道歩兵第八聯隊第一大隊下士卒積置金 全上
- 一 同第二大隊同上 全上
- 一 同第三大隊同上 全上
- 一 同歩兵第二十聯隊第一大隊同上 全上
- 一 同第二大隊同上 全上
- 一 同砲兵第四聯隊第一大隊同上 全上

一	同第二大隊同上	全上
一	同第三大隊同上	全上
一	同工兵第二大隊同上	全上
一	同輜重兵第四小隊同上	全上
一	大阪陸軍病院同上	全上
一	大阪砲兵工廠職工積置金	全上
一	右大阪國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	横濱燈臺局守燈方積置金	全上
一	同局燈船乗組水先同上	全上
一	同局定履職工同上	全上
一	神奈川縣巡查積金	全上
一	右横濱國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	神戸鐵道局運轉從事者貞元金	全上
一	同局製造場職工保證金	全上
一	兵庫縣巡查積金	全上
一	同縣在監人工費	無利息
一	右神戸國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	同縣囚徒給與金	全上
一	右姫路國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	同縣在監人工費	全上
一	右出石國庫金取扱所暨岡出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣已決囚徒工賃下付金同上	全上
一	右洲本國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	長崎縣巡查積金	通常預千圓以上ニ及フモ ノ年六歩ノ利息ヲ付ス

一	右長崎國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查積金	全上
一	右同島原出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查積金	全上
一	右同福江出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查積金	全上
一	右全大村出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查積金	全上
一	右全平戸出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查積金	全上
一	右全武生水出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查積金	全上
一	右嚴原國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	新潟縣巡查積金	全上
一	右新潟國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	佐渡鐵山局坑夫就業中證據金	全上
一	右同相川出張場へ預け入ノ分	全上
一	新發田歩兵第十六聯隊第一及第三大隊下士卒積置金	全上
一	右同新發田出張場へ預け入ノ分	全上
一	函館砲隊下士卒積置金	全上
一	函館歩兵第十五聯隊第三大隊下士卒積置金	全上
一	右函館國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	群島縣巡查積金	全上
一	右前橋國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上

第十編 預金 第五章 預金保管金供託金利息

- 一 高崎歩兵第十五聯隊下士卒積置金 全上
- 右同高崎出張場へ預け入ノ分
- 一 千葉縣在監人工錢 無利子
- 右千葉國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 一 同縣在監人工錢 全上
- 右水更津國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 一 同縣在監人工錢 全上
- 右佐原國庫金取扱所八日市場出張場へ預け入ノ分
- 東京鎮塞佐倉警所歩兵第二聯隊下士卒積置金
通常預金千圓以上ニ及フ
モノ年六歩ノ利子ヲ付ス
- 一 右千葉國庫金取扱所佐倉出張場へ預け入ノ分
- 茨城縣巡查積金 全上
- 同縣在監人工錢 無利子
- 一 右水戸國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 三重縣巡查積金 通常預金千圓以上ニ及フ
モノ年六歩ノ利子ヲ付ス
- 同縣在監人給與金 無利子
- 一 右津國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 同縣囚徒工錢給與金 全上
- 右同四日市出張場へ預け入ノ分
- 一 同縣囚徒工錢給與金 全上
- 右山田國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 同縣囚徒工錢給與金 全上
- 一 右上野國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 名古屋鎮塞歩兵第六聯隊下士卒積置金

- 一 同歩兵第十八聯隊第一大隊同上 通常預金千圓以上ニ及フ
モノ年六歩ノ利子ヲ付ス
- 一 同歩兵第十九聯隊第一大隊同上 全上
- 一 同砲兵第三聯隊同上 全上
- 一 同工兵第二中隊同上 全上
- 一 同輜重兵第三小隊同上 全上
- 一 同病院醫兵看護卒同上 全上
- 一 愛知縣巡查積金 全上
- 同縣在監人給與金 全上
- 一 右名古屋國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 同縣在監人給與金 全上
- 一 右岡崎國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 名古屋鎮塞豐橋分警第十八聯隊第二第三大隊下士卒積置金 全上
- 一 右豐橋國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 靜岡縣巡查積金 全上
- 一 右靜岡國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 山梨縣巡查積金 全上
- 一 同縣看守押丁教隊師醫師授業手女監取締積金 全上
- 同縣在監人工錢 全上
- 一 右甲府國庫金取扱所へ預け入ノ分
- 滋賀縣巡查積金 全上
- 一 全縣在監人履工錢 全上
- 一 右大津國庫金取扱所へ預け入ノ分

第十編 預金 第五章 預金保管金供託金利息

一	神戸鐵道局運轉從事者身元金	全上
一	右彦根國庫金取扱所長演出振揚へ預け入ノ分	無利子
一	岐阜縣在監人工錢	全上
一	右岐阜國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	同縣在監人工錢	全上
一	右岡大垣出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣在監人工錢	全上
一	右高山國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ付ス
一	長野縣巡查費金	通常預金千圓以上ニ付ス
一	同縣囚徒付典金	全上
一	右長野國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	仙臺鐵道歩兵第四聯隊下士卒積置金	全上
一	同第十六聯隊第二大隊同上	全上
一	同第十七聯隊第一大隊同上	全上
一	同砲兵第二聯隊同上	全上
一	同工兵第一中隊同上	全上
一	同騎重兵第二小隊同上	全上
一	右仙臺國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	青森歩兵第五聯隊第一第二大隊下士卒積置金	全上
一	青森縣巡查費金	全上
一	同縣在監人工錢	無利子
一	右青森國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ付ス
一	山形縣巡查費金	通常預金千圓以上ニ付ス
一	右山形國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ付ス

一	秋田縣巡查費金	全上
一	同縣在監人工錢	無利子
一	右秋田國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ付ス
一	福井縣巡查費金	通常預金千圓以上ニ付ス
一	右福井國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ付ス
一	名古屋鐵道金澤管轄院下士卒積置金	全上
一	同歩兵第七聯隊同上	全上
一	石川縣巡查費金	全上
一	右金澤國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	富山縣巡查費金	全上
一	右富山國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	富山縣巡查費金	全上
一	同縣巡查費金	全上
一	右岡魚津出張所へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查費金	全上
一	右岡高岡出張場へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查費金	全上
一	右岡今石出張場へ預け入ノ分	全上
一	鳥取縣巡查費金	全上
一	右鳥取國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	岡山縣巡查費金	全上
一	右岡山國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
一	同縣巡查費金	全上
一	右岡玉島出張場へ預け入ノ分	全上

同縣巡查積金	全上
右津山國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
同縣巡查積金	全上
右高梁國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
廣島縣巡查積金	全上
廣島鎮臺歩兵第十一聯隊第一大隊下士卒積置金	全上
同第二大隊同上	全上
同第三大隊同上	全上
同歩兵第二十一聯隊第一大隊同上	全上
同砲兵第五聯隊第一大隊同上	全上
同第三大隊同上	全上
同工兵第三中隊同上	全上
同輜重兵第五小隊同上	全上
同病院醫兵看護卒同上	全上
同脱走不在兵積置金	全上
右廣島國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
山口縣巡查積金	全上
同縣在監人給與金	全上
右山口國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
同縣在監人給與金	全上
右赤岡國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
同縣在監人給與金	全上
右德山國庫金取扱所岩國出張場へ預け入ノ分	全上
和歌山縣巡查積金	全上

同縣在監人所有金	無利子
右和歌山國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
同縣在監人所有金	全上
右田邊國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
松山營所下士卒積置金	通常預金千圓以上ニ及 モノ年六歩ノ利子ヲ付ス
右高松國庫金取扱所丸龜出張所へ預け入ノ分	全上
松山分屯隊歩兵第二十二聯隊第一大隊下士卒積置金	全上
右松山國庫金取扱所へ預け入ノ分	全上
小倉營所歩兵第十四聯隊下士卒積置金	全上
同第二十四聯隊第一大隊同上	全上
右小倉國庫金取扱所へ預け入ノ分	無利子
大分縣在監人工錢	無利子
右大分國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ及 モノ年六歩ノ利子ヲ付ス
熊本鎮臺歩兵第十三聯隊第一第二第三大隊下士卒積置金	全上
同歩兵第二十三聯隊第一大隊同上	全上
同砲兵第六聯隊同上	全上
同工兵第三大隊同上	全上
同輜重兵第六小隊同上	全上
同病院同上	全上
熊本縣巡查積金	無利子
同縣囚徒工錢給與金	無利子
右熊本國庫金取扱所へ預け入ノ分	通常預金千圓以上ニ及 モノ年六歩ノ利子ヲ付ス
埼玉縣巡查積金	無利子

右浦和國庫金取扱所へ預ケ入ノ分

蓋シ當時ニ於ケル預金局直接取扱ニ係ル預金中利子割合ノ特例ニアリテモ亦以テ其概況ヲ類推スルニ足ルヘキナリ然リ而シテ前段調書中掲クル所ノ在監人工錢ノ如キ無利子ノ取扱ヲ爲スニ至リシ所以ノモノハ即チ預ケ入官廳ノ請求ニ因リ明治十八年十月六日預金局長ノ提議ニ基キ同月十日ヲ以テ大藏卿ヨリ太政官ニ伺ヒ同月二十九日裁可ヲ得テ之カ取扱ヲ爲シ來リシモノニシテ其伺及裁可ハ即チ左ノ如シ

大藏卿決定預金局長提議

本年第十三號布告預金規則第一條中貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシムト有之右預リ金ニハ必シモ一般ニ利子ヲ可付トノ明文モ無之趣同條第二項ニ屬スル在監人工錢ノ如キ多數ノ人員ニシテ日々ノ收支頻繁故利子配賦方差問候ニ付無利子預ケ入方照會ノ向モ有之素ヨリ預リ方ニ於テ差問ハ無之候ヘトモ規則中無利子預リ方ノ明文無之義ニ付一應太政官へ御稟伺相成可然左ニ文按取調相伺候也

松方大藏卿伺太政官指令

本年第十三號布告預金規則第一條中貯金積立金ヲ預リ之ヲ保管利殖セシムト有之右ハ預ケ主ニ於テ事故有之利子ヲ請求セサル分ハ無利子ヲ以テ之ヲ預カルモ不苦義トハ存候ヘトモ規則中明文モ無之義ニ付爲念一應相伺候至急御指揮相成度此段相伺候也

明治十八年十月十日

大藏卿 伯爵 松方正義

太政大臣 公爵 三條實美殿

伺之通

明治十八年十月二十九日

又明治十九年二月ニ至リ社寺教會々社其他人民ノ共有ニ係ル積立金中日本郵船會社及日本鐵道會社ノ請願ニ因リ通常預金千圓以上ノ金額ニ對シ廣告以外ノ利子割合ヲ定メタルモノアリ即チ明治十九年二月三日日本郵船會社長請願同月五日大藏大臣指令第一項ニ於テ預ケ金ノ利子ハ當分年六歩トシ預ケ入レノ當日ヨリ拂渡前日迄其日數割ヲ以テ下付スル旨ヲ定メ又明治十九年二月十日日本鐵道會社請願同月十三日大藏大臣指令第一項ニ於テ預ケ金利息ハ當分年六歩トシ預ケ入レノ當日ヨリ拂渡前日迄其日數割ヲ以テ下付スルコト、セリ而シテ此決定ニ關スル文書ニ依レハ會社ノ保護上云々トノミアリテ其理由ヲ詳悉スルニ由ナシト雖蓋シ當該會社ハ政府特別保護ノ下ニ設立シタル會社ニシテ其當時ニアリテハ他ノ專ラ營利ヲ目的ト爲セル普通ノ會社ト稱其性質ヲ殊ニスル所アリシヲ以テ特ニ恩典ヲ付與スルコト、爲シタルモノニ外ナラサルカ如シ然ルニ其後世上一般ノ利子割合漸ク低落ノ傾向ヲ告クルニ至リシヲ以テ大藏遞信兩大臣ノ決定ヲ以テ從來施行スル所ノ社寺教會々社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ノ利子割合中通常預金千圓未滿ニ對スル定率年利六歩ヲ五歩四厘ニ定期預金ニ對スル定率年利六歩ヲ五歩四厘ニ又驛遞局ニ於ケル一人ノ貯金千圓以上ニ對スル定率年利六歩ヲ五歩四厘ニ改正シ以テ此年五月一日ヨリ實施スルニ至レリ

斯ノ如ク預金利息割合ハ改正セラレタリト雖モ從來千圓以上ノ通常預金中特別ヲ以テ年利六歩

ノ利息ヲ付シ又其金額ノ多寡ニ拘ハラズ單ニ年利六歩ノ割合ヲ以テ利息ヲ付シ來リシ官廳及會社ニ係ル各種ノ預金ニ對シテハ此改正以降ニ在テモ仍從來ノ比例ニ據テ年利五歩四厘ノ利息ヲ付スルコト、爲シ大藏大臣ノ決定ニ基キ預金局長ヨリ此年三月九日ヲ以テ其關係官廳及會社等へ各之ヲ通達スルニ至レリ但其內務省會計局へノ通牒ニ係ル保見會資本及物部神社營繕資本金ハ既ニ掲ル所ノ如ク明治十八年七月一日預金規則施行以降仍其以前ノ利率ヲ繼續シテ單ニ年八歩ノ利息ヲ付スルコト、爲シタリシカ明治十九年一月以降ハ定期預金ニ引直シ時ノ定率ニ由テ當然年利六歩ノ利息ヲ付シ來リシモノナルカ故ニ今其通牒ヲ以テ五月一日以降年利五歩四厘ノ利息ヲ付スルコト、爲シタルハ蓋シ當然ノ結果ニシテ特別ニアラサルモノト知ルヘシ又各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金中千圓内外ノ區別ニヨリ從來社寺教會々社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ト同一ノ利率ヲ付シ來リシ預金ニアリテハ其改正利率ニ依リ又同一ノ割合ヲ以テ利息ヲ付スルコト、爲シ預金局長ハ更ニ其關係官廳へ通知シ以テ此年五月一日ヨリ實行セラレタリ

尋テ同月三日ニ至リ三井銀行ノ請願ニ據リ各廳ノ仕拂切符ヲ以テ直ニ同行ヨリ拂込ムヘキ通常預金ニ對シ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ年利四歩八厘ノ割合ヲ以テ利息ヲ付スヘキ特例ヲ聽許セリ蓋シ當時一般會社ノ通常預金ニ對スル利率割合ハ千圓以上ハ年利四歩八厘千圓未滿ハ年利五歩四厘ノ定率ナリシニ獨リ三井銀行カ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ最低利率ヲ以テ之カ預ケ入レテ請願スルニ至リシカ如キハ一見奇怪ノ感ナキ能ハスト雖モ願フニ世上一般ノ金利ハ當時漸ク低落ヲ來シ其四歩八厘ノ割合ハ三井銀行ノ滿足スル所ニシテ預金局長ハ却テ此ノ聽許ニ際シ尙ホ其

利率ヲ低減セサル可カラサルコトヲ豫期シ前段ノ如ク指令ヲ爲シタルモノニ外ナラサルカ如シ是ニ於テ預金局長ハ同月五日ヲ以テ社寺教會々社其他人民ノ共有ニ係ル積立金及驛遞局貯金ニ對スル利率割合ノ低減ニツキ左ノ如ク大藏大臣へ提議セリ

世上一般ノ利率割合追々低下ノ模様ニ付預金利率低減ノ儀本年二月中別紙ノ通御決議相成候處爾來倍低落ニ趣候折柄預金貯金ノ利率低減不致テハ銀行營業上ハ勿論世上融通金ニモ差響候ニ付本年九月一日ヨリ末表ノ通り通常預金千圓未滿年四歩二厘千圓以上年三歩定期預金千圓三分六厘ノ割ニ改更相成可然哉(既ニ定期預金中ノ分ハ滿期迄其約束ノ利率ヲ付シ本局ヘ直接ニ預ケ入レヘキモノハ今回改正ノ廣告ヲ發布シタル日迄ハ年五歩四厘ヲ付シ九月一日ヨリ年三歩六厘ヲ付ス)就テハ驛遞局貯金利率ノ儀モ九月一日ヨリ千圓未滿年四歩二厘千圓已上年三歩ト改更相成度尤該利率計算方ハ從前ノ通ニ取扱候様可仕此段相伺候也

(別紙)

但本議御決裁ノ上ハ驛遞局及預金局ヨリ利率割合改定ノ儀廣告可取計候

從前ノ割	十九年五月一日改定ノ割	本議何ノ分
通常預金	千圓未滿年六分	千圓未滿年五歩四厘
千圓以上年四歩八厘	千圓以上年四歩八厘	千圓以上年三分
定期預金	年六歩	年五歩四厘
年六歩	年五歩四厘	年三分三厘
驛遞局貯金	千圓未滿年六分	千圓未滿年五分四厘
千圓以上年四分八厘	千圓以上年四分八厘	千圓未滿年四分二厘
		千圓以上年三分

而シテ大藏大臣松方正義ハ此ノ提議ヲ可トシ之ヲ逓信省ニ回付セシメタリシカ逓信大臣榎本武揚ハ反テ之ヲ不可トシ同月十九日ヲ以テ其理由ヲ大藏大臣ニ照會セリ是ニ於テ預金局長ハ同月二十日ヲ以テ其回答案ヲ草シ大藏大臣へ提出スル所アリシカ大藏大臣ハ其回答案ヲ措キ直ニ逓信大臣ニ面議シテ其利息割合ノ改正ハ預金局長提議ノ如ク決定セラレ此年六月二十一日ヲ以テ官報及新聞紙ニ廣告セラレタリ其公文書及廣告左ノ如シ

貯金利息低落之儀別冊同議書ヲ以テ御合議相成候處元來驛遞貯金ノ主旨タル細民小額ノ金錢ヲ預リ以テ勤儉ノ良風ヲ養成シ漸次小ヲ積テ終ニ恒産ヲ得セシムル目的ニ有之仍テ確實ヲ旨トシ人民ノ信依ヲ維クノミナラス相當ノ利息ヲ附シテ之ヲ保護勸誘セサルヲ得サル儀ニ候然ルニ曩ニ一人預ケ高ノ制限ヲ廢シ又ハ屢々利息ヲ低減シ又ハ遽然數千ノ貯金預所ヲ増設シ未タ幾ナラスシテ再ヒ之ヲ廢停シ或ハ銀行營業ノ形狀ニ陥リ或ハ主旨始終一定セサルカ如キ其人民ノ信用ヲ失フモノ實ニ鈔カラス其茲ニ至ル所以ノモノハ經費ノ都合ト理財ノ形勢變動シタルトニ由ル儀ニシテ不得已者ノ如シト雖モ其實驛遞貯金本來ノ主旨ニ悖違スルコト顯然ニシテ實ニ慨歎ノ至リニ候就テハ今ヨリ其本旨ニ復シ彼ノ多額預金ニ區限ヲ設ケ其他都テ人民ノ信依ヲ維キ細民小額貯金ノ保護ヲ厚フスル事ニ致度積ニ付利息ノ義モ本月一日ヨリ低減シ尙未タ日アラザルニ又之ヲ低減スルカ如キハ御同意難致候條右様御了知相成度此段及照會候也

明治十九年五月十九日

逓信大臣 榎本武揚

大藏大臣伯爵松方正義殿

預金利息ノ義ニ付逓信大臣へ御回答按伺

利息割合低減ノ儀親第六號ヲ以テ及御協議候處十九日附祕甲第六三九號ヲ以テ御同意難相成旨續々御照會之趣致一閱候然ル所貯金ノ主旨タル細民小額ノ金錢ヲ預リ以テ勤儉ノ良風ヲ養成シ漸次恒産ヲ得セシムルノ目的ニシテ實ニ確實ヲ以テ人民ノ信依ヲ維ク而已ナラス相當ノ利息ヲ附シテ之ヲ保護勸誘セサルヲ得ストノ義ハ當省ニ於テモ夙ニ之ヲ了知シ其恩惠主義ニ出ツルモノニシテ射利ノ舉ナラサルハ厚ク信スル所ナリ御來示ノ如ク利息ハ社會一般相當ノ地位ニ立テサルヲ得サル者ナレハ世勢ノ推移ニ追隨シ高低上下スヘキハ勿論ニシテ本議ノ利息額ヲ以テ相當ノ權衡ヲ得サル者トモ申シ難カルヘシ却テ之ヲ政府財政上ノ實際ニ就テ論スルモ徒ラ一定ノ利息額ヲ墨守シ豫シメ其損失アルヲ知テ國庫ノ補填ヲ俟ツカ如キ其爲シ能ハサルハ素ヨリナリ屢々利息額ヲ低減スルハ當省ニ於テモ亦好マサル所ナリト雖モ社會一般ノ形勢ヲ察シ理財ノ全軀ヲ斟酌シ之ヲ低減スルハ理ノ當然ニシテ必シモ貯金本來ノ主旨ニ悖戾スルノ患ハナカルヘシ尙御再考ノ上本議ニ御同意相成候様致度御答旁再應及御回議候也

大藏大臣 伯爵 松方正義

逓信大臣子爵榎本武揚宛

追テ利息割合ノ義從前ノ振合ニ倣ヒ千圓以上已下ニ區別シ修正致シ候就テハ本議實施ノ餘日無之ニ付至急御決議有之度候也

預金利息割合改正廣告

當省預金局預金利息割合ノ儀本年九月一日ヨリ左ノ通相改ム

一 通常預ケ金

千圓未満ノ利息年三分

一 定期預ケ金

利息年三分六厘

但既ニ定期預ケ中ノ分ハ滿期迄其約束ノ利息ヲ附シ又此廣告以後預金局へ直接預ケ入ノ分ハ各地國庫金取扱所へ預ケ入レノ分ハ郵便到達日ノ翌日ヨリ本年八月三十一日迄ハ年五分四厘ヲ附シ九月一日ヨリ改定ノ利息年三分六厘ヲ附ス

明治十九年六月廿一日

大藏省

驛遞局貯金ノ利息來ル九月一日以後左ノ通改定ス

壹人ノ貯金高千圓迄ハ壹個年ニ付元金百分ノ四分貳厘

同千圓以上ハ壹個年ニ付元金百分ノ三分

但積年ノ預高千圓以上ニ上ルトキハ其上リタル翌月ヨリ本行ノ利息ヲ附ス

右廣告ス

明治十九年六月二十一日

遞信省

而シテ此改正ノ結果官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金中從來一般又ハ特別ノ利息ヲ付シ來リシ各種ノ預金及會社ノ預金中特別ノ利息ヲ付シ來リシモノニアリテハ仍ホ從來ノ比例ニ準シ改正ノ利率ニ由テ各其利息ヲ低減スルコト、爲シ預金局長ハ大藏大臣ノ決定ニ基キ此年六月二十四日ヲ

以テ其關係官廳及會社等へ其利息割合ヲ通達スルニ至レリ

然レトモ其三井銀行ノ預金ニ對スル年利三步ノ利息割合ハ同年九月一日ニ至リ同銀行ノ請願ニ由テ年利三步六厘ニ改定セラレタリ其請願及指令ハ即チ左ノ如シ

預金利息ノ義ニ付願

御局預金利息本年九月一日ヨリ御改正當座預金ハ金高千圓以上一ヶ年三分ノ御定ト相成候旨先般御達有之候ニ付テハ豫テ當行ニ於テ取扱仕居候御官員俸給當座預ノ義未タ日淺シト雖モ當初以來追々預入モ有之漸次及増加候ニ付今後一層擴張仕度候ニ付扱員ヲモ相増且通帳及小切手帳其他準備モ致置度候處何分費用モ差嵩ミ算當難相立候ニ付右預ケ金ニ限リ幾分カ利息御引上被成下度何卒特別ノ御詮議ヲ以テ御聞届之程單ニ奉願上候以上

明治十九年九月一日

三井銀行

大藏省預金局長大野直輔殿

三井銀行

其行ヨリ各廳仕拂切符ヲ以テ直ニ預ケ入來候高等官俸給ニ對スル利息ノ儀ニ付今回申出ノ趣モ有之候ニ付特別ヲ以テ本年九月一日ヨリ當分年三分六厘ノ割合ヲ以下付候條其他ハ最前指令ノ通り相心得受書差出スヘシ

右相達候事

明治十九年九月一日

預金局長 大野直輔

又官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金中、中央備荒儲蓄金ノ利息割合ハ從來社寺教會々社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ニ對スル一般ノ利息割合ト其定率ヲ同フシ別ニ高歩ノ利息ヲ付シ來リシモノニアラサリシカ明治十九年六月三十日ノ決定ヲ以テ同年四月一日ニ溯リ大ニ其利息割合ヲ低減シタルモノアリ今其決定ニ關スル要旨及令達ヲ擧クレハ即チ左ノ如シ

預金ノ内中央儲蓄金ニ付スル利息ノ義ニ付伺

預金ニ付スル利息ノ義運用ノ利益ヲ以仕拂候内公債證書購收ノ利息ハ總額ノ幾分ニシテ餘ハ悉ク出納局借入金ノ利息ニ候處十八年度ハ未タ決算ニ不至^{十八年度及舊年度總額貯金ノ利息ヲ結算候得共多少不足ヲ視ルヘキ豫算ニ付其計畫ヲ以兼テ公債證書ヲ賣却シ其實益ヲ補填ニ振向置候間同年度決算上ニ於テハ缺額ニ至ル間敷見込ニ有之然ルニ二十九年年度之義ハ出納局借入金利息子モ減額相成隨テ預金之利息モ九月一日以降低減相成候得共定期預金之内滿期迄六分及五分四厘ノ利息ヲ付スヘキ分多額有之到底十九年度ノ運用利息ニ於テハ拂渡金ニ對シ難償概算ニ有之就テハ別紙參照書ノ通約束期限中利息低減ノ例モ有之候間中央儲蓄金ノ預リ金ニ付スル利息ハ本年四月一日以降定期及ヒ通常預金トモ年三分六厘ニ引直シ度因テ備荒儲蓄課ヘノ御達ヲ付シ此段相伺候也}

備荒儲蓄課

中央儲蓄金ノ内預金局ヘ預ケ入レタル定期及通常預金トモ本年四月一日以降八年三分六厘ノ利息ニ更正ス

但 通常預金ノ利息ハ九月一日ヨリ八年三分ノ割

明治十九年六月三十日

大藏大臣

蓋シ此年四月一日ヨリ同三十日ニ至ルノ期間、中央備荒儲蓄金ニ付スヘキ利息割合ニアリテハ通常預金千圓以上ハ年利四歩八厘定期預金ハ年利六歩ニシテ又同年五月一日以降八月三十一日ニ至ル期間、同儲蓄金ニ付スヘキ利息割合ハ通常預金千圓以上ハ年利四歩八厘定期預金ハ年利五歩四厘ノ定率ナリシカ前掲ノ令達ヲ以テ其四月一日ニ溯リ通常預金ト定期預金ノ區別ナク單ニ年利三歩六厘ノ割合ニ引直シタル結果其利息割合ハ其期間ニ於テ即チ特例トナリ同年九月一日以降ハ從來ノ如ク一般ノ利息割合ニ復スルコト、爲シタルモノナリ但此特例ハ他ノ預金ニ對スル特例ト其損益相反スルモノニシテ爲メニ中央備荒儲蓄金ハ實際損失ヲ蒙リタルモノト云フ可シ以上掲クルモノ、外仍ホ預金利息ノ割合ヲ特定シタルモノハ明治十九年三月十日ノ決定ヲ以テ「パロン、アレキサンドル、フオン、シーホルト」ノ恩賜金ニ對スル利息割合ヲ年利六歩トシ明治二十年五月二十三日ノ決定ヲ以テ帝室預金ノ利息割合ヲ年利三歩六厘トシ同年八月二十六日ノ決定ヲ以テ布哇國出稼人ノ貯金利息割合ヲ年利六歩ト爲シタル等ハ是亦各其當時ニ於ケル利息割合ノ特例ナリ然ルニ明治二十三年ニ至リ此等ノ預金中帝室預金、日本郵船會社、日本鐵道會社ノ預金及「パロン、アレキサンドル、フオン、シーホルト」ノ預金等既ニ拂戻濟トナリタルモノ、外布哇國出稼人ノ貯金及其他ノ預金ニシテ仍ホ其繼續取扱ニ係ル各種ノ預リ金中從來特別ノ利息割合ヲ定メタルモノハ此年七月一日以降總テ一般ノ利息割合ニ引直スコト、シ大藏大臣ヨリ外務大臣ヘ其旨

通達シ預金局長ハ其他ノ關係官廳及會社等へ各之ヲ通達シタリ其決定即チ左ノ如シ

預金利息成規外附與之分改正ノ件

預金利息ハ目今通常預金ハ預金入月及拂戻月千圓以下年利四分二厘千圓以上年利二分定期預金ハ年利三分六厘預金入翌日ヨリ漸ノ成規ニ候處布哇國出稼人貯金其他特別ニ利息ヲ附シ來候分有之右轉成規外ノ利息ヲ附スルハ不公平ノ嫌モ有之候間本年七月一日ヨリ成規ノ利息ニ引直シ可然哉尤右布哇國出稼人貯金利息ハ當時青木外務大臣ヨリ其事情陳述相成居候間右引直方此際御照會相成度文按ヲ附シ仰高裁

但本文御決裁ノ上ハ外務省御照會ノ外ハ預金局ヨリ夫々可及通達候

一 布哇國出稼人貯金 但年利六分日步割

一 三井銀行通常預ケ金 但每半ケ月ニ區分年利三分六厘ノ割

一 陸軍省下士卒積置金 同上家計保護金

内閣記録局官吏積金 鐵道局輸運從事者及職工身元保證金 官吏及職工等積金 警察官

巡查積金在監人工錢 但數人集合預ケノ故ヲ以テ千圓以上ニ及フモ千圓以下ノ利息ヲ附

ス

而シテ其布哇國出稼人ノ貯金利息割合ノ低減ニ關シ大藏大臣ヨリ外務大臣へ照會ノ結果ハ此貯金ノ事歷ニ關聯シテ既ニ預金ノ部ニ掲クル所ノ如ク此年七月中仍ホ從來ノ特別ヲ繼續シテ年利六歩ノ利息ヲ付スルコト、爲シタリシモ其他ノ預金ニ對スル利息割合ハ茲ニ始メテ一定スルニ至レリ

斯ノ如ク明治十八年七月預金規則施行以後同二十三年六月ニ至ル期間ニ於ケル預金利息割合ハ殆ント千差萬別ニシテ頗ル煩雜ヲ極メタリシカ同年七月一日以降ハ僅カニ布哇出稼人ノ貯金ニ對シ之カ特別ヲ存スルモノ、外總テ利息割合ヲ一定スルコトヲ得タルハ抑政府預金ノ取扱ニ關スル進歩ノ一端ニシテ又其計算整理上ニ於テモ頗ル便益ヲ得ルニ至リシモノト云フ可シ然ルニ此年八月法律第六十三號ヲ以テ郵便貯金條例ヲ公布セラレ其第四條ニ於テ貯金ニ制限ヲ付シ即チ一人ノ預ケ入レ高ハ五百圓ヲ以テ最高額トシ其利息割合ハ勅令ノ定ムル所ニ依ルヘキコト、ナリタルヲ以テ茲ニ遞信大臣ハ其利息割合ヲ大藏大臣ニ協議決定シテ之ヲ閣議ニ提出シ同年十一月勅令第二百七十八號ヲ以テ公布セラレタリ今其法律中之ニ關係ノ條項及利息割合ニ關スル勅令ヲ擧クレハ即チ左ノ如シ

郵便貯金條例抄錄 (明治二十三年八月 法律第六十三號)

第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條 郵便貯金利息ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利息ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利息ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利息ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利息ヲ付セス

郵便貯金ノ利息計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

附 則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第一百五十七條乃至第二百二條及第二百四十二條
第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

明治二十三年^{十一月}勅令第二百七十八號郵便貯金ノ利息ハ來明治二十四年一月ヨリ一箇年元金
百分ノ四分貳厘ト定ム

但本年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金額千圓ヲ超過シタルモノハ一箇年元
金百分ノ三分トス

是ニ於テ明治二十四年一月以降大藏省預金局ニ於ケル各種ノ預金中獨リ郵便貯金(郵便貯金ハ舊稱ニ係ル利息割合ニアリテハ此勅令ノ定ムル所ニ依ルヘキコト、ナリタルモ而モ其利息割合ハ從來施行スル所ノ範圍内ニシテ實際ニ於テハ變更セラレタルモノニアラサリシナリ蓋シ其郵便貯金條例ヲ以テ一人ノ貯金ヲ五百圓ニ制限シタルニモ拘ハラズ之カ施行以後仍ホ千圓以上ノ貯金ニ對スル利息割合ヲ定ムルコト、ナリタリシハ當時逓信大臣カ本例施行ノ際既ニ五百圓以上ニ達スル貯金ニシテ引續キ預ケ入レヲ爲サントスル金額ニ對シ直ニ其制限ヲ加フルニ於テハ法律ヲ遡及セシムルノ嫌ヒアリトノ見解ニ由來スルモノナリト雖モ此ノ如キハ當時大藏大臣ニ於テ全然贊同スル能ハサリシモノアルカ如シ故ニ左ニ其利息割合ノ協定ニ關スル文書ヲ掲ケ以テ其要領ヲ知ルニ便セン

逓信大臣照會

法律第六十三號郵便貯金條例第五條ニ據リ貯金利息ノ割合別紙勅令案ノ通制定ノ義閣議ニ提出致度尤其割合ハ別段變更ヲ要ス間敷存候ニ付現今通据置候積ニ候又廿四年一月前既ニ預ケ金額五百圓ニ超過シタルモノハ溯リテ新法ノ範圍内ニ引付ケ難キ筋ト存候ニ付其儘据置クヘキ積ニ有之候ヘ共右ノ内一千圓以上預ケ金ニ對シ現今ノ如ク利率ヲ異ニスルハ新法施行後ニ於テハ妥當ナラスト相考候ニ付一般ニ四分二厘ヲ附シ度存候右及御協議候條至急御意見御申越相成度候也

明治二十三年十月廿四日

逓信大臣 伯爵 後藤象二郎

大藏大臣伯爵松方正義殿

(別紙)

勅 令 案

郵便貯金ノ利息ハ明治二十四年一月ヨリ一ヶ年元金百分ノ四分二厘ト定ム

郵便貯金割合之件ニ付逓信大臣ヘ回答

本年法律第六十三號郵便貯金條例第五條ニ據リ利息ノ割合勅令案替發第三四六號ヲ以御協議之趣了承然ルニ二十四年一月一日以前既ニ預ケ金額五百圓ニ超過シタルモノハ新法ノ範圍内ニ引付ケ難キ旨ニ候得共從來ノ郵便貯金ニ關スル成規ハ該法律附則ニ據リ本年限リ廢止セラレタルモノニシテ廿四年一月一日以後ハ更ニ新法ニ據リ候義ハ論ヲ俟タサル義ト存候又利息割合ノ義ハ御意見之通ニテ異議無之候此段御答旁申進候也

明治廿三年十月卅一日

大藏大臣 伯爵 松方正義

逓信大臣伯爵後藤象二郎殿

逓信大臣再照會

郵便貯金利息割合制定ノ件ニ付當省協議ニ對シ乾第四九五號ヲ以テ御回答ノ趣了承然ルニ二十四年一月前既ニ五百圓ニ超過シタル預金ハ新法實施後直チニ該法ニ依ルノ御意見ニ候ヘ共右ニテハ溯リテ既往ニ法律ノ効力ヲ以テハニ相當リ穩當ナラスト存候ニ付矢張前及御協議候通其儘差置ヘク積ニ候此段爲念申進置候也

明治二十三年十一月十日

逓信大臣 伯爵 後藤象二郎

大藏大臣伯爵松方正義殿

貯金利息割合ノ件ニ付逓信大臣へ回答

郵便貯金利息割合制定ノ件ニ付替第三七三號ヲ以テ御申越ノ趣了承然ル處法律第六十三號ノ見解ハ收天第一四七號ヲ以テ申進置候通リニ有之候ヘ共貴省ニ於テ從前ノ分其儘据置カレ候義ニ候ヘハ利率ハ一般ニ年四分二厘ヲ附シ候義當省ニ於テ差支候間千圓以上ハ年三分千圓以下ハ年四分二厘ト被定度此段御答旁申進候也

明治廿三年十一月十一日

大藏大臣 伯爵 松方正義

逓信大臣伯爵後藤象二郎殿

然ルニ此郵便貯金ノ利息割合ハ明治三十一年四月十五日勅令第七十三號ノ公布ニ由リ同月一日以降左ノ如ク改正セラレタリ

勅令第七十三號 (明治三十一年四月十五日)

明治三十一年四月一日以後付スヘキ郵便貯金利息ノ割合ハ一箇年元金百分ノ四分八厘トス

但シ明治二十三年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金千圓ヲ超過シタルモノニ

對スル利息ノ割合ハ一箇年元金百分ノ三分六厘トス

蓋シ從來一人ノ貯金千圓未滿ニ對スル利息割合ハ年四歩貳厘ニシテ千圓以上ニ對シテハ年利三歩ノ割合ナリシヲ前掲ノ如ク昂進セシメタルハ當時世上一般ノ金利既ニ大ニ昂騰シテ從來ノ利息割合ハ爲メニ低率ニ偏スルコト、ナリタルノミナラス二十七八年ノ戰役後官民ノ事業非常ノ速力ヲ以テ行進スルニ伴ヒ勞役者カ得ル所ノ賃金次第ニ増加スルモノアルニモ拘ハラズ郵便貯金ハ却テ其後漸ク減少ヲ告ケ勤儉貯蓄ノ本旨ト相背馳スルノ實況ナリシヲ以テ夙ニ逓信大藏兩省ノ當局者カ其減少ヲ回復セントスルト同時ニ益々貯蓄ノ志念ヲ喚發セシメントスルノ政策ヲ採リ既ニ前年十二月中協定スル所ノ結果ニ由來シタルモノニシテ其協定ニ關スル公文書及特ニ大藏逓信兩大臣カ發シタル貯金ノ獎勵ニ關スル要旨ハ即チ左ニ列舉スル所ノ如シ

今般逓信省郵務局長ヨリ内談有之其主意ハ郵便貯金ニ係ル預金ノ利率ヲ四分八厘(從前ハ四分)ト

致シ預金ヲ増加セシムル爲メニ其取扱場所モ千ヶ所程増設致度此ニツキテハ經費拾萬餘圓増

加スヘキ見込ナルニ付同意ヲ得度シトノ義ニ有之依テ考査候處

一民間ニ預カル所ノ貯金利息ニ對シ郵便貯金利息ノ低ニ過クルコト

一下級民間ニ散布セル多額ノ通貨ヲ吸收シテ左ノ目的ヲ達セシムルコト

貯蓄ヲ獎勵シテ奢侈ノ風ヲ抑ヘ物價ヲ低廉ナラシムルコト

下級民間ニ散布セル資金ヲ集メ之ヲ以テ公債ノ募集ニ應スル等ノコトヲ爲ストキハ間

接ニ生産的ニ運用ヲナシ金融ヲ緩和ナラシムルコト
 右ノ理由ナルヲ以テ郵便貯金ノ預ケ入レヲ増加セシムルタメ之カ利率ヲ引上クヘキコトハ目
 下頗ル必要ノ義ニシテ且之ヲ引上クルトスルモ別紙計算ノ通預金部ニ於テハ損失ナク郵便貯
 金ヨリ生スル所ノ收入利益ノ内ヲ以テ支辨シ得ヘキ計算ニ候間郵務局長内談ニ同意シ其相談
 ヲ爲スヘキ事ニ致シ候テ可然乎此段豫メ相伺置候也
 但本文利子引上ノコトハ目下金融市場ノ情況ニ依リ止ヲ得サル義ニ有之候他日市場ノ金利
 下落セシトキハ引下ケ候積リニ有之候也

郵第一四八四號遞信大臣照會

郵便貯金ハ本年十一月末日現在預リ高貳千七百拾八萬六千九百六拾九圓ニシテ之ヲ明治廿九
 年十一月末日ノ預金現在高貳千八百八拾壹萬千六百拾圓ニ比スレハ百六拾貳萬四千六百四拾
 壹圓ヲ減少シ實ニ五分六厘四毛ノ減少ヲ來セリ從來ノ實況ヲ觀レハ廿八年以前五ヶ年間ニ於
 テ年々七分四厘貳毛ノ平均増加ヲナシ來リシニ拘ハラヌ二十九以後ニ於テ斯ノ如キ減少ヲ
 見ルニ至リタルハ種々ノ原因アルヘシト雖モ蓋シ利子ノ割合民間預金利子ノ割合ニ比シ低廉
 ナルコト其主タルモノナルヘシ依テ相當ニ利率ヲ高ムルノ必要有之候ニ付來ル三十一年一月
 ヲリ右利率ヲ四分八厘ニ改正相成度見込ニ有之御同意ニ有之候ハ、更ニ閣議案提出可致候條
 至急御回報有之度此段及御協議候也

明治三十年十二月廿五日

大藏大臣 伯爵 松方 正義殿

遞信大臣 子爵 野村 靖

追テ貯蓄獎勵上預拂ノ便ヲ與ヘンカ爲メ貯金取扱局所増設ノ必要有之候ニ付經費等之義追
 テ御協議可及義ト御承知置相成度此段申添候也

大藏大臣回答

郵第一四八四號ヲ以テ來ル三十一年一月ヨリ郵便貯金ニ於ケル利率ヲ四分八厘ニ引上方ノ
 義ニ付御協議ノ趣致承知候右引上方ハ目下金融市場ノ情況ニ依リ止ヲ得サル義ニ有之候得
 共他日市場ノ金利低落セシトキハ之ニ伴ヒ引下候積ニ付此主意ヲ以テ御來示之通引上ノ義
 ニ御同意可致候此段及御回答候也

明治三十年十二月廿五日

大藏大臣 伯爵 松方 正義

遞信大臣 子爵 野村 靖殿

追テ貯金取扱所増設ニ係ル經費ノ義御追申ノ趣是又承知致候也

大藏大臣ヨリ廳府縣長官ヘノ書面

拜啓陳者日清戰役以來本邦ノ經濟事情ニ著シキ變動ヲ來シ外國貿易ノ上ニ於テモ未曾有ノ輸
 入超過ヲ見ルニ至リタル事ハ夙ニ御聞知ノ事ニ有之候右ハ固ヨリ種々ノ原因ニ本ケルモノニ
 有之候得共戰後官民事業非常ノ速力ヲ以テ進行シ其結果職工人夫等勞働者ノ需要急激ニ増加
 シ賃銀モ亦從テ騰貴シタルカ爲メ是等ノ人民ニ於テ著シク所得ノ増加ヲ來タシ購買力ノ増進
 ヲ見ルニ至リタルコトモ亦其原因ニ有之ト被存候固ヨリ社會ノ進歩スルニ伴テ生計ノ程度上
 進スルハ自然ノ趨勢ニシテ喜フヘキ事ニ有之候得共若シ急劇ニ失シ且其度ヲ超ヘテ奢侈ニ流
 ル、カ如キコト有之候ハ、其結果タル或ハ同盟罷工等續々相起ル弊害モ生シ經濟上頗ル憂フ

へキコトニ有之候殊ニ所謂戰後ノ勃興事業ナルモノハ到底今日ノ有様ニテ永久打續クヘキモノニ無之候へハ若シ之カ爲ニ増加セル所得ヲ徒ニ浪費シ了ラシムルカ如キコト、有之ニ於テハ他日右等ノ事業終局ヲ告クルニ至リテ非常ノ困難ニ陥ラシムルコト、相成候現ニ三十年度以降數年間ニ於テ官民事業ノ爲メ職工人夫等ニ仕拂フヘキ金額概算壹億四千餘萬圓ノ巨額ニ上ルコトニ有之候へハ右等ノ人民ヲシテ可成貯蓄ノ精神ヲ養成セシメ以テ不必要ナル消費ヲ省キ且ツ他日ニ備ヘシムルコトハ國家經濟上ニ於テハ勿論彼等自身ニ於テモ大ニ利益アルコトニシテ應サニ目下ノ急務ニ有之今回勅令ヲ以テ郵便貯金利率引上ケノコトヲ公布相成又遞信省ニ於テモ之カ取扱所ヲ増設シ且ツ其取扱手續ヲ簡易ニスルノ方針ヲ執ルニ至リシモノ畢竟右等ノ主意ニ本ケルモノニ外ナラス候貴官ニ於テモ此際深ク御注意相成候而郡長等ニ内諭シ特ニ管内人民ヲシテ貯蓄銀行若クハ右郵便貯金又ハ各自ノ確實ト信スル方法ヲ以テ可成貯蓄ヲ實行セシムル様獎勵方御注意相成度尤右ハ命令ヲ以テ施行スヘキ性質ノモノニ無之コトハ勿論ニ候へハ此邊御舍ノ上適當ナル方法手段ヲ以テ勸誘相成度此段得貴意候敬具

明治三十一年四月廿七日

井 上 馨

北海道廳長官

各府縣知事 宛

参照

郵第一四七六號

一等郵便電信局長

我邦郵便貯金ノ發達ハ之ヲ歐洲諸國ニ比スルニ其及ハサルヤ頗ル遠シト雖モ創業以來年々多少ノ増進ヲ見ルニモ拘ハラズ近來ノ如ク著シキ減少ヲ來シタルハ未タ曾テ之レ有ラサルナリ熟々其由來スル所ヲ考フルニ民間貯蓄銀行ノ續出シタルニ因ルコト少ナカラスト雖モ亦戰後各般ノ事業俄ニ勃興シ勞働者ノ需要頓ニ増加シ爲メニ此等人民ハ容易ニ多額ノ勞銀ヲ得ルニ至リタルヲ以テ從テ得レハ從テ浪費スルノ弊ヲ增長シタルコト其一大原因タラスンハアラス若シ之ヲ今日ノ儘ニシテ看過センカ其國家經濟ノ上ニ及ホス所ノ害毒頗ル大ナルノミナラス異日經濟社會ニ變動アルニ當リ彼等ハ忽チ非常ノ困厄ニ陥リ復々救フ可カラサルニ至ラン果シテ然ラハ下層社會ニ向ツテ貯金ヲ獎勵シ以テ他日ノ備ヘヲ爲サシムルハ實ニ刻下ノ急務ト云ハサル可カラス故ニ曩ニ郵便貯金利率ノ割合ヲ改正セラレ今又將ニ其取扱手續ヲ簡約シ貯金取扱局所ヲ増設シ取扱時間ヲ延伸シ以テ益々預入ヲ爲ス者ノ利便ヲ擴充セントス各官能ク此意ヲ部内各局所ニ示達シ勉メテ郵便貯金ノ發達ヲ圖ル可シ此旨内訓ス

明治三十一年四月廿七日

逓信大臣 男爵 末 松 謙 澄

而シテ官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金及社寺教會々社其他人民ノ共有ニ係ル積立金ノ利率割合ハ此年八月ニ至リ郵便貯金ト同シク其利率ヲ昂進セシメ同年九月一日ヨリ實施セリ其決定及廣告ハ即チ左ノ如シ

從來郵便貯金ニ係ル貯金利率ノ割合ハ預金規則第一條ノ第二項第三項預金ニ於ケル利率割合ト全一ニ有之候處郵便貯金利率ノ割合ハ本年四月ヨリ一ヶ年元金百分ノ四分八厘千圓ヲ超過シタルモノハ一ヶ年元金百分ノ三分六厘(明治二十三年十二月末日)ニ引上ケラレ候間權衡上預

金規則ニ係ル當省預金部ノ預金出納官吏身元保證金ノ保管金利息トモ郵便貯金ノ利息ト全様引上ケ候方當然ノ義ト被存候間左ニ利息改正廣告按ヲ具シ此段相伺候也

廣告

當省預金部ニ係ル預金利息割合ノ義ハ明治三十一年九月一日以降左ノ通り改定ス
元金千圓未満ノ利息 壹ケ年百分ノ四分八厘
元金千圓以上ノ利息 壹ケ年百分ノ三分六厘
明治卅一年八月十五日

大 藏 省

然ルニ預金中明治三十二年法律第七十九號軍艦水雷艇補充基金特別會計法同第八十號教育基金特別會計法及同第八十一號災害準備金特別會計法ノ公布ニ由テ寄托ヲ受クヘキコト、ナリタル特種ノ預金ニ對スル利息割合ニアリテハ該金利殖ノ方法ト共ニ當時閣議ノ決定スル所ニシテ各其定率ヲ異ニシ即チ其教育基金ノ利息ハ年利五歩、災害準備基金ノ利息ハ年利四歩五厘ニシテ軍艦水雷艇補充基金ノ利息ハ年利壹歩七厘五毛以內タリ而シテ其閣議案等ハ左ノ如シ

閣 議 案

今般軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金ヲ設置シ償金殘額ノ內ヨリ軍艦水雷艇補充基金ヘ參千萬圓教育基金、災害準備金ヘ各千萬圓ヲ繰入レ大藏省預金ニ寄托シ利殖スルコト、ナレリ依テ預金部ニ於ケル之カ利殖ノ方法ヲ案スルニ
一 軍艦水雷艇補充基金ノ部

軍艦水雷艇補充基金ハ專ラ金貨ヲ以テ其必要ニ應シ支出スルコトヲ要スヘキモノナレハ之カ準備トシテ貯藏ス可キモノハ亦金貨ナルヲ可トス然レトモ若シ全ク金貨ノミヲ以テ保有スル時ハ毫モ利殖ノ餘地ナキカ故ニ左ノ方法ニヨリ之ヲ運用シ以テ幾分ノ利殖ヲ計ラントス

一金參千萬圓

軍艦水雷艇補充基金
預金寄託高

內

金千五百萬圓

外國ノ確實ナル公債
ヲ買入レ保有ス

外國ノ確實ナル公債ニ投資スレハ之ニ對シテ凡貳分餘ノ利息ヲ得ヘキヲ以テ預金部ニ於テモ亦年貳分ノ利息ヲ付スルコトヲ得ヘシ

金千五百萬圓

內國ニテ金貨ヲ以テ
預金部ニ貯藏ス

但確實ナル利殖ノ方法トシテ時機ニ依リ日本銀行ヘ預入レ運用ニ供スルコトアルヘシ然レトモ此場合ニ於テ若シ同行兌換券ノ正貨準備ニシテ凡九千萬圓以內ニ減縮シ此預ケ入金貨ノ安固ヲ缺クノ虞アルトキハ直チニ之ヲ回收シテ預金部ニ戻入ス可シ而シテ目下ノ景況ヨリ推考スルニ此預ケ入ニヨリテ日本銀行ヨリ最高百分ノ一半以上ノ利息ヲ徵スルコト難キカ故ニ預金部ノ仕拂フヘキ利息モ其ノ額ヲ超過スルコト能ハス
右二個ノ方法ヲ併用スルモノトシ軍艦水雷艇補充基金ニ對スル預金部ノ利息ヲ算出スレハ平均一箇年壹分七厘五毛以內タルヘシ

二 教育基金ノ部

教育基金千萬圓ハ元資ヲ運用シ單ニ其利息ヲ以テ處要ニ應スヘキモノナルヲ以テ預金部ハ之

ヲ大日本帝國政府五分利公債ニ投資シテ利殖ノ途ヲ講セントス故ニ同部ヨリ教育基金ニ對シ仕拂フ利子ハ一箇年五分トナサントス

三 災害準備基金之部

災害準備基金千萬圓ハ大日本帝國政府五分利公債ヲ以テ利殖セントス此基金タル災害アルニ當リテ之カ支出ヲ要シ豫メ其需要額ヲ測定スルコト能ハス故ニ其必要ニ際シ預金運用ノ公債ヲ賣却シテ其急ニ應セサルヲ得ス爲メニ或ハ幾分ノ損失ヲ免ル、コト能ハサルニ依リ凡一箇年千分ノ五ニ相當スルモノハ之ヲ損失補填ノ準備トシテ預金益金ニ加入シ預金部ヨリ災害準備基金ニ對シ仕拂フ利子ハ一箇年四分五厘トナサントス

以上ノ方法ニヨリテ收得スヘキ利子ハ時ノ景況如何ニヨリ増減アル可キヲ以テ預金部ニ於テ各基金ニ對シ仕拂フヘキ利子歩合モ臨機變更セサル可ラス

右三基金ハ前ニ列擧スル所ノ方針ニ從ヒ之カ運用利殖ヲ爲サントス

右閣議ニ提出ス

明治三十二年六月七日

大藏大臣 伯爵 松方正義

明治三十二年六月七日 官秘第五五一號

軍艦水雷艇補充基金、教育基金、災害準備基金利殖方法ニ關スル件請議之通

明治三十二年六月十四日

内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋

尋テ九月二十五日ノ決定ヲ以テ其軍艦水雷艇補充基金ノ利子割合ヲ年利壹歩五厘ト爲セリ其決定ハ即チ左ノ如シ

軍艦水雷艇補充基金ニ付スル利子額ノ件

大藏省預金ニ寄托スル軍艦水雷艇補充基金參千萬圓ハ預金部ニ於テ其一半ハ金貨金地金ヲ以テ貯藏シ其一半ハ外國ノ確實ナル公債ニ投資シ時機ニ依リ金貨金地金ハ日本銀行へ預入ル、コト、相成候而シテ之レヨリ得ル處ノ利子ハ金貨ノ分ニ對シテ壹分五厘以内外國公債ノ分ハ貳分程ト可相成ニ付預金部ヨリ該基金ニ付スル利子ハ平均シテ一箇年壹分七厘五毛以内ノコトニ閣議御決定有之候處債金部ノ都合ニ依リ外國ニテ運用スルモノニ對シテハ四分利公債ヲ以テ繰入ノコトニ御決裁相成候ニ就而ハ明年末迄ニハ之ヲ賣却シテ英國整理公債ニ買ヒ換フル必要モ有之我四分利公債ヲ賣却シテ英國公債ヲ買入レ置クヲ必要トスルハ國家有事ノ日迅速ニ賣却スルニハ英國公債ヲ所有スルヲ最便利ナリトスルヲ以テナリ且金貨金地金ノ日本銀行へ預入ノ分ニ對シテハ當分ノ處同行ヨリ一分二厘五毛ニ超越シタル利子ヲ徴シ兼候而已ナラス日本銀行ノ都合上一時ニ多額ノ預入ヲ爲ス能ハサルノ事情モ有之候ニ付之ヲ見込利子ノ損益ヲ計算スルトキハ別紙甲號調書ノ通ニシテ基金ニ對シ預金部ヨリ一分七厘五毛ノ利子ヲ付セハ將來英國整理公債ヲ賣却スルニ當リテ損失ヲ生スルトキハ之ヲ補填スルノ餘裕無之候而シテ之ヲ賣却スルニ際セハ市場ノ景況ヲ參酌致シ難ク候間購入價格已上ニ賣捌クコトハ到底覺束ナキ義ト被存候ニ付豫メ之カ損失補填ノ準備ヲ見込マサルヲ得サルニ依リ右閣議ノ範圍内ニ於テ別紙乙號調書ノ通預金部ヨリ軍艦水雷艇補充基金ニ付スル利子ハ當分ノ内一ヶ年一分五厘ト御決定相成可然哉右仰高裁候也

但最初ノ閣議ハ年利一步七厘五毛以内ト有之ニ付此際一步五厘トナスモ別ニ報告ニハ及間

敷ト存候

軍艦水雷艇補充基金ニ對スル利息割合ハ從來年利一步五厘ノ取扱ナリシヲ明治三十四年十一月ニ至リ閣議ノ決定ヲ以テ硬貨ヲ以テ預金部ニ保有スルコトヲ要スル金額一千萬圓ヲ無利子ノ取扱トシ殘餘金二千萬圓利息元加高共ニ對シテハ年利四步五厘ノ割合ニ改メ明治三十五年度ヨリ之カ實行ヲ見ルニ至レリ右閣議決定書ニ依レハ軍艦水雷艇補充基金補填ノ上ハ云々トアリ而シテ同基金補填ハ明治三十五年三月末日ヲ以テ施行ノ計畫ナリシカ都合アリテ同年十一月ニ至リ實行セラレタルヲ以テ一般會計ヨリハ同基金費消當時ヨリ明治三十五年三月迄ハ舊利率即年一步五厘ノ割ヲ以テ又同年四月ヨリ十一月迄ハ新利率即年四步五厘ノ割ヲ以テ費消基金二千萬圓ニ對スル利息ヲモ併セテ補填セリ故ニ預金部ハ此補填額即預金額ニ對シテハ補填實行ノ翌月即明治三十五年十二月ヨリ閣議ノ趣旨ヲ實行セシモノナリ

閣議案

曩ニ明治三十五年度概算ヲ決定スルニ際シ第十五議會ニ於ケル増稅收入二千百萬圓ハ其儘清國事件費ニ充用ノ見込ヲ以テ經畫致シ候處其後愈々明年度所要ノ清國事件費ノ見込モ略ホ相立候ノミナラス清國賠償金モ明年度ニ於テ四分利付債券ヲ以テ國庫損害高ニ對シ約四千七百五十萬圓ノ賠償ヲ受クヘキ運ニ立至ルヘク而シテ右債券ノ交付ヲ受ケタル上ハ時價八十圓ト見積リ之ヲ預金部ニ引受ケシムルモノトスルトキハ其換算額三千八百萬圓トナルニヨリ之ヲ増稅收入ト併算スルトキハ三十五年度歳入ニ於テ換算決定額ニ比シ凡五千九百萬圓ノ殘餘ヲ生スヘキ計算ニ有之候就テハ右歳入額ハ別紙計算書ノ通り清國事件費基金補填清國事件費償

却ノ爲メ國債償還及公債支辨事業費ニ振替使用セントス右ハ目下豫算編成ニ際シ差懸リ居候事柄ニ付至急御決定相成度候
右閣議ニ提出ス

追テ軍艦水雷艇基金ヲ補填ノ上ハ内一千萬圓ハ硬貨ニテ保有シ殘二千萬圓ハ預金部ニ於テ普通ノ運用ヲナシ軍艦水雷艇基金部ヘ對シテハ一ヶ年四步五厘ノ割合ヲ以テ利息ヲ仕拂フコト
以上本節ニ掲クル所ハ明治十八年七月一日預金規則施行以降同三十五年度ニ至ル期間大藏省預金局又ハ日本銀行カ仕拂執行シタル各種ノ預金利息割合ニ關スル事歴ノ概要ナリ左ニ二表ヲ添付シテ以テ其割合ノ沿革ヲ示スヘシ

預金規則施行以降ノ預金利息割合沿革表

種類	年次	事由		預リ高ニ對スル年利割合	預リ高千圓未ニ對スル年利割合	預リ高千圓以上ニ對スル年利割合	五百圓マデニ對スル年利割合	二百五十圓以下ニ對スル年利割合
		自	至					
郵便貯金	由	自	至	〇	六分	四分八厘	〇	〇
		自	至	〇	〇	〇	四分八厘	三分六厘
		自	至	〇	〇	〇	四分二厘	三分
		自	至	〇	四分二厘	三分	〇	〇
		自	至	〇	五分四厘	四分	〇	〇

